大正七年八月廿五日

關西建築協會雜誌

第一輯第十号



關西建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ隆昌ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ關西建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ貫徹シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス

贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身贊助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身贊助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通贊助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ憂過及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ說會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ會員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　主記ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主計　一名

二　編輯　二名

三　編輯補助　若干名

四　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員ト爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一　建築ニ關スル諸般ノ事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金貳拾圓ヲ本會ニ提出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ハ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出タルトキハ財務前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金貳拾圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別贊助員ハ特別贊助費年額金六拾圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助費年額金參拾圓ヲ本會ニ前納スルコトヲ得

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ管理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

大阪煖房商會
大阪電氣商會

營業課目

房暖氣電。燥乾。生衛。風通。房暖

工事計設請負

昇降機及リフト製作販賣

電氣諸機械材料販賣

電氣工事監督及計設請負

大阪電燈製作所品委托販賣

工事代理

大阪電燈株式會社

大宇治川電氣株式會社

日本電氣株式會社

名古屋電氣株式會社

本店

大阪市西區江戸堀一丁目三通南

電話 土佐堀 四四一一 四四五六 長

出張所

東京市京橋區西紺屋町五

電話 京橋 二〇三六 長

名古屋市東區東本重町二丁目

電話 二六二三 長



關西建築協會雜誌 第壹輯 第十號

目次

口繪 大阪難波橋北畔より船場一圓を見る(三色版)
巴里の誇(一)(二)三)(四)(五)(六)(七)(八)(九)(十)(十一)(十二)
都市建築の今昔(十六)

△社會政策的都市經營……會員 片岡安……一
△都市計畫より見たる遷都(上)……會員 片岡安……二
△最近の大阪港(三)……大阪市役所 港灣部……一六
△覺めたる聲(上)……大阪市役所 港灣部長 直木倫太郎……三三
△本邦森林と建築用材に付いて(四)……會員 谷民藏……四五
△都市と建築……會員 都市研究生……五六
□三十年後の大阪(二)……五六
□帝都雜觀……六〇
△女流の住宅觀……六四
□在來の住宅を改良して……侯爵嗣子夫人 西園寺新子談……六四

□間取りの注文……日本女子大學校教授　手塚かね子談・六七
□衛生上より見たる住宅建築……東京女子醫學專門學校長　吉岡彌生談・七〇
△亞米利加の田園住宅（三）……會員　谷本多喜治・七三
△米國に於ける職工住宅經營法（二）……會員　葛野壯一郎・八二
△東大寺建築史（四）……會員　須藤眞金・八九
△佛寺建築の將來（四）……會員　波江悌夫・九八
△淀の流……會員　澱水生一〇三
△神戸市榮町に於ける火災に就いて……會員　第四部委員會一〇五
△時報……一一一
中米グワテマラ市の大地震（一）（二）
△會報……一二〇
△編輯たより

附錄

△巴里建築條令……一二頁
口巴里市街地圖

石綿盤
六甲瓦
其他屋根材

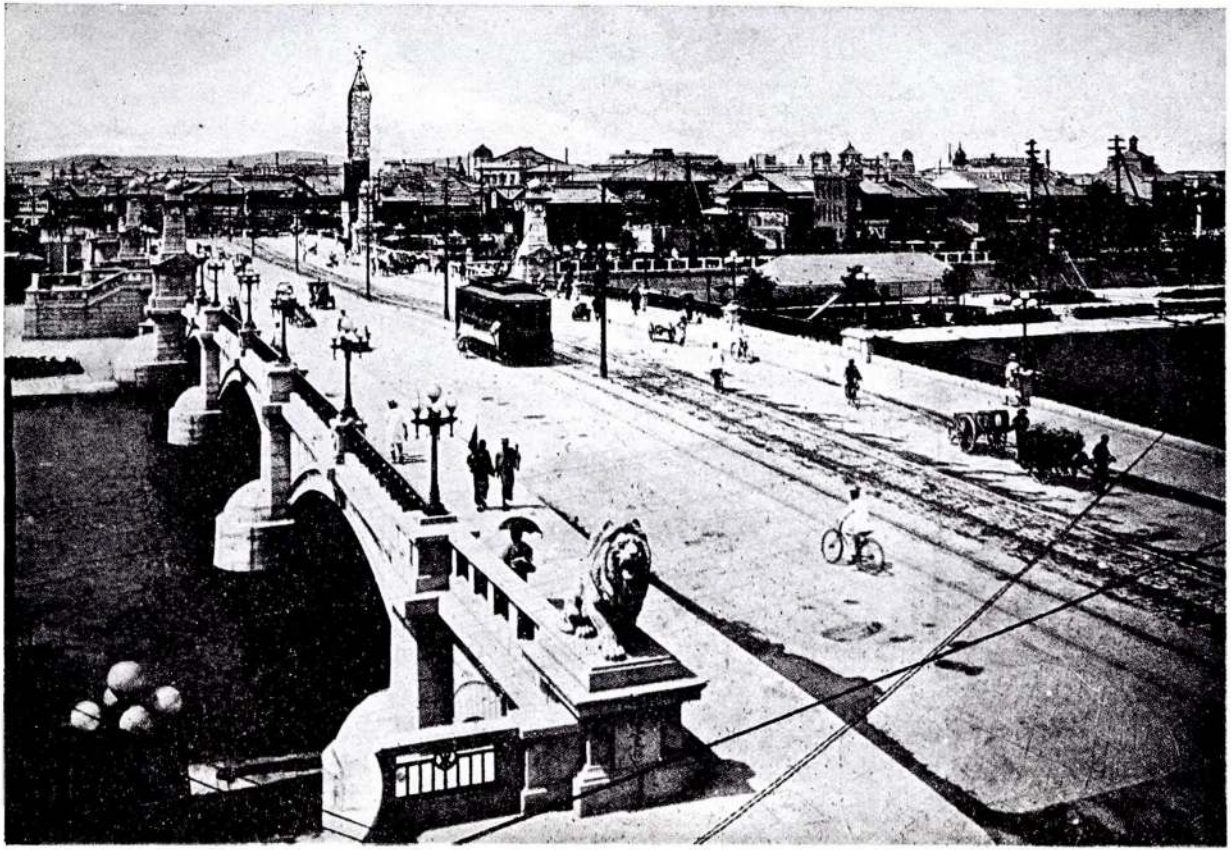
神戸市北長狭通三丁目
野澤幸三郎商店
電話三ノ宮一九六九番

水道専門

◎衛生工事
◎木管工事
◎鑿井工事
◎竹管工事
並ニ測量

設計等誠實安價ヲ旨トシ御依賴ニ應ズ

井上水道工務所
大阪市東區內久寶寺町二ノ二八
電話南四二一四番

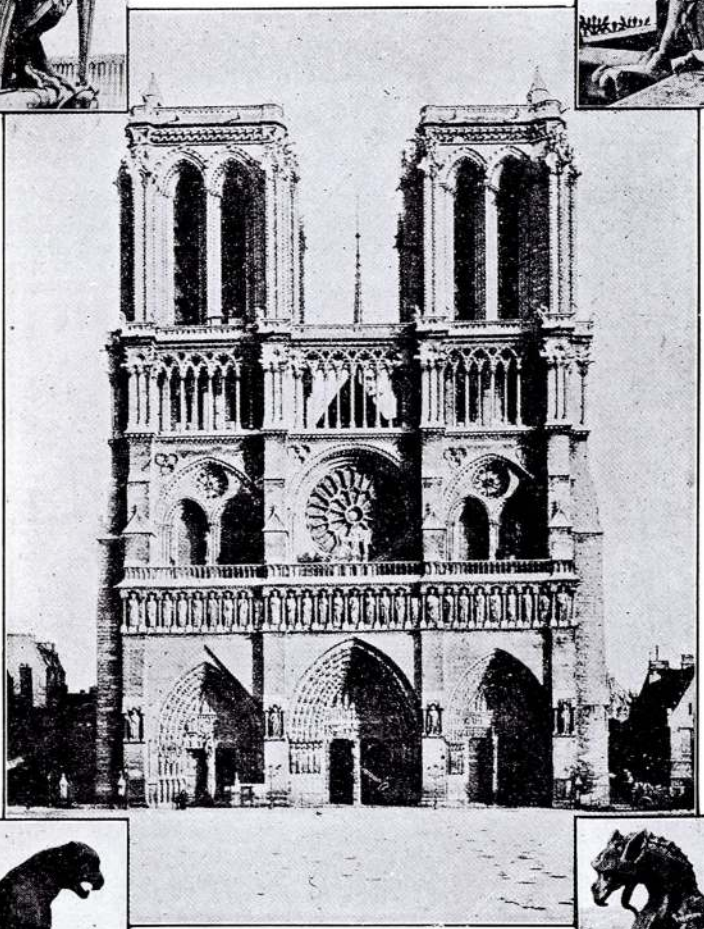


大阪難波橋北畔より船場一圓を見る

巴里の誇　（其一）







巴里の誇の隨一はノートル・ダーム寺であらねばならぬ。この舊教派の大本山は一一六三年ムウフス・デー・スウレイ大僧正の發願でポープアレキサンダー第三世先導の下に柱建の儀式を擧げられた。

爾來喜捨金の澁滯、工事の艱難、革命暴動等のために進捗を妨げられ殆んど三百年からの歳月を費してゐる。後更に屢々改築修理を重ねて一八四五年に至つて此大寺院は完成せられた。





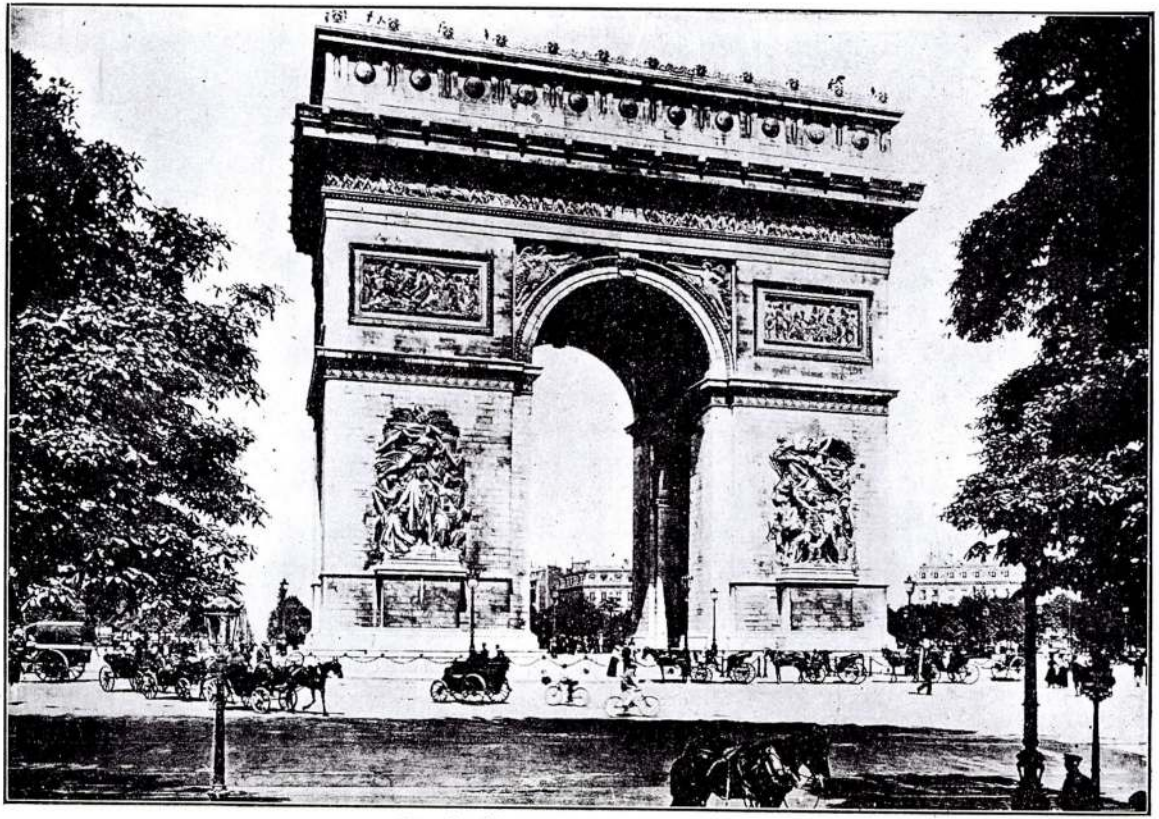
巴里市ノートル・ダーム寺

巴里の誇（其二）



パンテオン

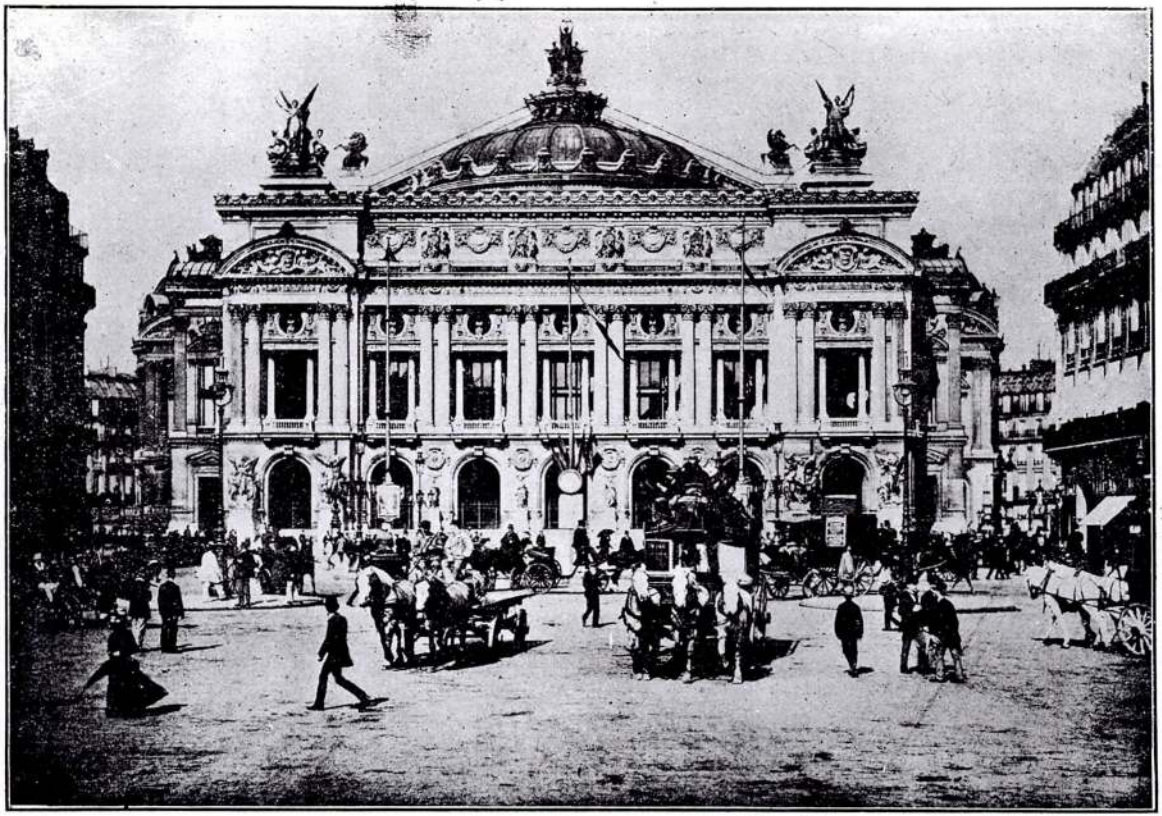
セーヌ河の南方、古セント・ゼネヴイヴ高地に在る、一七六四年から一七九〇年の間に、巴里の守護神セント・ゼネヴイヴに奉納の趣旨を以てこの建築は出來た。一七九二年名譽ある國士を葬りたる神廟と定められてから多少の變遷はあつたが一八八五年文豪ユーゴー此處に葬られてから復合祭廟となつてゐる



エトアールの凱旋門

一八〇六年奈翁一世は計畫並びに設計を擧げて時の建築大家チヤルグリン氏に托したが一八三六年の七月に開通式を行つた位であるからあはれ奈翁は其完成を見ることが出來なかつたのである。巴里市街十二通路の起點に在つて其大さ高百六十三呎幅百四十七呎奥行七十三呎である

巴里の誇（其四）



巴里市グラン・オペラ

世界有名の歌劇場にして規模の壮、装飾の麗共に宇内に冠絶してゐる。一八六一年起工し一八七四年竣成す。チャルス・ガーデナー氏の設計に係る。工費實に千八百四十萬圓オペラ通りの突當にあつて地の利を得て殊に其美を發輝して居ること夥しい

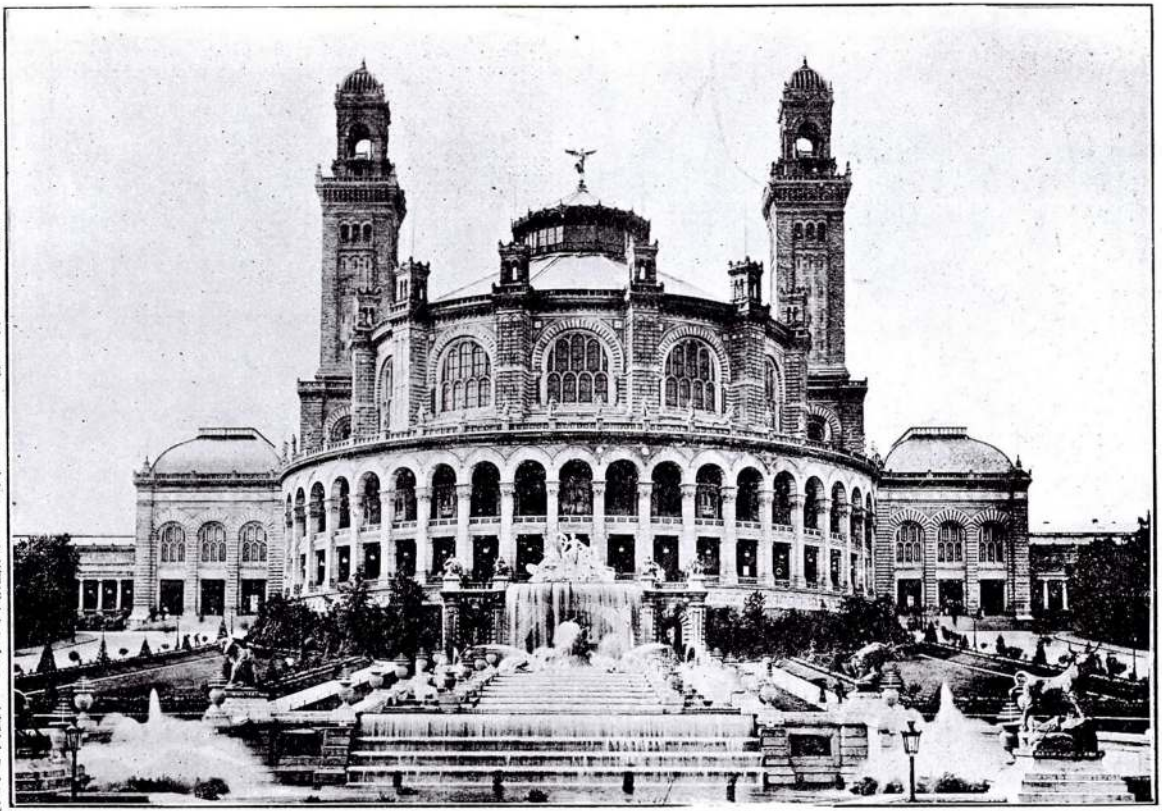
巴里の誇（其五）



エッフエル塔

設計者の名を冠した此摩天閣は一八八九年の世界博覽會（寫眞は當時の光景）に建築せられたもので誰知らぬものもない。米人が此の高塔を完成するに努力して居るのも面白い工費貳千五百萬圓、鐵材實に九千六百萬斤、高九百八十四呎の此高塔は今や軍國の使命を帶びて武裝してゐるのだ世の中は變れば變るものである

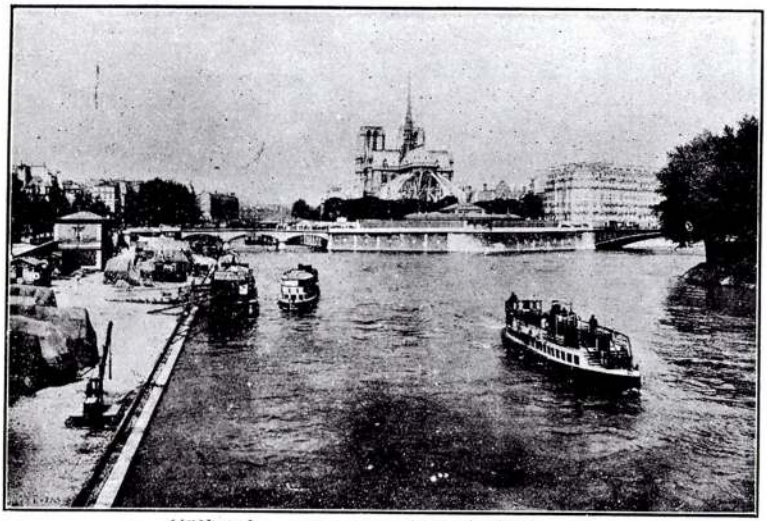
巴里の誇（其六）



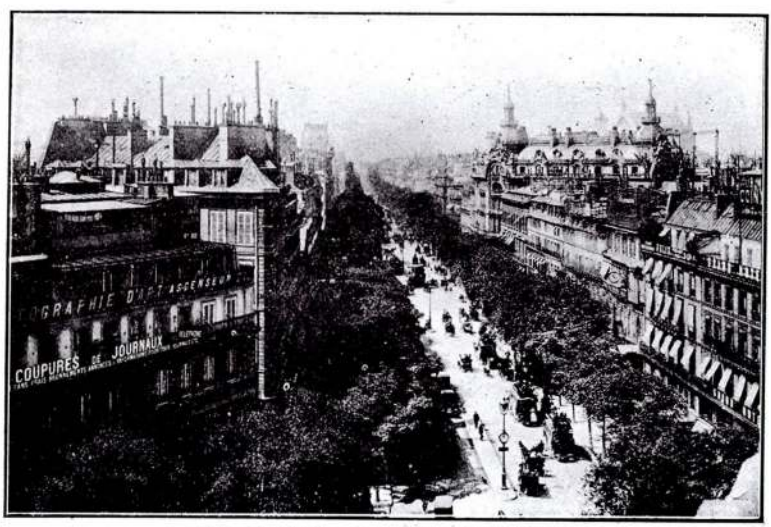
トロカデロ博物館

これも一八八九年世界博覽會の記念建築である。本館には東蒲寨博物館、人種博物館比較彫刻館及び圖書館を包容し「饗宴の間」は優に六千人を容れ得べく、又地下室は水族館となつて居る蓋し巴里市民に必要な誇の一である

巴里の誇（其七）

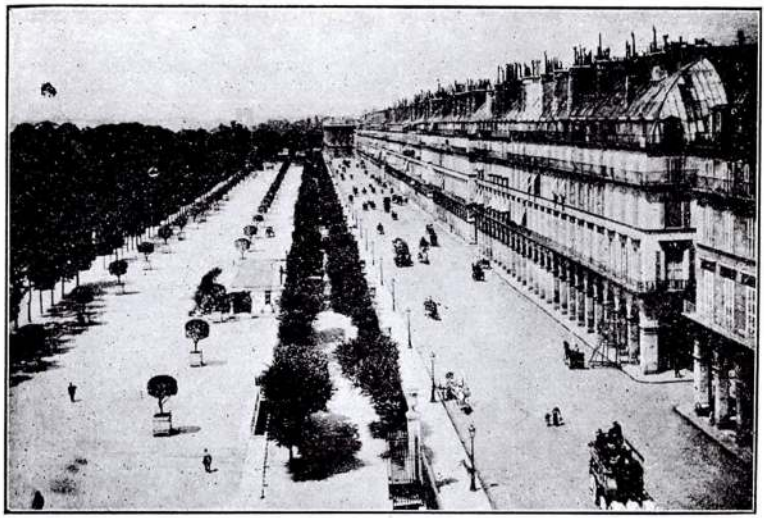


セーヌの流（中央はノートルダーム寺の遠望）

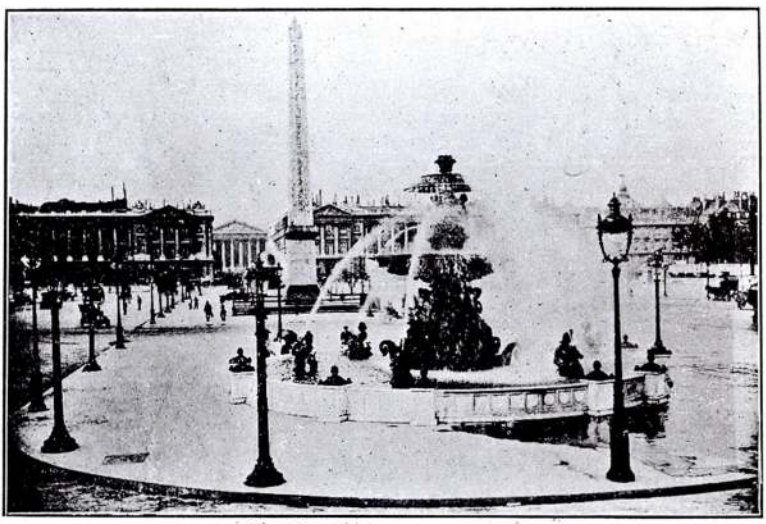


歡樂の町ブールヴアール・イタリアン街

巴里の誇　（其八）

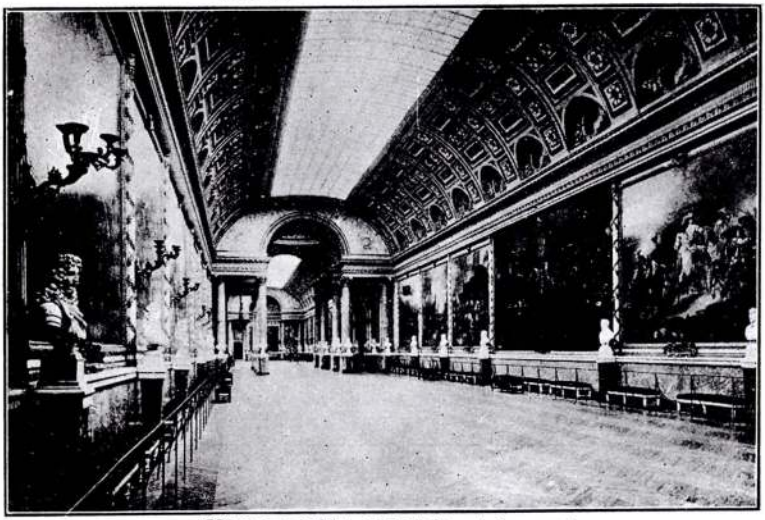


サンゼルマン大通

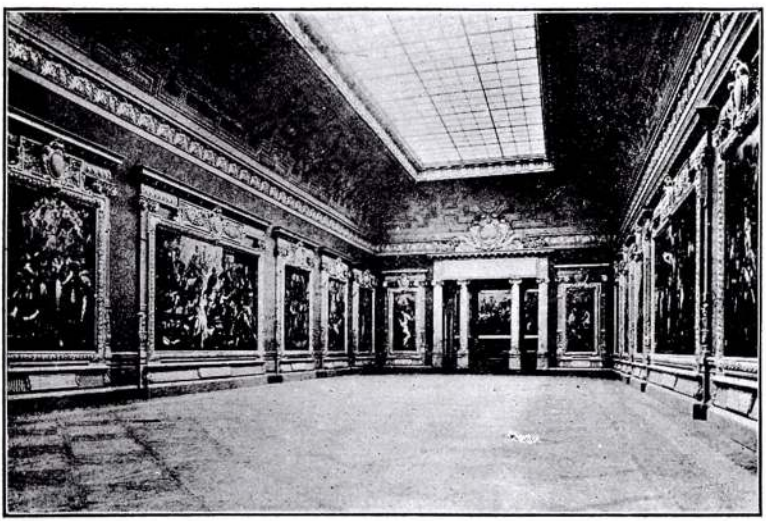


コンコード廣場

巴里の誇（其九）

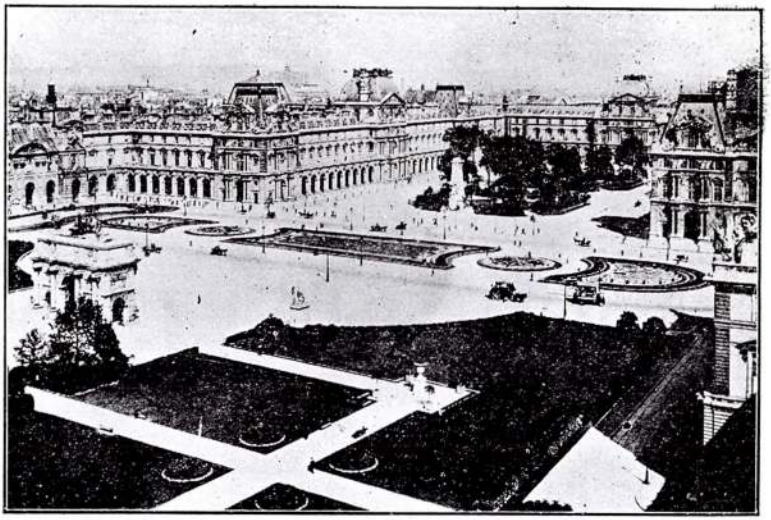


「間廣大の爭戰」の內殿宮ユイサルエヴ



房畵スンベウユリの內館物博「ルブール」

巴里の誇（其十）



ルーヴル博物館の前庭



グランパレーの外觀

巴里ノートルダム寺の怪像

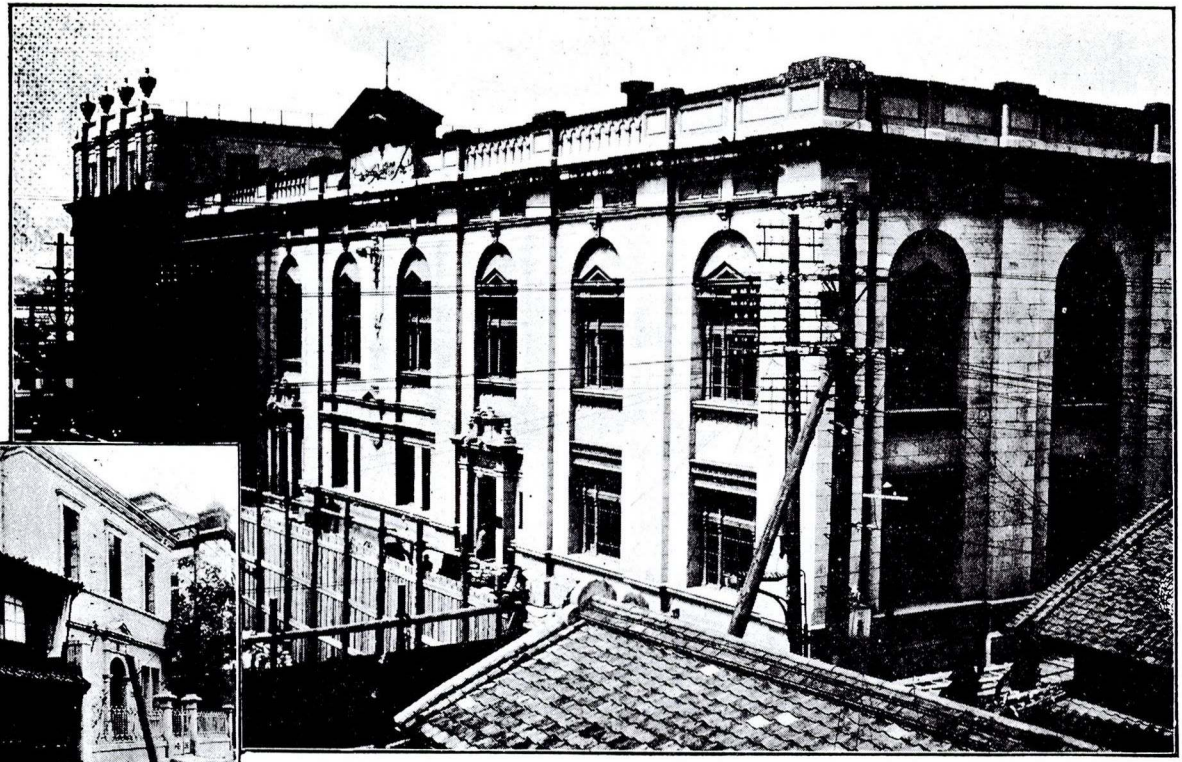








巴里の中の島の一角に建つ大寺は其正面を西へ向けてゐる。結構頗る壯嚴雄大であつて現代人をして無限の尊崇を拂はしめる、三階の廻廊の欄干にある怪獸奇鳥の石材彫刻の如きは、實に十三世紀時代の傑作である作者は不明であるが此等の美術品の宿せる靈は二十世紀の巴里を永へに睥睨してゐるのである



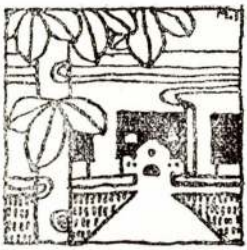
三井物産會社大阪支店(高麗橋通)

同社舊館(在中之輔)



都市經營的政策社會

現代文明の著しき特徴は都市の堅實なる建設と其經營の社會政策的施設にありと言ふを得べし。近時の驚くべき經濟力の增進や應用科學の日に新なる發達は文明國民の生活をして益都市集中に赴かしめ、民衆的傾向を其間に發揮するを以て理想となすを一般の風潮となすに至れり。都市の文明的建設にはあらゆる科學の應用を必要となす如く、其經營には社會改良の精神を離れては何事も其成績を擧ぐる能はざるなり。然るに之を我國の現狀に見る時は未だ其傾向の著しきものあるを知らず、都市の文化的建設に後れたるはまだしも、社會政策的施設の点に於ては殆んど研究さへも其緒に就かざるの狀況なり。今や世界の强國は互に武力を發揮して其國家的優勝を爭ひつゝありと雖も、其內實たる社會改良の政策に至つては更により以上重大なる問題として囑目せられつゝあるを知る時は、吾人は東洋の地理的孤獨に據ればとて、現狀の如き桃源の夢想に近き因襲的態度は決して我國の前途に幸福を與ふるものにあらざるべし、都市經營を以て單純なる下級行政と見做すの士は大に覺醒すべき時にあらずや。



都市計畫より見たる遷都（上）

會員　片岡安

一　緒　論
二　我國遷都の由來
三　明治維新の遷都
四　帝都としての淀河流域
五　大陸遷都論
六　結　論

一　緒　言

近時勃興したる我國の都市計畫の輿論は近代文明必然の趨勢にして、其實現の程度に大小緩急こそあれ、各都市共に早晩其舊來の面目を一新すべきは睹易き狀勢である。殊に我帝都たる東京を始め經濟上主要なる位地を占むる大阪、京都、名古屋、神戸、横濱等の重要都市は現在已に其發展の著しきに苦しみつゝあるの狀況にして、來るべき今後の大發展に對する準備計畫の如きは未だ全く其方針さへも決定して居ないのである。吾人が我國都市將來の爲めに一刻も早く其將來に對する計

畫を確立せしめんことを高唱するのは必ずしも之を杞憂とのみ見る譯にゆかない。輿論は遂に此理數を了解して吾人の聲明に共鳴し、政府當局も亦此時勢を看取して我國主要都市に市區改正條例を布くことを提案し、今や法律となりて計畫の確立次第其實施を斷行せしめんとするに至つたのは、吾人の甚だ滿足するところである。乍併更に詳しく其內實を點檢する時は、官民共に唯大勢の己むを得ざるを會得したるまでに過ぎずして、都市計畫の眞髓を理解し其れに對する方針或は更に進んで其計畫の內容にまで立入りて之を研究せんとするもの丶餘りに僅少なるには驚かざるを得ない、今般內務省內に置かれたる內相を會長とせる都市計畫調査會委員の如きも、各省を代表せるものを網羅し又專門學者の權威を集めたのであるにも拘らず、實際我國の都市計畫會議の最高幹部としては其豫備的智識を有すること餘り深からぬのを遺憾とする。之れ全く我國過渡文明の缺陷の一發露であつて今更之を咎めても詮なきことである。むしろ互に其缺陷に氣付きて大に奮勵努力以て其豫備的智識を磨き一致協力して最善の計畫を立て、一般の都市民を指導したならば却て禍を轉じて福となすの機會となるであらう。

都市計畫の關する方面は寔に廣汎にして其內容の充實、外延的の擴大に伴ふ交通、衞生、風紀、防備及美觀等の計畫より其行政的施設、立法上の處理及財源の研究等殆んど現代の科學を全部綜合して其調和を計らざれば到底適切なる解決法を見出し得ない程複雜を極めたものなるは、敢て吾人の呶々するまでもなきことながら、吾人は今茲に主題として又我帝都の將來の爲めに、それ等の各種の問題に超越する先決問題を提供し、都市計畫關係者及一般先覺者に愬へて見たい。即ち近き將

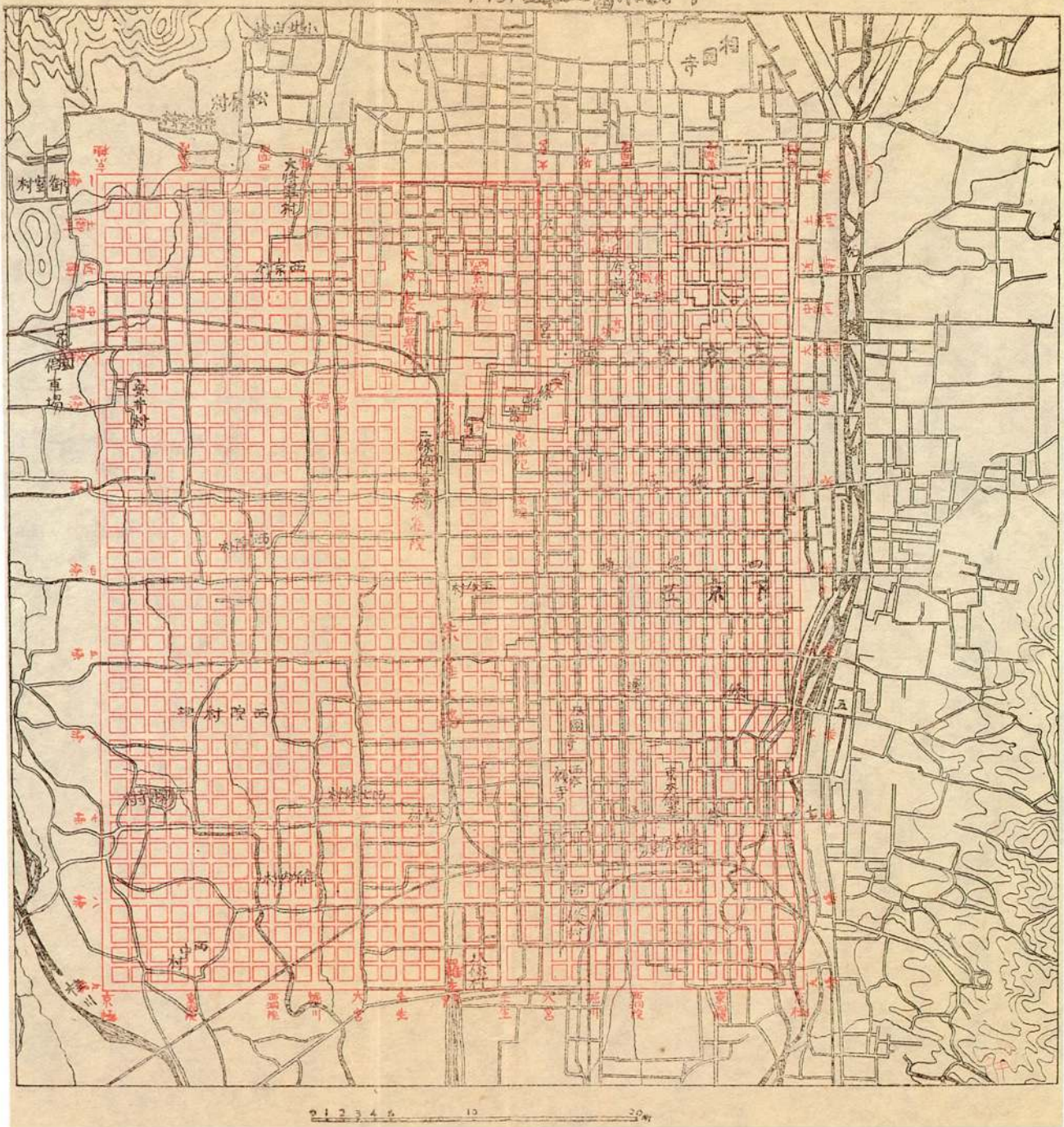
來に我國都を遷すの時期は來らずやと言ふ我國の一大積極的國策の樹立に關係ある問題に觸れて我現時の帝都及將來の國都に對する都市計畫にまで論及し、朝野一般識者の教を乞はんとするのである。

二　我國遷都の由來

我國の帝都が飛鳥時代に至るまで幾度かあちらこちらに遷されたことは文獻により明かなれども其當時の計畫の方針や規模の大小等は今日より之を推定するさへも困難である。殊に年代の餘りに古きと建築物の尚幼稚なりし事情とより現在には全く些少の遺跡をも見出し得ないのであつて、吾人の帝都論には餘り大なる參考となるものではないが唯其遷都の動機は多少之を考察し置くの要あるかと思はれる。

我國の帝都が飛鳥の原に於て固定し、推古、舒明、皇極、齊明、天武、持統、天武の七代の帝都として繁榮せし以前には歷代の天皇殆んど擧つて遷都を企てられしこと我國古代文明の著しき特徵であつた、其眞意義は之を推測するに或は新宮殿の經營の爲めに舊宮殿より稍隔りたる處に、より好適の地を選びたる結果自然遷都の事實となつて現はれたのではなからうかと思はれる。其當時にありては建物其物は主として掘立柱茅葺の如何にも腐朽し易きものなりし故に、天皇御一代の間一宮殿にては其用を足し兼ねたる事情もあつたであらう、又皇威文化の東漸や西進を見定むる爲に多少政略的に新都を遷すことを計畫された場合もあつたであらう、而して其最大原因は其當時の帝都なる

平安京舊址圖（精平安通志）

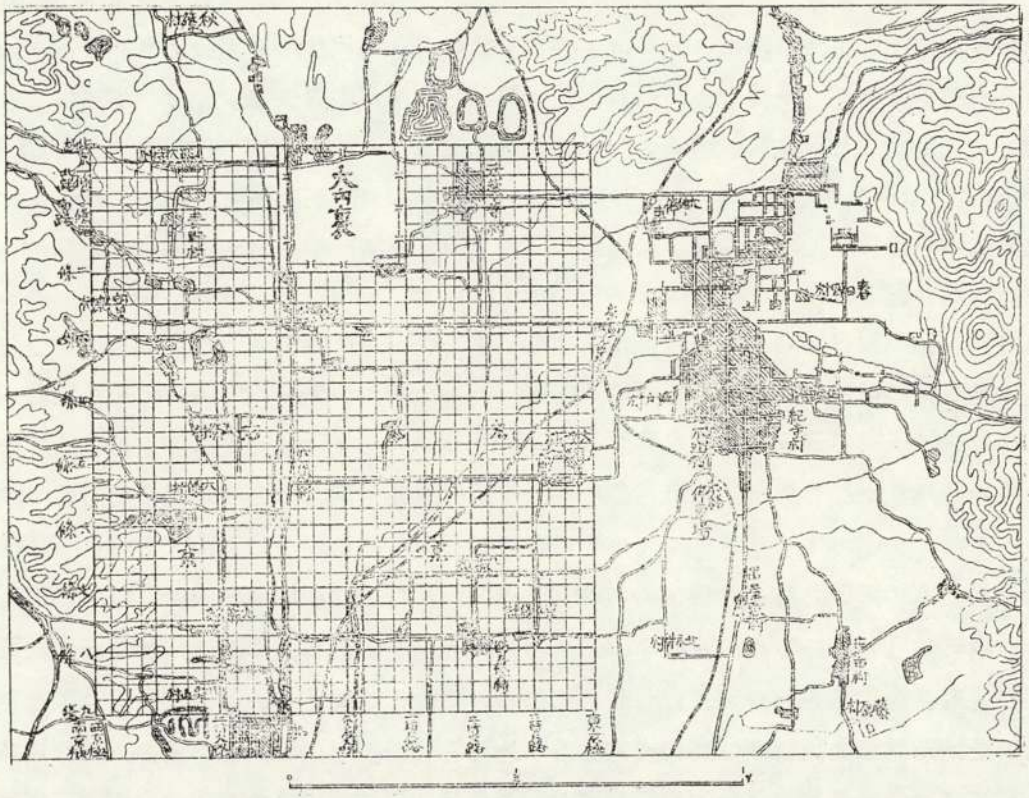


ものが甚だ輕易なものであつて新設經營が如何にも無雜作に運ばれたからであると見ねばならぬ。

記錄に於て有名なる神代の高千穗宮、神武天皇の畝傍橿原宮、應神天皇の難波大隅宮、仁德天皇の高津の宮、雄略天皇の泊瀨朝倉宮、繼體天皇の樟葉宮、欽明天皇の磯城島金刺宮、用明天皇の池邊雙槻宮、崇峻天皇の倉梯柴垣宮等と雖も今は唯其遺跡を臆測するに止まり、其帝都としての規模や建物の配置等一も之を推定し得ないのである、況してや其他の歷代の宮殿に至つては其遺跡の位地を推測するさへも至難のことゝ言はれて居るのである。

飛鳥の京に至つては其計畫稍見るべきものあつたことは推定し得るのである。南大和の平原に少しく東に偏したる地區一帶を占め、耳成山、畝傍山は其時の國都の外廓に接して居たと言ふことである。我國の歷史地理學の權威たる喜田博士は持統天皇の御代に築かれたる飛鳥の京の一隅に於ける藤原の宮の都市計畫の推定圖を作製し、其都城制は正さに平城、平安の京と同一形式であると斷定せられしは其當時の文化の徑路より見て之を妥當とすべきである。乍併我國に於ける帝都として其規模の雄大と計畫の精緻なるを見るに至りしは元明天皇の御代に實現されたる平城京の遷都を以て始めとする。平城京の都制は支那の長安に其範を採り所謂三條九陌の形式を具へたものであつた。

平城京　の遷都に就ては種々の事情があつたであらうと思はれるが、其主要なる原因は南大和の平原に固着した飛鳥の京は以て理想の新政を行ふに足らぬ、宜しく因襲を一掃して新しき文化を普及するに足るべき新都を建立すべしと言ふにあつたらしく推測される。元明天皇即位の翌年二月遷都の詔に曰く。



平城京舊址圖（據奈良縣古代平城京條坊圖）

朕祇みて上玄を奉じ、宇内に君臨す。菲薄の德を以て、紫宮の尊に處れり。常に以爲く之を作す者は勞し、之に居る者は逸す。遷都の事、必しも未だ遑ならざるなり。而も王公大臣咸言ふ、往古以降近代に至り、日を揆り星を瞻て、宮室の基を起し、世を卜し土を相して、帝皇の邑を建つ永鼎の基を定め、無窮の業を固ふすることここゝに在らんと。衆議忍び難く、詞情深く切なり。然らば則ち京師は百官の府、四海の歸する所、たゞ朕一人のみ獨り逸豫せんや。苟くも物に利あらば其れ遠ざかるべけんや、昔は殷王五たび遷りて中興の號を受け、周公三たび定めて太平の稱を致す。以て其の久安の宅を遷すを安んぜん。方今平城の地、四禽圖に叶ひ、三山鎭を作り、龜筮並びに從ふ。宜しく都邑を建つべし。其營構を宜うし、資は須らく事條に隨つて奏すべし。亦秋收を待つて後に路橋を造るべく、子來の義勞擾を致す勿れ。制度の宜、合て後に加へず。

と、而して其當時の宰相は藤原不比等にして平城京の開都と共に藤原氏繁榮の基礎を築いたことは歷史上特筆すべき事蹟の一つである。

平城京の位地は現在の奈良市街と相接して其西部一帶生駒山麓に迫び、南は現在の郡山町にまで延びて居つたのである。之を今日より見れば必ずしも交通至便の地と見る譯にはゆかないけれども飛鳥の京に偏在せし當時より見れば、地勢自から開け、北には低き丘陵を負ひ之を越ゆれば直ちに山城の平野に出で東海北陸に通ずるの便あり、又西南大和川の流に沿ふて難波に出づるにも至便の地であつた。今は平城京は全然破壞されて何等目星しき遺跡を見ぬけれども、當時の大極殿を初め八省院の諸建築物の跡は、今も尙其の土壇を田圃の間に發見し得るのである。

平城京の都市計畫は其當時の文化の程度より見て非常に雄大なる規模の下に立案されたものと言はねばならぬ。其配置は宮城を北部の正面に置き、中央の南北縱貫街（朱雀大路）に向つて正門を開く。南北の街路は朱雀大路の左右に各四條の大路あり、東西は最北の北京極大路より起りて一條二條と數へ九條大路即ち南京極大路に至る。斯くして京內は東西十條南北九條の大路により區劃されて七十二の區劃（坊）をなし、宮城は北部の中央四坊を其區域となすのである。而して各坊は東西南北各三條の小路によりて分劃されてそれ〳〵十六箇の小區劃（坪）となる。今其大さを案ずるに各坊は各大路の中心より中心まで東西南北共に百八十丈にして、大路の幅員は八丈、小路のそれは四丈又各坪の大さは四十丈角であつた、之を京城全體に見る時は東西の長さ千四百四十丈（四十町）南北の長さ千六百二十丈（四十五町）又宮城の大さは三百六十丈角（三十六萬坪）である。之を現代の都市より見る時は一エーカー六十人として三十萬人を容るべき大都市の經營と言ふべきである。而して京城外には東に更に十二坊の市街地を區劃し、北にも西に偏して數箇かの坊が配置されたので、現在の東大寺は東の坊の外廓に接し、又現在の奈良市街は其東部外廓の坊街であつたことは各種の考証により之を知ることが出來るのである。

斯る大規模の國都も朝廷の色々の事情の爲めか、天平十二年に橘諸兄の奏請により恭仁京遷都が實行さるゝことゝなつた。

恭仁京　は極めて急遽の間に計畫された爲め宮殿その他容易に竣工せざりしはさもあるべきことならん。天平十四年正月には大極殿未だ成らず、假りに四阿殿を造つて百官の朝賀を受けられ

たと言ふ記事を見ても此遷都の無理なりしことが想像される。恭仁京の所在地は山城國木津川に沿ひたる瓶原（ミカノハラ）を中心としたる山間の地なりしゆへに、平城の都制の如き規律整然たる帝都を營むことは出來なかつたらしく思はれる。而して此京城の諸宮殿官省等何れも完備せざる中に更に難波遷都の議が起り、廟議區々容易に決せざりしが、天平十六年正月天皇難波に行幸し暫時之を帝都とせられた。然るに此年天變地異頻りに起り、妖說相次ぎ、再び遷都の議起りて平城宮復都が實現さるゝに至つたのである。平城京は中途に廢都の如き狀態となりしことありしも和銅元年より桓武天皇の延曆三年に至るまで前後七十餘年間は兎に角帝都として其繁榮を誇つたのであつた。しかるに桓武帝は如何なる故か延曆三年に突如として長岡遷都を斷行されたのは歷史上一の疑問と言はれて居る。

長岡の京　は平城に比し其當時の文化の順序より言へば、より以上適當の位地であつのは事實である。現在向日町の市街のあたりを宮殿とし、それより南部に延び平城京に似寄つた規模の計畫であつたらしく思はれる。交通の便、地勢の雄共に平城京に一步を越へたものであるから、我帝都の一發展と稱することが出來るのである。然るに此長岡京の建設は其工程中々捗取らず、窮余の末平城京の宮門を毀つて遠く此の地に運び之を再建したことさへ傳つて居る、殊に長岡京建設の中心人物たりし其當時朝廷の權勢家藤原種繼が暗殺さるゝに至つて、其遲々たりし造營も全く前途暗黑となり、茲に平安京遷都の議を生ずる順序となつた。

平安京　は即ち現時の京都市の前身にして、桓武帝延曆十五年正月朔日新宮大極殿高御座に御して朝賀を受けられしより明治初年まで約千百年の間、我國都として政權威德の中心地であつた

ことは茲に敷衍するまでもない。抑も平安遷都の理由は交通の利便、風景の美以て四民統率によからんとの單純なる言辭を以て說明さるゝ譯にゆかないのは、長岡の京が經營されて十年を出でさるに其直ぐ東の方に新たに京城を計畫することの不條理なるに見て肯かるゝのである。或は和氣清麿の奏請なりとも傳へらるゝけれども、其動機の何れにあるにもせよ、長岡の京の都市計畫が財政上因難なりし爲め、其經營捗取らざりし折柄、更に新都の經營を企つるは、常識上判斷し能はざる處である。喜田文學博士は其理由の一として之を解釋して、其當時の洛北の豪族秦氏をして國庫の窮乏を助けしめん手段の爲めに、長岡の地を棄て、秦氏の割據せる地に京城を遷すに至りし事情を數へらるゝは或は其眞相に觸れた一節であるかと思はれる。兎に角其當時の造宮使長官藤原小黑麿の妻が太秦公島麿の女なりしことや、長岡京の造宮使なりし種繼を暗殺せし一派のものゝ計畫や其他あらゆる朝廷の革新氣分が長岡京の完成に努力するよりも、寧ろ新たなる地を相して完全なる帝都を新設せしむる動機を作したものと見ねばならぬ。

平安京の計畫は其大体は平城京と少しも異なつて居ない、即ち中央に朱雀大路があつて左右兩京に分かれ、東西南北の大路小路に依つて碁盤目に分たれ、宮城が朱雀大路の北頭にある事等其組織は全然同一である。唯平城京と異なる點は北京極に於て一坊の列を增したことゝ、朱雀大路の幅員を二十八丈に增し（平城京にては八丈）宮城の左右及前面の道路を大宮通りは其幅員を十二丈とし二條通りは十七丈とし、其他宮城の左右の東西大路を凡て十丈としたことである。（各小路の幅員四丈なるは平城京と同樣）之を全區域に積算すれば、東西千五百八丈、南北千七百五十三丈となる

（平城にては東西千四百四十丈南北千六百二十丈）而して京城の周圍は全部羅城を繞らしたことは之を記錄によりて知ることが出來る、其大さ垣の厚さ六尺、外に七尺の犬走と一丈の溝とがあり、溝の外に二丈の餘地を存して居たことは記錄に明であつて、平城京及藤原京にも不完全ながら矢張り羅城を繞らしたらしく推定される。羅城門は主として朱雀大路の南端のものゝ名稱であつて、他の各門はそれ〳〵別名を付してあつたことは事實である。

平安京は長岡京建設不首尾の後を享けて、よくも速かに完備せしものかと疑はれるけれども、和氣清麿其他賢臣名將の輔弼の功空しからず、延暦十三年遷都の奉告祭を行はせられ、同十五年の正月朔日には天皇大極殿高御座に朝賀を受けらるゝまでに竣工した。之を長岡の京が七年を經て宮城の諸門成らざりしに比すれば非常の差を發見するのである。乍併其當時の財力の微弱にして工匠の術亦幼稚なりし爲め、大規模の大內裡造營の事業は容易に完結するに至らず延暦二十四年まで繼續したので、其年に至り參議藤原諸嗣の奏上せし『方今天下の苦しむ所は軍事と造作となり。此の兩事を停めなば百姓之に安んぜん』との意見は嘉納され、造宮事業は廢止されたと言ふことである。

要するに新都の建設、殊に大內裡の新營の如きは實に國家の大事業であつて、其當時の貧弱なる財政にては其完結を期すること容易からぬものがあつたのは、約そ想像するに難からぬのである。古來我國に數次行はれたる遷都も之を忌憚なく言へば、恐らく計畫のみ出來上り、實現は其半ばにも達せざる場合が多かつたであろふと思はれる。難波宮、飛鳥京、恭仁京又は大津宮等何れもそれであつたと言はねばならぬ。長岡京に至つては規模のみ徒らに堂々として實現は殆んど其一部にし

か觸れなかつたのである。桓武天皇の平安京を經營さるゝや前後十二年極力其實現に努められ、古來甞て到達し得ざりし程度にまで大內裡の新營、新都の繁榮を招徠せる結果、たとへ延曆二十四年に一と先づ造營局を廢止されたとは言へ、後世又々遷都を企つることの出來ない程帝都は完備したと見るを至當とする。

然らば京師の地は延曆建都以來漸次繁榮を增したかと言ふに、必ずしもそうではなかつた。遷都以來四五十年にして右京即ち西の京漸次衰へ、人民は主として左京（即ち東の京）に集るの情勢となつたのみならず京外鴨川の東にまで其繁榮は東漸するに至つたのである。現在の京都市が全く左京のみの區域に存在することは已に數百年以前よりの趨勢であつて、之れ即がて都市計畫の唯徒らに人爲的に成功するものでないことを證明するのである。都市の繁榮は地勢の優れる方に赴くを原則とするのであつて、時代により其條項に區別を生ずるけれども、其原則は古今東西を通じて一轍であらねばならぬ。

平安京遷都以來更に遷都の議は起らなかつたけれども、平城上皇の平城京復都の御計畫があつた位の事を除きては、治承年間の平清盛の福原遷都を唯一の記錄破りとする。

福原京　の記錄は清盛の橫暴と百官百卿の意氣地なき屈從を示す適切なる實例として殘されて居るのである。其遷都御發表の如何にも唐突にして何等の準備なきにも拘らず、無理無法に百官百卿を引率して聖上の車駕を福原の地に迎へたる清盛の暴擧は到底常識を以て判斷し能はざる處であつた。福原の地は現時の神戶市の東部に當り清盛が豫てより別墅を有せし生田を中心として

帝都の計畫を企てだので地勢上到底平城平安の如き平原都市の區劃を立てることは出來なかつた、のみならず其地域狹隘にして其規模も自から小ならざるを得なかつた。治承四年五月三十日福原遷都の議定まり、六月二日遷幸と發表され、主上安德天皇を始め奉り、後白河法皇、高倉上皇ともに遷御あり、百官之に供奉したけれども、聖上、法皇、上皇の行在所を清盛及一族の別業に充てたる外何れも野宿の狀態であつたと傳へられて居る。斯かる無法なる遷都の續き得らるゝ道理なく、如何に剛腹なる清盛も賴朝の擧兵の報やら、高倉上皇御病氣にかゝせらるゝやら、公卿共の反對やらに漸く悔悟の心を生じ、其年の十一月急に平安京に復都を奏請し、僅かに半年にして福原京は廢止されてしまつたのである。福原遷都の如何に悲慘のものであつたかは方丈記によく之を言ひ表はして居る、今其一節を摘記すれば、

『治承四年の六月の頃俄に都遷り侍りき。いと思の外なりしことどもなり……津の國今の京に到れり。所の有樣を見るに、其地程狹くて、條理を割るに足らず。北は山に添ひて高く、南は海に近くて下れり。浪の音道にかまびすしくして、塩風殊に烈しく、內裏は山の中なれば、かの木の丸殿もかくやと、なか〳〵樣變りて、優なるかたも侍りき。日々に毀ちて川もせきあへず運び下す家は、いづくに造れるにあらん。なほ空しき地は多く、作れる屋は少し。故鄕は旣に荒れて、新都は未だ成らず、ありとしある人皆浮雲の思をなせり。本より此處に居たるものは、地を失ひて愁ひ、今移り住む人は、土木の煩ある事を歎く。道の邊を見れば、車に乘るべきは馬に乘り、衣冠布衣なるべきは直垂を着たり。都のてぶり忽ちに改まりて唯鄙びたる武士に

異ならず。これは世の亂るゝ瑞相とか聞き置けるをもしるく、日を經つゝ世の中浮き立ちて、人の心も治まらず、……』

清盛は何故に福原遷都を企てしやは殆んど常識上理解し得ざる處なれども、唯之を彼の剛腹なる振舞にのみ歸する譯にゆかない。清盛の燗眼なる帝都を國勢上交通の利便最も多き地に遷して其繁榮を期するを考へたものと見るを至當とする。唯彼は適當なる計畫者を有せず、自己の方針を自己一箇の力にて之を遂行せんとした爲めに一大失敗をなしたのである。清盛は我國の繁榮を瀨戸內海に求め疾くに福原の地を相して其海岸の港を修築し、別莊を造りて親しく其地利を看取したので、今日より其計畫の基礎のみを見れば必ずしも無暴であつたとも言へない。

平安京は明治維新に至るまで約一千百年の間連綿として帝都であつたことは其地利宜しきを得た爲めとか、或は經營宜しきを得た爲めのみに歸するものあらば、そは甚しき誤りである。平氏の滅亡以來政權は主として武門に移り、皇居は政令の中心地にあらずして、むしろ閑散なる朝廷儀容の式場と化し。鎌倉幕府の建設以來唯消極的の守成都市として皇居を圍繞する市民の集團に過ぎなかつたのは事實である、戰國時代にありて皇居の式微は言はずもがな、德川氏に入りてより江戶城の權威繁榮は到底平安京の及ぶべくもなく、平安京は唯一天萬乘の天皇の宮殿が存在すると言ふ特殊の事情を有する以外都市としては餘り重きをなし得なかつたのである。殊に桓武天皇當時の平安京は早く已に破壞され、右京は全滅して唯左京のみ殘り、大內裏は再三再四の炎上に再築の資も乏しく城外なる里內裡を皇居となし來つた事實等を綜合すれば、平安京は國都の形式を具へたるのみに

して實質は已に早く幕府に移りたるものと言ふことが出來る。

要之古來我國の首都は其位地の變遷甚だ頻繁なりしも、平城平安の支那式大陸風の都市計畫を斷行するに至りて漸く其安定を來し、爲めに文化の進歩を助けたること著しきものあるを認めねばならぬ。平安京の計畫に至りては其規模實に雄大、寔に稱賛すべきものであつた、中央幹線街路は其幅員四十丈にして巴里のシャンゼリゼー以上の大規模のもので、東西大宮通り百二十尺の幅員は正さに東京市區改正の一等道路のそれである。其他市區分劃配置等は其當時の都市としては全く理想的のものであつたけれども、惜むべきは民力の發展之に供はず、建築技術亦幼稚にして斯かる大規模の都市の發展を運用するの文化に達して居なかつたことである。都市經營の如き物質的文化は所詮我民族の得意とするところでなかつたと言はねばならぬ。（二の項畢）

◈大極殿◈

大極殿は清和天皇の御宇、貞觀十八年に始めて燒けたりければ、同十九年正月三日の日、陽成院の御即位は、豐樂院にてぞありける。元慶元年四月九日の日、事始まりて、同一年十月八日の日にぞ造り出されたりける、後冷泉院の御宇、天喜五年二月二十六日、又燒けにけり、治暦四年八月十四日に事始ありしかども、未だ造りもいだされずして、後冷泉院崩御ありぬ。御三條の院の御宇、延久四年四月十五日に造り出されて、文人詩を奉り、伶人樂を奏して還幸なし奉る。今は世末になりて、國の力も皆衰へたればその後はつひに造られず。

（平家物語卷ノ一）



最近の大阪港 (三)

大阪市役所港灣部

(三)外國貿易　外國貿易は戰亂の影響を受くること最も甚しく、之を對外地方別に見るときは從前に比し著しき變動を來せるのみならず、輸出に於ては從來全然交涉なかりし地方に新販路の開拓せられたるもの尠からず、輸入にありても數量の增減以外貨物の種類を一變せるもの多し。左に各地方別に自大正元年至同五年輸出入貨物の種類數量を擧ぐべし

一、關東州

輸出重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
砂糖	一七六噸	六、五二七噸	四、一四二噸	六、八四四噸	六、八九二噸
和酒	三、九〇九	五、九二五	五、二九九	四、一七九	三、六四〇
洋酒	一、四七〇	一、四九四	一、四九四	二、二六六	二、七九四
飲料品	二一七	九七五	一、〇一〇	一、〇二二	一、一五九
醸造品	二、二九八	一、〇〇九	二、〇四二	二、三四二	二、三四二
果實	八、六九五	三、七四二	六、二四〇	七、二四〇	六、五八二
乾鹽魚	三七七	六七二	七三三	六四六	六九三
漬物	三七四	二六八	三四八	三二七	六四九
穀粉及澱粉	一、二一八	五五五	五八	三六八	七七一
昆布	一、二一二	四九九	四三三	一、三三五	一、一〇八
其他食料品	一、三三三	一、一四五	九八五	一、〇〇〇	一、四五三
木材	一、〇〇三	一、四三四	四、一〇四	四、一七八	六、九一〇
薪炭	二、二一〇	三	七四四	四五五	四七六
鐵材	一、七三六	一、五〇四	一、八四四	一、六六〇	一、六三三
金屬材	六九二	一、一五七	二、一五八	一、六六〇	一、五四九
加工木材	五七五	二九	七〇七	五三二	一、〇八六
綿糸	三五三三	五、二三二	五、五三三	四、四一四	四、一九八
油脂及蠟	九五四	四三七	四一九	五六五	三、二九〇

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
工業用藥品	五〇〇	四六七	四一九	六三	一、六一四
繩叭類	一、三一〇	五六	五一〇	四〇八	五一〇
燐寸	二、六五二	四、五九四	四、〇五一	六、一七〇	六、七〇四
鐵製品	二、六九一	二、八〇一	二、七二四	二、〇四四	一、六四五
金屬製品	三、六〇一	二、五二三	一、四五二	六五四	七四三
硝子及同製品	二、五〇一	五、二一	三、八七〇	三、〇三五	三、四六八
皮革製品	六四五	四九三	七一四	七一	八三二
陶磁器	一、四七六	一、五一一	一、五〇七	一、四九〇	一、八八七
荒物	四七八	二、五六六	一、二七九	五一〇	六四九
家具	九五〇	二、四九	九一七	九四	一、六九二
綿布類	八、八二六	九、七八七	六、一一一	七、六八八	一〇、八四〇
呉服太物	二、一六八	一、一八七	三六〇	四七	四一三
莫大小及タオル	二、五五四	二、一三〇	二、一七〇	二、一七〇	一、四〇〇
被服	一六五	四五〇	三三六	六五六	六五六
帽子	一、二一九	一、九六三	八九〇	四、四八二	五九一
履物	一、六〇二	四二一	二九八	三四四	三四四
小間物化粧品	九七八	一、二九〇	一、六四一	一、二九九	一、六三八
文房具	八七〇	七三五	九四〇	八四二	九三一
和洋紙	三、一九五	一、七一五	二、七〇九	四、七九二	六、一二五
藥品	一、〇一三	八三三	八七〇	九〇	九七〇
容器	一	三六	五七	一、四二	二、四八三

二、露領亞細亞

輸出重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
米	一七噸	四一〇噸	一、一五三噸	二、八二五噸	二、九五七噸
豆	二九八	六四一	七〇三	五、七四五	三、六九三
雜穀	三三	二、八五四	一、一四五	五八二	六五三
石炭	二三、七七五	七、六三三	五一、八四六	一〇、四六五	一、六八二
土及砂	—	一三六	一四八	二八三	一、六〇七
木材	一七四	一三一	八六八	一、〇七	二、九〇三
棉實	五三	—	—	—	一、一〇五
獸皮	二、八四	二、三九六	一、二五〇	二、七一八	二、六九二
鐵材	二五	一三七	九四九	二、六四一	二、三一〇
金屬材	五七九	六九五	四九四	二、三五七	七、〇六七
豆粕肥料	一八〇	六、九〇八	三、九一三	二六、一二五六	二八、一四〇
油脂及蠟	一、二九〇	五一〇	七〇	三二六	三七
工業用藥品	一一	九	四〇九	八八	二、七二五
羽毛類	三三	三三	一四三	二六六	一、二〇九
麻苧及棕梠	一三八	一三〇	六二五	四七四	一、三〇二
菜子	—	—	—	七〇一	七七九
和洋紙	三七	五	四	五	一、〇七八
藥品	五八六	二〇六	四三	四〇八	六五〇

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
各種食糧品	六七 噸	一四 噸	三 噸	一、〇六五 噸	一、四〇七 噸
鐵材	—	—	—	一、三三五	一、六三一
金屬材	—	—	四五	六、七五七	六、七九八
綿糸	—	—	三	八七〇	五一
油脂及蠟	—	—	—	—	一、〇五九
工業用藥品	—	—	二	五一〇	四四一
繩叭類	—	—	一〇	五五六	五五〇
燐寸	—	—	—	七六〇	七一八
鐵管	—	—	—	八六一	八九九
鐵製品	—	—	三	三〇六一	三、一五九
金屬製品	—	—	—	二、〇六五	二、二五
綿布類	一二	五四	三	一、九七七	二、一四
藥品	一二	一	一	一、一二七	一、一三三
火藥	—	—	—	五三	五一

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
豆	三六三 噸	— 噸	— 噸	一、一六一 噸	一、三五八 噸
乾鹽魚	一六九	二、〇八九	—	一四四	三一
石膏	—	—	—	四五〇	—
鐵材	—	—	—	—	三九五

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
砂糖	五三 噸	三、二三 噸	三、一四八 噸	一、七七七 噸	一六九 噸
和酒	一、〇三〇	一、三九五	一、五三一	一、六一四	一、四一九
洋酒	一、三一四	二、一六八	一、〇二四	二、〇九九	三、〇一八
煙草	九九〇	二、三八二	三八三	六一八	六一六
釀造品	一、〇六七	一、五一四	一、一一〇	一、三七七	六九五
果實	三〇七	四六四	七五六	三一〇	九一七
乾物	一、六四四	一、〇八九	三、一四七	一、七一四	一、三三二
昆布	七、七二七	一、八九六	三、八六一六	三、八六一六	三、八五一
其他食料品	七四四	二、六八六	一、四九六	二、八八四	二、八五一
木材	二一四	五五	一七五	二、八八四	三、七一一
鐵材	一、二八九	一、九八七	二、六〇八	四、四四七	四、六二一
金屬材	二三六	一、七二一	一、八五	一、五六八	二、二四三
石粉	二四四	四八九	四八六	六九三	八五二
軸木	三六五	三、〇二八	一、六三九	二、三六三	二、三五七
加工木材	五三五	九二八	六一一	九九六	一、一三〇
綿糸	二八、二八〇	三九、七〇一	四一、九〇八	四六、一一八	四五、三〇六
其他糸	六四	三八	一、六八八	九七〇	一、二六九

三、北支那

輸出重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
金屬材	二七	一〇七	一二八	八五一	二八六
雜肥料	一、四八五	八七	一三五	—	—

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
豆	三、四〇四噸	四、五六六噸	三、一〇六噸	三、三三四噸	四、一七五噸
其他食料品	一、四二〇	一、五〇三	二、六一三	四、七九三	四、三一七
石炭	六三	二六、三二一	二三、五八四	四七、三四八	二〇、六九七
石膏	—	—	—	一、五〇六	—
其他鑛物	一	一	五八	一五八	一六〇
木材	五、六六	五、八六六	一、九三六	二、八八四	五、一九二
綿花	四二、四六四	二三七	四、三五〇	四、六四七	一六、一七八
綿實	一五、二六五	五五九	一、九三三	二九、〇四七	二九、一六八
獸皮及獸骨	四、二一九	四、三九八	二、七二四	六、〇四六	七、七五四
羽毛類	二四八	九五	三八二	一、四八三	七一三
麻苧	二、〇〇二	一、〇五五	五、八六九	三、二四九	五、四三七
菜子	四、四五四	一二〇	四、二七七	八、四六〇	七、一〇一
鐵材	三	二一	一二七	二五、三四〇	二三、三四四
金屬材	三三五	二七三	三五九	五、九一一	二三、四九三
セメント	一	四	—	—	四、〇〇二

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
小間物及化粧品	一、四九五	一、八六七	一、八五二	一、一二七	九五七
文房具	五二七	一、四八三	七二四	四一八	四五六
和洋紙	四、五六七	四、四三一	三、六四六	六、一五四	五、六九三
藥品	一、四三九	一、六一一	一、七七七	一、三〇一	一、七三〇

四、長江流域

輸出重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
米	噸 二	噸 一	噸 一、一九三	噸 七六三	噸 一、〇四五
砂糖	二四、六四六	二一、二四五	一七、三四八	一四、〇六五	二三、七三七
和酒	四九	二三五	五三一	五九一	八五四
醸造品	一、三四三	九六二	一、一五〇	七二一	八八八
乾鹽魚	一、六七三	一〇五	二八	一、〇五二	一、三四一
乾物	七一五	一、二五六	一、九五八	一、三八四	一、六一九
昆布	二、五三四	一、一四一	一、〇九八	九七二	七三
其他食料品	五六五	一、一四九	二、三二八	一、九三八	二、三〇七
鐵材	四六二	一、三七九	一、〇五九	七八〇	七〇三
金屬材	二、一六七	五、八四八	八、九五	一、四九二	一、七四一
軸木	八九六	一、九八二	一、六六二	二、一〇九	二、〇九四
加工木材	五四一	一、一三五	八四九	二八五	四三九

品名	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
米	噸 一、九一五	噸 一、一〇一	噸 四六三	噸 一、八六〇	噸 一、〇三七
砂糖	四〇八	三八七	二	三、七二九	五九七
和酒	八八四	一八八	三	五、二四八	七四
醸造品	二九五	一、三八九	三	二、二五六	三〇
乾鹽魚	一、九〇	一、一五〇	一、一四	一、一四	一、一四
乾物	一、一四	一、一四	一、一四	一、一四	一、一四
昆布	一、一四	一、一四	一、一四	一、一四	一、一四
其他食料品	一、一四	一、一四	一、一四	一、一四	一、一四
鐵材	一、一四	一、一四	一、一四	一、一四	一、一四
金屬材	一、一四	一、一四	一、一四	一、一四	一、一四
軸木	一、一四	一、一四	一、一四	一、一四	一、一四
加工木材	一、一四	一、一四	一、一四	一、一四	一、一四

輸入重要品

綿糸	一五、〇三三	二、八一、九五七	三一、九三五	二七、九四六	二四、九二三
油脂及蠟	二〇七	一、一〇一	一八九	五八一	七三二
染塗料	八一	二一九	一三三	六〇〇	五九一
工業用製品	一八二	八五〇	四八八	八五四	一、〇〇二
麻苧製品	二六三	一、二八八	一、一五九	六七八	五九七
燐寸	四、一一七	九、四一九	九、四三一	一〇、五五八	八、八九七
鐵製品	六五九	一、三八	五三一	一八〇	三九八
金屬製品	三、五一五	九二八	三七	四一六	二、四九七
時計	五七五	六九一	八一八	一、〇八〇	三四三
金屬製機械	二、五六	二七九	六三五	五五八	一、〇一二
木製品	一九	一、〇五七	八七二	三一六	六五六
硝子及同製品	九、九〇八	一一、三九六	九、九一五	九、六一二	七、〇〇一
陶磁器	三一四	一、九九四	八一四	三四七	一、一四三
荒物	一三八	二、九九七	二八七	二七四	三一八
綿布類	七、七五六	六、四八九	九、四〇五	一〇、〇七五	一四、〇五五
綿ネル	四九三	四九	—	八二六	一、八三
莫大小及ダンネル	二、一五四	三、三〇〇	一、六三三	一、八三	一、五四二
帽子	一、一三二	九七四	四四一	四五	一二四
裝身用品	三、五五七	一、六九九	六四四	四九八	七八三
小間物及化粧品	一、三三	一、八四	一、一〇一	七〇二	一、二六七
和洋紙	九八四	一、六二〇	八六二	三、一六七	八四六
藥	一、五八八	九九三	一、一六六	一、二二四	一、二六七

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
米	四八 噸	二一、六〇七 噸	一三、〇一〇 噸	九三五 噸	一、九二 噸
豆	七四二七	三、七八六	五、八八二	四、八四七	四、二一二
雜穀	六〇三	七九八	一、九八三	一、八〇五	一、〇一四
砂糖	六〇三	七九八	一、九八三	一、八〇五	—
菓子	一	七七	—	一、〇四三	一
其他食料品	五、九九八	三、九四三	三九〇	四三八	四四六
石膏	五七四四	八六八九	一、〇一八	二四〇	三八六
鐵鑛其他	三三一	三、三五一	六、九七二	一、八四四	六
木材	二一六	二六五	七三三	二四〇	二、八〇七
綿花	三五、七四七	五、〇二四	四、五四六	七、三七一	五、三三一
綿實	一四、六九一	七、二八三	一、一三三	五、七〇五	六、八二五
パルプ	四一三	三	三二	一、一四〇	一、一四三
獸皮及獸骨	五、〇〇一	七七	二九二	一、六二九	一、〇七九
羽毛類	一、三七九	一、一三八	二一七	七六一	二、五九一
麻苧	一三、四六九	一四、三三四	一一、一五五	一三、二一四	五、七五三
菜子	三三、四三二	七、五七七	七、四二〇	一八、八九七	一七、四八八
鐵材	一、七六六	一三、八九九	一三、〇六七	二〇、五五八	五二、八四六
金屬材	二、二一〇	二、六二四	二六五	八、七四六	六、八九六
雜肥料	二九、一四五	二九、三五七	一四、九八七	一四、〇一六	二七、一三八
油脂及蠟	六五二	五、八二五	二、三三五	四、〇八八	四、三三八
染塗料	一、四六八	一、〇一九	四四七	六八八	三四八
工業用藥品	一〇九	八四	三四七	八九二	二、八二七

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
砂糖	六二九 噸	六六七 噸	三三〇 噸	三三二 噸	四〇八 噸
乾物	一八六	二五五	四五九	二一六	二四二
乾鹽魚	一五六	三〇四	三七二	九四	二二六
其他食料品	—	—	一三三	一〇七	一四四
木材	—	—	九〇六	一五五	一八三
其他糸	—	—	—	七六	一三一
工業用藥品	一四四	三六	四三	一二六	一一一
鑛油	—	—	—	一四二	一七五
燐寸	三五	九	五四	一一	一三四
綿糸	九三	六	五一三	三三七	四四五
鐵製品	二九八	二〇一	七一	一〇一	一五三
金屬製品	八四八	一四九	—	二八	三五

五、南支那

輸出重要品

數物	一三	三	一、〇〇三	七二八	八八七
鐵管	三〇	一五	—	四四	一、〇二八
鐵製品	九〇七	二	二〇	一七九	四五二
硝子及同製品	一八二	八六	一五	九三八	二〇七
和洋紙	九一六	五三二	二一七	二八三	二三八
藥品	二、六〇三	一、五一八	四一三	一、二五八	八九一

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
硝子及同製品	八八六	一、四四一	一、四三〇	八三三	九九二
陶磁器	六〇	二六三	二一一	六一	一三〇
綿布類	三九八	七四九	一、〇九七	九六七	一、三五七
莫大小及タオル	一三〇	三〇八	二四三	一〇七	一六六
石鹸	—	—	二六	三〇八	二四〇
和洋酒	二九七	三三	—	六八	一〇八
薬品	二八三	二二三	二一三	一四	五四

輸出重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
雑穀	—噸	—噸	二一〇噸	二七〇噸	二八〇噸
棉花	—	—	—	一、一一五	一、二七六
菜子	—	—	二六六	一、九三五	二、三五五

六、英領香港

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
乾塩魚	二、八五六噸	二、〇二九噸	一、〇七七噸	八三一噸	一、〇六九噸
乾物	五四	一九九	六八三	四二八	五〇三
昆布	二	四四九	二二	一六八	二七
其他食料品	二六二	四八二	四〇四	三〇一	五四〇

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
金属材	一、八七五	一、一八二	一六四	一三八	二六九
セメント	—	—	一〇	二〇八	三二六
綿糸	二、三五五	三、四五三	八、〇〇四	六、四三七	六、五〇一
其他糸	—	四	八六七	七九一	六三九
油脂及蠟	七三七	四二	三一五	二〇五	八二七
工業用薬品	—	—	—	—	四八六
燐寸	一、六一七	一、六一五	一、一五四	一、五九八	二、一三三
鐵製品	八九	四七九	二〇〇	二五九	三〇九
金属製品	四五九	五〇三	一〇〇	一五一	三三二
硝子製品	四、六三二	五、三三一	四、一八三	一、七八七	二、一四二
皮革製品	—	六三	二四六	二三	一八七
綿布類	六七四	五七七	七一八	一、四五三	一、八五〇
洋太物類	四〇	四二	—	一六八	一八九
莫大小及タオル	三、五一八	四、〇四七	三、二一九	二、六一〇	二、一四六
洋傘	五〇	三四	三六五	一八四	二九三
装身用品	四四六	四四八	三二一	一三六	一八八
石鹸	三四	六三	六	二一九	二〇八
小間物及化粧品	九七	四八二	一五三	一八七	三〇一
和洋紙	九二一	一、三二九	六三一	二、〇六四	一、六六七
薬品	一七〇	一六三	二四	九〇	一三〇

七、佛領印度

輸出重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
米	一八、六六九 噸	九一、五六八 噸	七〇、六七二 噸	四一、四二七 噸	四二、四二一 噸
豆	一九九	三三六	二、八四五	一、三二九	一、三五一
砂糖	三、六四七	四、七五六	三〇五	三〇一	二三
木材	七九一	一、五五六	一、五四六	—	九一
竹材及籐	一、一八〇	一、三九二	七六七	七〇五	九九三
棉花	一〇、五八〇	一三、五九四	五、〇〇六	二、八七〇	二、九八三
棉實	一、七六三	二、九〇七	一、九〇八	一、三〇三	一、三三一
麻苧及棕梱	二四三	一七二	二八六	五一	四七二
菜子	一、七一六	一六五	一、四六〇	二、六九九	二、三五二
鐵材	四〇	五、三四二	二、四〇七	三、六五四	五、〇八四
金屬材	一、八二八	九四七	四八九	七八〇	三、八三八
雜肥料	一	二、七〇五	七、六四一	八、四四二	一、一五二
工業用藥品	一四	一三六	二八三	六八三	七一〇
敷物	三〇八	二、六四〇	一、二三八	八四〇	九九七

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
乾物	一 噸	— 噸	二六 噸	八四 噸	二九 噸
其他食料品	三五	—	—	一八	二八
木材	一	—	一三七	一九三	二三〇

八、暹羅

輸出重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
米	— 噸	四、一四〇 噸	二、一五 噸	— 噸	— 噸
石炭	— 噸	八、二八九 噸	三六、七九五 噸	三一、四八 噸	一四、三〇 噸
鐵材	—	—	—	—	五二九
金屬材	—	—	—	—	二、五九七
棉花	—	六八二	一、五五〇	—	一、一〇九

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
硝子製品	七六 噸	— 噸	— 噸	一、三〇二 噸	一三四 噸
皮革製品	—	—	—	—	五七
陶磁器	一	一八四	九七	一一〇	二八一
綿布類	六二	一八四	九六	六〇	二八一

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
綿糸	—	—	—	一四五	二九九
燐寸	—	一	八一	一五三	二五七
硝子製品	—	—	一五三	一三三	三八一
陶磁器	—	一三四	一五三	一三三	二九九
綿布類	二〇	—	三五三	二四一	一七二
莫大小及タオル	二〇	一八	三五三	二四一	二九二

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
洋太物類	一九	三	—	—	二九三
莫大小及ダオル	三〇	一四	二	二	二〇三
娯樂用品	—	—	—	—	一四五

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
米	噸 —	噸 一	噸 一、五二六	噸 二八	噸 一
棉花	—	一	三八二	二八三	三七

九、海峽殖民地

輸出重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
醸造品	噸 六七〇	噸 四九九	噸 一四六	噸 一六九	噸 一四四
疏菜	—	—	三三〇	三三	四三一
食料品	二一	—	四三	四一八	四四七
セメント	—	九三	—	三、二五二	二、九〇七
綿糸	四三	—	五四三	八六二	九五三
工業用藥品	二	三三	三三一	六八五	八四九
燐寸	一、九五六	一、三六四	八五一	二、三六七	二、三五三
鐵製品	二三四	一六四	一〇二	三六六	四八〇
硝子及同製品	三、九四四	五、四一三	三、九六五	六、八六二	六、七九一

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
陶磁器	一二	三三	二四〇	一、〇四二	一、二三四
和傘及提灯	七	四七三	二四四	一一〇	一七四
綿布類	一、六七九	二、八二三	二、四一九	五、二三一	七、二九
莫大小及ダオル	九〇六	二四三	三九五	七七一	九四二
洋傘	三七	三〇七	二〇八	二二三	二六六
裝身用品			二四	一七九	一五六

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
竹材及籐	噸 四三	噸 —	噸 八六	噸 三六一	噸 四一五
棉花	六七、七八三	六、九八〇	四、〇〇〇	三、五一九	六〇三
棉實	一二六	四九五	三一〇	一、一九六	二、〇〇六
鐵材	一、五三八	一、一四九	一、八三五	二、〇五八	二、六六八
金屬材	七七九	一七	六六五	三四三	一〇四
雜肥料	一〇〇	六七一	三二一	—	二九二
竹及藤製品	—	一一七	四三一	一四〇	一九四
護謨製品	一八〇	—	一六六	一九八	三三一

一〇、英領印度

輸出重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
砂糖	一〇	一	一七一五	一五六四	
昆布	三三五	三三三	四三〇	五〇三	
其他食料品	三四〇	六〇九	九二四	一、六四〇	一、八四九
木材	—	—	一九六	一、一八九	一、三〇六
鐵材	—	七〇	二八七	五〇三	五八九
金屬材	四九	八七九	一、九一三	一、九八二	二、〇七九
セメント	—	三	二八三	六、六八四	二、一三三
雜肥料	—	—	一	五〇〇	四三一
加工木材	一六	一二八	九二六	一、二一一	一、四二〇
綿糸	二〇四	五四三	二、一一四	二、三四八	二、五六〇
工業用藥品	一〇二	一〇八	七六五	二、一七一	二、四九一
燐寸	五七三	三、〇二六	四、一九〇	九 九三三	八、九四七
鐵製品	九七	九七	四一九	九八二	六二七
金屬製機械	一三	六〇	—	四二	四三
木製品	—	三七六	一三六七	二、八六一	一、〇七六
硝子製品	一五、八三二	二、〇二八	一六、二〇一	二七、七二一	三四、四二五
陶磁器	三一七	一、一三九	一、〇五六	一、九〇一	二五、二五二
荒物	一二	七三七	九二六	一、二九	一、三四一
綿布類	五五七	一、〇九〇	二、七五六	六、二二九	九、七三三
莫大小及ダオル	八、九九九	六、九七八	六、七七六	七、八五二	一三、七八〇
裝身用品	一、二八二	三三三	三八三	二九七	六〇七
小間物及化粧品	三一一	七六八	六四八	一八九	三四二

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
玩弄具	一五九	二八二	三七二	九三九	一、二八二
容器	—	—	—	—	六五二

一一、濠洲及南洋諸島

輸出重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
米	—	九一八	四、八〇三	一、二一六	一、七二一
豆	三一一	二、二五一	四、三四八	—	二
棉花	二八、五二九	四八、二九五	七〇、二九三	三、四二二	八一、六五七
棉實	二二五	—	九〇三	四、一四〇	三、〇〇七
獸皮及獸骨	五六六	七三八	九〇三	六九四	七四三
麻苧及棕梠	三八	三〇	五六	七八一	七、八六七
菜子	二五四	二五七	三二〇	二五六	三六二
鐵材	二八、四〇六	四〇、五〇七	二一、九二〇	二六、八四一	七四、七〇六
金屬材	五二	三〇六	四五〇	二九九	七八七
雜肥料	二、九五九	六、七二二	六、六四六	一、四八七	一、五九一
經木及麥稈	—	—	—	—	三、七二二
眞田	三二	三六	二〇五	四九六	一、四九四
油脂及蠟	三二	三六	二〇五	四九六	六
鑛製品	一二六	一、二三	—	—	—

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
雜穀	斛 —	斛 —	斛 —	斛 八七七	斛 八六三
砂糖	—	—	—	八七七	—
蔬菜	二、〇三六	一、三〇五	一、一四一	一、〇九八	一、二七七
乾物	二、五七一	三、〇七八	四、〇〇六	三、九四八	四、三七三
昆布	—	一四六	一〇九	四六〇	五四九
各種食料品	一、六三五	一、三五九	一、五七四	四、八四四	四、九二四
金屬材	—	—	二	三、一四〇	三、七〇
セメント	—	—	五三	四、九六六	五、一八五
石粉	—	—	—	九 八五〇	九、七四六
人造肥料	—	—	—	—	—
綿糸	二、一二四	一、三四	一、四七七	一、九〇	一、九一
油脂及蠟	五五	—	四九〇	二、三三〇	二、七五〇
工業用藥品	二八	一三七	四一	三七九	三七二
燐寸	一、〇四四	一九二	二四四	七五九	九二二
鐵製品	八五	八七	二七	三三八	三三
木製品	—	三〇	四〇	五三二	四九
硝子製品	二、一二三	二、七七二	一、八六六	三、四三三	三、三三
陶磁器	一三四	一四九	九七	五七九	五七
荒物	一	一五	一四三	二八三	五、一三九
和傘及提灯	—	—	—	五九〇	五、二〇八
綿布類	一、七五四	二、五四五	三、三〇三	一、二〇八	一、四六六
呉服及太物	四九三	一三三	二七六	五、五三三	五、五三三

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
綿ネル	—	一	—	四四三	六〇三
莫大小及ダオル	一、四五五	一、九六三	一、六三八	三、八三九	四、八五一
洋傘	一七〇	一七八	二五五	一、〇九六	一、四二一
帽子	—	一〇	六八	三九六	五三〇
裝身用品	三三三	六五	一七二	五七〇	六三一
和洋紙	三六	二	一三三	六九九	九六六

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
豆	斛 —	斛 —	斛 —	噸 一、四六五	噸 —
砂糖	五一、三六	九三、九三七	六七、〇六六	三〇、八六六	三三、四九九
燐礦石	—	三二、三〇八	一八、〇四〇	三四、三六四	三五、〇八三
棉花	三、九五〇	九八二	七六二	—	三二
棉實	一、七一五	—	三一〇	一四六	一六八
パルプ	—	—	二四五	一、一二	一、三五三
獸皮及獸骨	一、七二七	二、七一四	一、七六七	三、一〇九	三、四五八
羽毛類	九三四	一、八〇七	二、二六九	七、〇四一	七、六八三
麻苧及棕梠	五八七	三四三	一、八五一	二、九二六	三、一三〇
鐵材	一四	六、六九九	一、七〇〇	六、六四三	七、九三四
金屬材	四、三二九	五、六四七	二、五六三	五、二五七	二、八九一
セメント	一	—	—	—	二、八九一
人造肥料	二三	二、三〇〇	二三三	五、一〇〇	—
油脂及蠟	五三	二四〇	三四七	—	七、一五三

一二、伊太利

輸出重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
工業用藥品	—	六三	二四	一、〇七七	七八〇
護謨製品	三	二	—	五九	六五

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
工業用藥品	—	—	—	一	一五二
硝子製品	四〇	四七	三九	四三	六五

一三、佛蘭西

輸出重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
鐵材	一噸	五〇八噸	三六噸	二、三〇〇噸	五、五〇〇噸
金屬材	二六	二六五	一八九	三九	四六
金屬材	二六九噸	四四三噸	三三七噸	八七八噸	九二七噸
經木及麥稈眞田雜系	—	五六〇	二一三	三三〇	四二
油脂及蠟	八六四	五六四	三八五	八二五	六五九

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
工業用藥品	一三五	三〇七	二八三	一、三九五	
麻製品	—	二四三	一〇〇	二四一	
和傘及提灯	二八三	五一	二一	二八一	
扇子及團扇	四三	一三五	八三	二七九	
裝身用品	二九	—	一六	四三	
玩弄品					

一四、英吉利

輸出重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
竹材及籐	二、五七二噸	三、五七〇噸	一、九六四噸	一噸	一噸

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
棉花	七五四噸	一噸	三三〇噸	二四〇噸	一噸
パルプ	二	八六九	一四〇	一一〇	二七二
鐵材	三一四	二〇七	五六	一四	一五二
染塗料	一九九	二四	二三七	四八七	八
工業用藥品	一七四	四七八	五二	六	一
硝子製品	二四九	八〇	一	三二	四二六
石鹼	一	四一七	五四六	三二	四二六
藥品					

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
食料品其他	一〇七 噸	六三 噸	一九五 噸	九二 噸	一、一三三 噸
	八三、〇二七	八、二三二	二、〇八六	三一、三四〇	三〇、九五一
	一、〇五九	三、〇八九	二、二三〇	九七〇	一、二九一
各種鑛物	三二九	一八九	二	一	六三
	四、二五	四八五	四、一	五	四、七九二
棉花	一三	五九	三八二	二一〇	四、七九二
	五七〇	四	五四	七三六	八二
パルプ	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一
羽毛類	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一
鐵材	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一
金屬材	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一
石灰	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一
金屬材	五二四	三〇三	四九五	三、四八〇	三、四九五
經木及麥稈	八一〇	六九二	四四七	三四三	四九〇
	三、二三八	四、三一〇	三、六八三	二、七八一	二、九七二
眞田	一	四一六	一	六四一	七五一
油脂及蠟	一	三六	三	三〇〇	一
	一	四七五	二四八	二四一	二〇一
染塗料	一	二七	一	一一五	一一〇二
	一	三四八	二三三	九五	五二
鐵製品	一	二六五	三一八	一、二六一	一、四六二
	一	二	一	四九八	六一九
木製品	一	一	一	八七四	一、〇四七
	一	一	一	一	一
硝子製品	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一
陶磁器	二一九	二六五	二一八	一、九五〇	二、一六五
	三九	二七	一五〇	八一	四二
刷子	三九	二七	一五〇	八一	四二
	三九	二七	一五〇	八一	四二
綿布類	六〇	二一	一	一	一
	六〇	二一	一	一	一
裝身用品	七八	二七	一八	一	一
	七八	二七	一八	一	一
玩弄品	五五五	六四二	五一〇	一、九五〇	二、一六五
	五五五	六四二	五一〇	一、九五〇	二、一六五

一五、獨逸

品名	煉瓦	人造肥料	其他肥料	油脂及蠟	染塗料	工業用藥品	敷物	鐵管	レール	釘及ボールト	鐵製品	金屬線	金屬製品	金屬製機械	硝子及同製品	綿布類	洋反物類	帽子	和洋紙	藥品	車輛
	二	七、二〇九	一一、二二	六二〇	八三二	八〇九	三、九八八	四八九	一、三一〇	五五四	七、二一〇	六九〇	七九九	四、五九三	一、五一七	二、〇〇六	八〇九	三四七	三、四九〇	二、一七七	一〇三
	一	一、〇九三	三六、七七七	四〇	五九九	一四、五八〇	八九	四三六	一四四	一、九六二	三一〇	一、九四七	一、九四七	六、五二二	一、四六六	四五	一八七	一〇七	二、四七八	九九八	七八三
	二	二五、八七四	三三	一二八	一五二	四二三	八一	三五	二二	一、二八五	六七七	八一五	八一五	二、七五六	六四二	一五	三一一	四	一、二一八	六九	四二五
	一	九、四五六	一	四三	八〇	四	二、三五〇	二九	一	一、八二	四七	一六	一六	八五	二〇	一四	一四	二	六七六	四六二	一五
	一	一〇、〇六六	二	五二	六二	四四	八、三〇三	四七	一五七	一、三八五	一八二	一四	一四	一、〇二二	三〇	一四	六七七	一	七〇九	五八七	一

輸出重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
金屬材	一〇、三五 噸	二三九 噸	二三八 噸	噸	噸
經木及麥稈眞田	四四九	四一九	二三六		
油脂及蠟	一、一二五	六七〇	三一六		

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
石膏	一、五二一 噸	噸	噸	噸	噸
竹材及籐	七七三				
棉花	四、三五〇				
パルプ	二、八五〇	一、〇四三	三九四六	一、二三〇	
獸皮及獸骨	八七六	三六	四六		
菜子	六〇二				
鐵材	一三、九六九	二〇、四四六	二〇、六〇八	四九二	
金屬材	五、八七〇	一、〇五	五七三	一六四	
雜糸	一、三〇三		二三	三	
油脂及蠟	六八三	五九三	五〇九		
染塗料	四七二	三三八	二五四	一四二	
工業用藥品	一、〇一四	一、〇三四	八三五	一三五	
レール	一、九六九	九八	七三		
釘及ボールト	四三二	九九四	六二四		

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
鐵製品	三、一一四	一、二七〇	一二九七	一二四	
金屬線	一三、五二六	八、三三〇	二四		
金屬製品	一、一〇二	二九〇	四三	一、一三六	
金屬製機械	九一三	七五二	四一二		
和洋紙	二、九五八	二、七二三	一、九二九		
藥品	一、九四四	一、〇五八	六七七	二四	
火藥	八五四	二、一四	三八〇		
車輛	一三	三四			

一六、北亞米利加

輸出重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
米	七、六〇四 噸	四、九七〇 噸	五、一九七 噸	一五、七三〇 噸	一六、八三〇 噸
雜穀	—	一三	八五四	五三八	九五八	一、〇七三
和紙		七一四	四六九	四三八	四七九
茶及コーヒー	一、八四七	一、八七三	六二〇	三三〇	三七一
釀造品	三、二〇三	五、〇〇九	四、四三三	四、七二九	三、六六〇
乾物	三、七四一	一、〇三六	一、三七八	一、一三	一、一七五
昆布	—	一、〇三三	四八八	三三〇	五八〇
各種食料品	三、五五二	四、六二三	一、七四〇	一、九〇四	二、〇八〇
金屬材	四四七	八三二	四八四	四〇五	六二二
經木及麥稈眞田	一、七八三	一、〇八二	六八七	二二	七四六

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
豆	二、一五六	一、〇七二	一、三四一	—	一、〇四二
雜穀	二九九	一、五四一	一、八五七	六一七	六七七
穀粉及澱粉	九五七	一〇四	一、四二〇	三、三六九	三、六二四
各種食料品	二、二二四	三三 七〇六	五一、三五二	三、四五〇	三、四八三
燐礦石	五、九九二	一〇、九六四	一、八七〇	八〇二	一三七
木材	三六二	一四、七六八	五、〇八〇	二三、一二五	三〇、〇四六
棉花	二	一、二六一	—	五四四	四八七
棉實	六三六	四三三	一、五八〇	七五六	七五三
パルプ	一、三三六	四八二	四六二	三二七	三、五四一
獸皮及獸骨	一、〇一九	六六七	六二九	八五四	七〇〇
油脂及蠟	四三七	一、四四一	七二八	六二五	六六五
工業用藥品	七一	五九	一六六	三五〇	六二〇
敷物	一、八二九	七四八	八五三	九七九	三七五
麻苧製品	五八	一六二	三一〇	三四六	三七五
木製品	—	二六五	三八三	一八二	二一九
竹及簾製品	四九	三一	三三七	二三二	二三二
陶磁器	六二	七二一	四〇七	一八二	二三五
荒物	—	六〇七	三三一	三五一	三四五
刷子及刷毛	一、八二八	一、一一三	一、一八九	一、二七九	一、四三九
裝身用品	一、〇一九	六六七	六二九	六一八	八五四

一七、和蘭

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
鐵材	一四〇	五四	三	—	一八
工業用藥品	二三	四	三四	一二八	一三五
鐵材	二六、〇七四	一二、一五六	三、〇四八	一〇、四八四	五、一六九
金屬材	一、〇四九	二、四四五	一五四	二、二〇七	二、一〇七
各種肥料	二三八	二、九九七	九五三	—	一、六四
油脂及蠟	七七八	八七一	五〇二	二六四	二、六四
工業用藥品	二六六	二六三	一、九八一	四、二九〇	五、七〇四
礦油	七	二	二	—	—
石油	—	—	三、二四五	四、八一六	七、五〇〇
鐵管	九、七六五	五、三九八	五、五二七	三、〇七三	一、三二四
レール	一、二〇四	三、九一四	三、二四〇	八六六	八四一
釘及ボールト	三、七〇四	三、一五一	四七七	一六七	二五七
鐵製品	五、八四二	二、六四五	一、三八四	一、五二八	二、〇四三
金屬線	五、七五八	八三九	六三六	一、七六八	一、七九九
金屬製品	一、〇七七	八九七	一八四	四三〇	五三
金屬製機械	一、一三五	八五七	六一三	五九八	八七
藥品	九、九八六	二六九	一五七	二八七	三四五
火藥	—	—	—	—	八〇〇

一八、瑞典

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
パルプ	六、一〇四 噸	三、一一〇 噸	六、一三五 噸	七、八三八 噸	八、二四五 噸
鐵材	一、九三六	二、九四	二、四三〇	二、七四	二、五四
金屬材	—	一四三	一一〇	五九	二〇七
工業用藥品	一九	一三	五一〇	九三	一、三九二
製鐵品	九四	三〇九	一一三	六四	七三
金屬線	二	—	—	一九	七七
和洋紙	五、五二八	五、六九三	二、三四三	一、四四八	一、七八九
藥品	一六	一〇〇	三〇〇	五六六	五八三
金屬線	一八三 噸	四一 噸	四一 噸	一、五二七 噸	
印刷物	一八三	—	二三	—	

一九、丁抹

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
パルプ	— 噸	三五 噸	二三二 噸	八四六 噸	九五六 噸
金屬材	一七七	七八	三四	七八	八三
工業用藥品	—	一七	—	三九	四一六

二〇、西班牙

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
コノクス	— 噸	— 噸	— 噸	三、八五〇 噸	— 噸
和洋紙	一三〇	六二〇	一三〇	一四三	一七一

二一、南亞米利加

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
工業用藥品	— 噸	一三、三四四 噸	一六、二五〇 噸	三〇、三七〇 噸	三〇、〇一四 噸

二二、亞弗利加

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
燐礦石	四四、二八一 噸	九七、一八一 噸	五五、七三一 噸	五、一四五 噸	— 噸
棉花	—	—	二四〇八	九、二七	九、四八二
棉實	—	—	三四〇	一、八三三	二、〇八一
獸皮及獸骨	—	—	—	五二〇	六三七
鐵材	九九四	三	二三三	一、二五〇	一、三六七

二三、白耳義

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
棉花	七二六 噸	九六 噸	六六 噸	— 噸	— 噸
棉實	一、一四	七六七	五四三	—	—
パルプ	四〇九	四四	三六三	四三	五一六
鐵材	五六、三九四	五一、三九〇	三九、〇五八	六、八〇八	九、〇九二
金屬材	二、三七三	八三三	八七四	一六五	三三
煉瓦	—	五三〇	一四三	—	—
人造肥料	一九	三四三	五六六	—	—
其他肥料	七七	五八三	四四〇	—	—
染塗料	四四八	九三	一七六	—	四
工業用藥品	六一〇	二六七	二六七	一三四	一五二
鐵管	一、〇七七	五八六	三七七	二〇	—
レール	一、九九七	六、一〇五	二、二三三	一九五	一〇
釘及ボールト	六六六	三三五	四二三	二	—
鐵製品	五、四五四	二、二五四	一、〇九九	一三八	二四
金屬線	一、四〇三	一、三五一	一、〇一八	一四	—
金屬製機械	三八八	七〇三	一、〇七四	—	—
工業用藥品	—	—	八三五	一、一八〇	一、一二七
竹及籐製品	三九九	—	—	—	—

二四、墺太利匈牙利

輸入重要品

品名	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
獸皮及獸骨	五六九 噸	三〇〇 噸	二五〇 噸	— 噸	— 噸
鐵材	一二九	七四二	一四〇	一	—
油脂及蠟	五七一	七〇八	四四五	—	—
金屬製品	八二	三八七	—	—	—
和洋紙	一、〇〇七	一、三〇二	四七三	—	—
硝子及同製品	二三、七三三	二一、四九九	九、七八二	二、二九三	二、三五
和洋紙	三、四六五	二、三一四	一、三三〇	二	—
藥品	一、五六四	二四八	三六八	—	—

（未完）



覺めたる聲（上）

大阪市役所港灣部長　直木倫太郎

（一）爾の耳を疑へ

請ふ、我等をして飽迄其抱負を大ならしめよ飽迄其氣力を壯ならしめよ。而しこれが爲めには彼の屑々たる技術問題以外先づ其頭を擡向けて、切に「技術家」の何たるかに着眼し省慮し覺醒せしめよ。虚心以て今の囚はれたる境涯の如何に腑甲斐なきかを見、坦懷能く自家の詛はれたる運命の如何に意氣地なきかを知り、而して如何に此桎梏を脱し、如何に此蝸廬を去り、將た如何に自我を創造し充實し滿足すべきかを思はしめよ。斯くして始めて其勤勉努力に確たる根據を持ち其奮闘角逐に正しき標的を置き、其精進向上の一路に大なる理想を懸くるを得やう。

我等各自が今如何の位置境遇に置かれてあるかの如きは固より以て問題ではない。苟くも技術家たらんする程のものは其一齊にさし翳せる技術の大旆に無上の光輝あらしめんが爲めに、且つは各自其分に應じ其立場に處して夫々其生命に溢るゝ許りの興味と衝動と努力とを滿足し能ふ爲めに、誰しも振返つて先づ此根本問題に觸れねばならぬ。縱令如何の任務如何の針路を採るとも、内に其志氣の壯且つ大なるものを以てせずして、何くんぞ外に其行動の獨り生氣あり光彩あることを望まう。

米國エール大學のハッドレー校長は曰く「今より五十年の後、世の公共的任務に於て其最高

の位置を承認さるべきものは技術家である」と。同國ハーヴアード大學のスエーン教授は曰く「現代の社會問題とても其解決は遂に我等技術家の任務たるのである」と。此の如きは之れ既に何たる鋭き自覺の叫びであり何たる愉快な希望の高調である。我二十世紀　大問題は問はずして紛糾極まりなき社會問題の解決である。又多岐多端なる公共事業の大展開である。即ち特に此最も目覺ましき、花々しき二題目に對つて、曾に我等技術家の大飛躍大活動を希望するのみならず更に進んで其可能を豫斷するの、何すれば其意氣凛然として然かく壯んなるのであるか。今の我技術家たるもの、これを聞いて若し能く氣死せずんば幸である。

否、曾にそれのみではない。前の濠洲ビクトリア州の文部卿であつた、チャールス、ピーアソン氏は其著「國民性格論（ナショナル、ライフ、エンド、キャラクター）」に於て、「來るべき社會の新組織に優勝の地位を占むべきものは必ずや、科學的素養ある生産的部族である、政權とても確かに渠等の手に握らるべし」と斷じ。又英國一流の科學的小說家エッチ、ジー、ウエルス氏は其最も著名なる「豫想論（アンチシペーション）」に於て、「今より一世紀後の新社會を的確に左右し、其中堅として他の階級を指揮すべきものは、之れ技師醫師、其他の科學的訓練ある團體が、早晩同儕相扶くるの自覺によつて組成すべき、一種嶄新なる中等社會である。此階級の將來必ず大に異彩を發揮すべきことは今日ですら現に微かながらも其徵候を示しつゝある。されば今でこそ此階級は殆ど政治に參與せず、政界の外に超然として之れに關係せんとの意思すら示さんとはせざれど。然るにも拘らず渠等を將來の政治舞臺に引上げて其原動力たらしめざる可からざるの氣勢は最早隱約の間に生動し初めたるでは無いか」とまでに說いて居る。

が、或一部からして既に左樣に多く期待し祝福せられつゝある技術家自身は、果して自己に斯かる社會的活動の大抱負を自覺し得たるであらうか、我等は寧ろ餘りの意外に呆然として却て我耳を疑ふのではあるまいか。

覺めよ、覺めよ。理想の大、志氣の雄は、これ我等が技術家として眞に活くべき自覺の第一歩ではないか。能く活社會の活人たる面目に活き、又能く經世濟民の本義を徹して邁往すべき所以、そは只我等各自の意氣と、及び同儕相扶くるの自覺によつてのみ初めて庶幾し能ふではないか。

聞くが如くむば頃者我東京工科大學々長渡邊博士は古參の卒業生に對つて「今後の技術家は宜敷其專攻を基礎としつゝも、更に進んで種々の方面に對つて大に發展せざる可からざるの時機と事情とを生じ來つた、今後は此點につき學長のみならず同窓者共々十分の注意を拂はねばならぬ」と語られしと聞く。(門野氏「技術者の敎育」に據る)。其內容の詳しきことは知らねど若し果して然らんにはこも亦大に我等技術家の自覺を期待し要望するの聲ではないか。見よ、先覺者の胸より胸に通ふ一脈の春風は早くも海の內外となく自然に浮動し搖曳し來つて、既に我左右に吹き洽ねきではないか。

冀くは我先覺者をして疾く力强き覺醒の警鐘を猛打せしめよ、今の我等は餘りに能く眠れり今の斯界は餘りに多く安んぜり。我技術を標榜する大旆には風落ち日暗うして其光輝と色彩とを辨ずるに由なく、我尨大なる人衆には道盛まり影寒うして只心細げの足踏みを聞くのみ。今の覺めたる世に、今の生きたる時に、斯くて尙何時までを此儘にあり得んとや。

(二) 技術家の時代

我等がすめる現代こそはいとも驚異すべき時代である。世界の歷史の中で斯ばかり激しい科學萬能の世態を現出した例しもなければ、又さる偉大なる變化を豫想だも爲し得た時代もなかつた。此世紀にはたゞ凡てのものが驚く可き速度を以て生動し活躍し旋轉しつゝある。その苦痛に堪へかねて或は此文明の形式を詛ふの聲もある、「科學の破產」を呼ばはる叫びも聞こゆる。が誰が何と云はうとも何と敦圖くとも、一旦斯樣に現實に展開され初めた此の文明の進路を今更橫に扭向けしむべき途はない、否今後は過

去よりも凄まじき加速度を以て、より目覺ましき活力を以て、凡てがます〳〵生動し活躍し旋轉するであらう。而して此驚異すべき事態、此變幻極まりなき世想の驀進に向つて鞭を揚ぐる當の指揮者が技術家ではないか。

無論鐵道が無くとも汽船がなくとも電信電話がなくとも、世界は別に他の軌道を求めて新しい方向への進路を辿つたでもあらう。或は其方が今の科學萬能の時代に比べて一層平和な安靜な、道德も幸福も共に進むだ時代を現出したかも知らぬ、人間は一層高遠なる思索に耽り幽雅なる學藝に憧れ、萬目駘蕩として春の如き精神的文化に醉ふて、寧ろ今日の我等が夢にも髣髴し難き理想の黃金時代をより速に實現せしめたるかも知らぬ。が幸か不幸か、兎に角我技術家の祖先は、砂利道を以て滿足せる世の中へ敢から棒に百封度のレールを突付けたのである、猪牙船の港へ暗闇から牛のやうな大船を引出したのである、更に進んでは天から犢鼻褌を降らしかねない飛行機の時代を作つたのである、そして善かれ惡しかれ其後繼者たる我等が手に其全責任を讓つたのである。我等は何處迄も其突出された線路の使用方を見屆けねばならぬ、其降つて來る犢鼻褌の始末を着けねばならぬ。我等を現代文明の當の責任者と呼ぶに於て實際何の遠慮があらう。

ワットが蒸汽機關を發明した時と雖も、渠自身は恐らく自己の好奇心を滿足せしめた以外にそれが斯くまで世界を驚倒せしむる樣な大革新の動機とならうなどとは考へ及ばなかつたでもあらう。されど斯くして一度或きつかけが見出されたる以上、當時は固より其以後の總ゆる智惠者の興味が一圖に其方面に集注されて、無數の淋しき無名の偉人が交々其分別の限りを盡くして起つては倒れ起つては倒れする間に、何時としもなき勞作と改良との連續が惹いて今日の進步にまで展開したるではないか。敢てワットの塲合のみを問ふ必要はない、一事が萬事、凡て此調子で以て同じ經過と同じ進路を辿り、即ち今日誰が何と非難せうにも、呪詛せうにも事實に於て全然避く可からざる現代の世界的文明を

成就したるに見れば、最早是が非でも否が應でも此文明を今日に持ち來らしたる當の責任者として、斯く云ふ我等技術家の手腕を認めしざる譯があらうか。

「現代を以て若し特に或職業の時代だとすればそれは確かに技術の時代であらねばならぬ」と斯く云ひ切つた、スエーン敎授の言葉こそは、さても何たる手強き雄たけびである。古人が以て架空とし不可能事とし痴人夢を說くが如しとまでに思惟した、あらゆる人間社會の幸福、慰安、乃至豪奢の材料は、皆悉く我等の手に取揃へられてこれを現實に提供し、近代文化の根本義たる智識の傳播、交通の利便、物資の經濟に關する一切の設備は又殘りなく我等が力によつて目の前に爲し遂げられつゝあるではないか。無論思想界の進步も亦同時に顯著なるではあつたらうが法律の原理、道德の原則乃至藝術の基調は敢て現代にも劣らぬ完全さを以て疾くより古人に認められては居なかつたか。宗敎の敎義哲學の理論、それ等も亦今日に於て特に隔世の感あらしむべき程何處に古昔と違つた發展が認められるゝのであるか。恐らく夫等の多くが時世につれて只適當に其理義を敷衍し順應し適合せしむるにのみ世話しげなる間に於て、獨り我等のみは其努力に伴ふて却て現實に個人の權利思想を誘發し世界一如の大意義を貫徹せしめ得たるではないか。技術が其最も新しき職業たる拘らず、進んで以て覇を稱ふ可き時代、技術家が敢て自己に對し社會に對し、其專門に對し、其祖先に對して最も大なる名譽と責任との自覺を持つべき時代、而して羨まるゝとも嫉まるゝとも、兎に角自ら昂然として自己の任務に無上の權威と自信と滿足とを感ぜざる可からざる時代。これが今日只今の我等が立場でなくて何である。

(三) 罪は己にあり

茲に我等は何時もながら興味あるスエーン敎授の演說の一節を高唱するを禁ぜぬ。

曰く「我等技術家は其修養に於て既に立派な科學者である。されば其敎育にして若し予の考

ふるが如く又將來は是非とも然かあらねばならぬ所の如くに、數學、論理、科學、及び專攻技術以外新に人間學—歷史、經濟、語學、文學—の研鑽より成り、即ち我等をして廣く事物の關係に對する明瞭の觀念を養成し得せしむるならば、我等は現代社會上凡ての問題を正しく理解し正しく主張する上に於て、決して他の社會に後れを取らざる者である。

「凡そ科學的修養の目的とする處は斷わざる眞理の探求である。何物にも煩はされざる眞理其ものゝ研究。それが凡その科學者の目的であると同時に又我等技術家の目的である。之れ技術家の最も廣き範圍に縱橫活動し得べき第一の理由である。

「殊に技術家は自己の設計と構造とに對して、到底他の社會に見る可からざる程の重大なる責任の附隨せることを自覺す、即ち其自覺によつて常に其性格を淘冶し、從つて自裁自助自制の精神に篤きの利器を持ち。之れ渠等が廣く社會的に其力を試みるに足るべき第二の資格ではないか。

「況や技術は事業である、事業は技術である。即ち技術家には優に一個の事業家として立ち得る能力がある。渠等には能く多數の人を指揮する經濟並に財政問題を吟味し活用するの手腕があり、事業の畫策運用に關する確たる鑑識がある。之れ又第三第四と引續いて擧ぐべき大事な資格である。

「要するに渠等の修養と、性格と、及び其經驗とは、共に齊しく渠等をして今より廣き舞臺に積極的に花々しく活躍せしむるに於て飽迄十分なるでは無いか」と

見よ何たる根強ひ云ひぶりである。氏は更に語を繼いで曰く「例せば近代の大都市の行政とは何である、其內容は主として市又は市民の衛生、安全、財產、並秩序の保護では無いか、即ちこれ其要求に於て既に著しく技術的素質を帶びたるものでは無いか。無論財政上、法律上の問題も亦決して輕視すべくはないが、さりとて技術上の問題がこれに比して二番手のものたりとは

斷じて諾はれぬではないか。さればこそ技師が法律家や財政家に使役せらるゝと同じく、技師も亦宜敷法律家や財政家を指揮して十分に之等の大問題を解決し能ふ筈である。市長の位置だとてそれが技術家では敢て勤まらぬと云ひ除けらるべき筈は無い。……が遺憾ながらも米國では曾て技術家が市長であり得た例しが無い……」と。

併し話しの途中ではあるが、スエーン教授が斯く歎じてより未だ一年ならざる内に、米國で技術家が市長に選ばれ出したから面白い。それは土木の技師ヘンリー、ウエート氏がオハイオ州デートン市の市長に選擧せられたことである。

氏は其時まで隣市シンシンナチの技師長だつたのであるが、圖らず大洪水の爲めに悲慘な目に出逢つたデートン市民は氏によつて其市事業の復活興隆を冀ふと同時に又其才能に信頼して最も誠實熱心なる市行政の革進統合を氏に期待したのである。新しき氣運は斯く云ふ内にも澎湃として頻りに漲り來るものあるを祝さねばならぬ。

スエーン教授は更に說き進むらく「然かもそは啻に市事業とのみは限らぬ。他の一切の行政上の位置とても亦同じことである。凡そ國家の運用にも大會社の經營にも最早悉く多くの技術的大問題の附隨せざるはない、從つて夫等機關の最高幹部の位置は今後倍々技術家の手に占め得らるべき筈である。大統領の位置ですらも、それが技術家には所詮勤まり能はぬものかの如くに敢て自ら恐縮し退嬰し去るべき理由が何處にあらう。軍人が、學者が、政治家が、辯護士が等しく勤め得らるゝ位置を何故技術家に限つて特に勤め得られぬ如くに妄斷し畏縮し去るのであるか。我偉大なりし大統領ワシントンとリンコルンの二人は、强ち技術家なりとは云へずとも當時の技術に就て夫々多大の經驗を持ち得た人達ではなかつたか。佛蘭西の大統領の一人は正しく專門的の技術家だつたではないか。

「近年大なる行政單位に於て我技術家の組織的手腕を認むる傾向が次第に增加し來つたとは寔

に顯著の事實である。例せば都市の公共事業委員會は市長に次ぐべき重要の位置である、往時は何の市にても此委員は政治家の獨占に歸して居たのであるが、然も今日ではボストン、ヒラデルヒア、シンシンナチの如き大都市を始めとして、其他小都市は尚更技術家をして此位置に座らしむるではないか。斯かる愉快の傾向は今後に於て益々發展すべきであらう、又當然しかあらねばならぬ筈である。

「但し斯かる重要の位置に技術家が推擧せられん爲めには、我等自身が先づ宜敷他の專門の人の如くに、其識見、修養、經驗に於て十分の厚みを持たねばならぬは固より。寧ろ其以上に必要なるは、我等自身が社會の問題に對して他人と同樣の責任を自覺し、公共事業に對する自家の趣味を喚起し、經濟問題にまれ社會問題にまれ、我科學的考察力を中心として飽迄其知見を廣め、其思索を凝らし、及び屢々自家の意見を發表し、敢て自ら社會の面前に乘出す丈けの勇氣を持たねばならぬことである。『我がブルータスよ、劣者たる我等の欲点は敢て我等の運星の拙なかつた爲めではない、寧ろ我等自身の內にあつたのである』と。然り我等自身の內に、冀くば深くこれを思へ」と。

以上スエーン氏の力說はさても何たる雄々しさである。氏は先づ我等技術家の能く活社會に活動し能ふ所以の資格を說き、次に技術家自身の爲めに氏が所謂人間學の修養を促がし、最後には我等自身が社會上に大なる責任を負擔せんが爲めには。敢て自ら進んで社會の面前に乘出すだけの意氣を持たねばならぬと高調せるのである。然り敢て自ら挺して社會の表てに立つの意氣、此意氣あるによつて我等は初めて技術家としての權威と面目とを各目の任務に自覺し得るではないか。此の意氣あるによつて我等は初めて技術家たるの責任と滿足とを各自の立場に味徹し能ふではないか。

(四) 團体的自覺

英のウエルス氏は又其「豫想論」に於て次のやうな批評を試みて居る。

「茲に技術家と呼ぶ無數の人衆あれども、今日の所未だ一定の組織ある階級を爲さず、從つて其標本たるべき素質を取り留めて說明するは難く。ただ油煙にて眞黑に汚した顏を機關室から突出すのも技術家なれば、頑強なる足取りで石疊の上を驅けずり廻るも技術家である。電氣、鑛山、鐵道の技師もあれば、衛生、水產、農業の技師もある。機械の發達日一日に盛んなるにつれて只一筋の事業の中にも種々雜多の技術を分つべく、或は電車、自働車、飛行機等の新需用に應ずる者もあれば、染織、窯業、土工、建築、造船、鍛冶、鑄物等の古風な任務に從ふもある。況や技師の下には技手あり職工あり、職工とても何時までかは技術の新兵たるべき。世界の大勢は渠等の中にも必ず或程度の智識あり才能ある者を要求し、其資格に缺ぐる程の者は早晩競爭の劣敗者として其職を失ひ、やがて無能無產の貧民と化して別種の社會に押流されば、則ち苟くも此社會に踏止まり得べき限りは如何に最下級の者とても夫々機械若くば勞作の構造組織に習熟し、且つ其日々々に進歩し變化し行く新智識を受納し能はざるはあらず。馬丁や指物師位ひの仕事ならば紋切形の舊知識にても十分ならんが、苟くも技術家として立たん以上は、常に新案新式を工風し操縱し、變化進歩の背後に潜める科學的智識を吸收して、敏活と變通との才智を間斷なく働かさゞる可からず。即ち此新奇にして且つ絶えず發達する技術の世界では、上は棟梁より下は逐廻しまで、大は事業の計畫者より小は其一局部の助手まで、何れも皆相當に新しき敎育ありて應用の才に富み、且つ科學的に堅實なる思慮を有することは最も注意すべきの点である。即ち早晩斯かる有力の基礎に立つ技術家各自が其共通の利害に目覺めて同儕次第に相融合し相協力し、遂に一つの新らしき階級として社會の表に出現するに至らんことも亦避く可からざる勢である。

然かも何故に此技術家の新階級が今日までも出現せず、渠等の凡てがいまだに散漫荏漠として毫も一定の組織なく團結なく、主義なく目的

なきのであるか。

「惟ふにこれ第一に古風なる仕事師肌、職人氣質の磅礴として尚遽等を魅せる爲めではないか舊時代の雇主は被傭人どもをして只出來るだけ多く勞役せしむるに腐心し、被傭人は又これに反して生涯勞役の外何の希望も目的もなく、從つて只自己の勞役をなるべく最小ならしむるやうにとのみ工風したりしものである。即ち社會は勞役者をして成るべく從順ならしむるに勗め被役者は社會の氣附かざる限りに成るべく其手を抜き其勞を省きてせめてもの安逸を其間に僥倖せんと欲した。その古風な陋習がいまだに遽等に禍ひして、既に今日の如く新式の工作が新式の工人を要求し、惹て遽等の地位を高め其希望を豐富ならしむべき場合にまで、依然として從順と卑屈との弊を移く能はざる爲めではないか。銘々相當の年季を修めて僅に贏ち得た自己の職分を守るに急なることは如何にも尤もながら、然かもそをさも〳〵貴重なるもの〻如くに墨守し、只管それによつて一生の安逸をのみ圖らんと欲する所謂仕事師氣質の遺風が今でも尚此世界の到る處に種々其姿を變へて殘存せることは往々にして目擊せざるを得ぬではないか。

「然れどもやがては凡ての方面に技師なり職工なりの發奮によつて次第に其識見を啓發し、同儕相倚るの自覺を以て結合し、遂には重要なる歷史上の新勢力とまで大成するに至るの趨勢は最早何人とても首肯せざるを得ぬのである。即ち彼の飽迄卑屈な舊慣から罷脫し能はぬ輩の如きは結局多數の捨てられものとなつて、彼の貧民級の大渦流に捲込まるゝのが最後であらう。が、然し乍ら斯かる有力なる新勢力を發生するに方つて最も必要なるは、先づ之を左樣なる自覺にまで指導し敎育し行くべき者である。そは云ふまでも無く廣く呼吸し高く着眼せる科學界の先達者でなければならぬ、眞乎透徹せる技術の意義に不案内なる生物識では駄目である」と。

渠は斯やうに科學的素養ある中等階級の新力を將來に認めて、其發現の遲々たるは畢竟相互の團結的自覺の乏しきにありとし、他の諸階級

の推移と對比し來つて今より百年後の社會の變化を頗る興味多く說き續けて居る。

「見よ、今日の社會は既に驚く可き動搖不定のものにて、其色彩の混沌たるは恰も灰色の如くなれど、併しながらこは本來よりの灰色には非ずして、寧ろ餘りに多くの色彩が交叉し錯綜して却て然るものなれば、やがては之等の諸色夫々分離して所々に其著しき本色を發揮し、且つは次第に其濃度を進め來ると共に、舊社會の古風は漸く失せ、新集團各個の特色は益々熟し、其旗幟彌々鮮明となるにつれて社會全體の公生活上に大變化を來すに至らう。其時、虹の如くに現はれ來る諸色の中に、わけても一個の色は次第に格段の新彩を放つであらう。即ち徐々として今の貴族や、富豪や、純然たる投機者流や雜駁なる不生産者流やを擧げて溶解し、併せて他の諸階級をも順次に淘汰し去るの作用ある强烈なる社會の分解力は、却て實質的の修養あり職業ある人々、即ち技師、醫師等に向つては寧ろ其結合的作用として現はれ、渠等に共通の特質と信念とを與へて利害休戚の感を同じうせしむる一個の自覺的團体を促成し、此人々は何れも其學べる實驗科學を基礎として人生の本領を解し、惡德を生ずる弊害の眞理由を知り、眞面目なる生産者は又同時に一世の敎育的勢力として立つに至るであらう。尤も渠等が百年の後、社會の最有力なる階級として現はるゝに至るまで、今日の流動し溶解しつゝある道德を如何程まで墨守し又は變改するかは玆に明言し難きも兎に角渠等は道德的の階級たるべく、必要に應じて文學を發達し、事物を研究し、試驗し、取捨し、以て今日渠等の迷ふ所の凡てを明察し我等の優柔決し能はざる所の凡てを明斷するであらう。現今社會の混亂中より現はれ、近き將來に最も重味ある一大要素たらんとするものは、實に斯くの如き有効にして敎育ある人達の一大集團であらねばならぬ」(大日本文明協會譯本より)と。

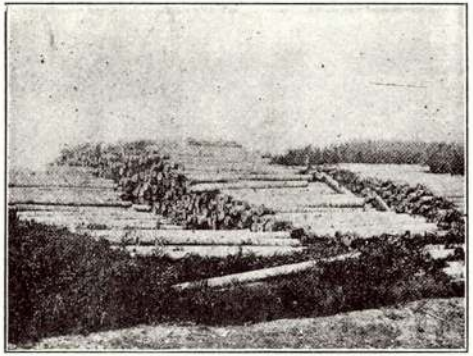
我等は最早此以上に該書を引用するを爲さぬが、兎に角此興味深き書物の全篇に亘つて我等

技術家の未來に暗示さるゝものゝ多きは頗る愉快である。我等は著者の筆致に魅せられて不知不識に過大とも見ゆる前途の光明を攀ぢ、恍惚として却て自己に見惚るゝの感に堪へぬ。が、然かも飜つて少しく今の我技術界の現狀に比すれば、そは寧ろ我背らに三十棒を喰はしむるものではないか。噫止ぬるかな今より百年後の世界、そは我等の爲めには尚餘りに遠き夢幻境たるのである。（未完）

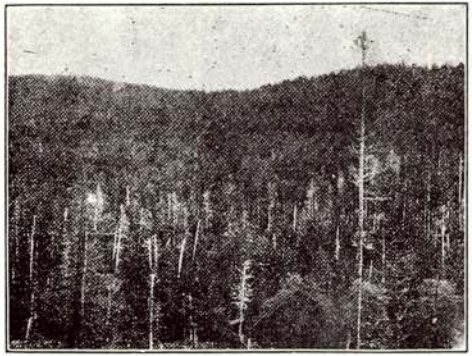
▽筆不性△

一体技術家には筆不性が持前なるかのやうに云はれて居る。そして御互にも亦矢鱈に筆不性を振廻してさも當然なるかのやうな變な笑ひ方をする。が今の時世に、今の技術界に、それが何れだけ褒めた事柄なのか。否それが寧ろ自ら侮るに似たさもしい卑怯の遁辭だとは氣が付かぬだらうか。

目覺ましき論文、なすばらしき研究、大裝裂な工事報告と、今迄そんな所にばかり目を付け來つたが爲めに自然と氣がひける、躊躇もする。臆病にもなる、そして筆不性の遁口上も吐きたくなつたでもあらうが、それは畢竟左樣な大もの計りを要求した學會の罪である。否左樣な立派な學會よりしか持ち得なかつた斯界の罪である。我等としてはもつと自由な氣焔の吐場を持たねばならぬ、專門としてももつと氣樂なる研究に報告の交換に罷めねばならぬ。そして最早凡ての技術家から眞先に筆不性の口實を撤回せしめねばならぬ（「技術生活より」）



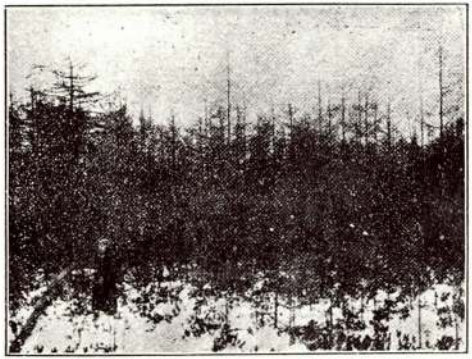
■唐松停車場附近の椴松と蝦夷松



■大澤試驗林內椴松及蝦夷松混淆林の遠望



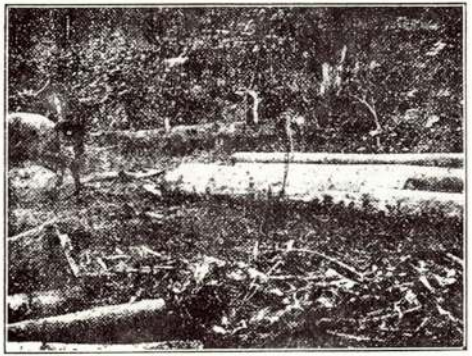
■大澤試驗林に於ける木材「トロリー」



■中里地方落葉松の林相



■冬期豐原附近に於て馬橇を使用して木材を運搬するの光景



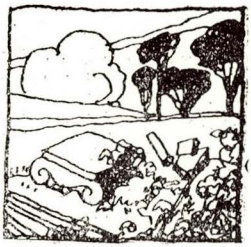
■大澤試驗林に於ける玉出しの光景



■大泊川上流森林落葉松、椴松、蝦夷松の混淆林の雪景



■大澤試驗林に於ける天然更新試驗の爲伐採せる狀況



本邦森林と建築用材に就いて（四）

會員　谷民藏

◆樺太國有林經營の一班

△林野の區別
△林野の保續的經營
△經濟林の利用
△樹木の蓄積

筆者は茲に聊か順序轉倒の嫌はあるが、今は盛暑三伏の候炎熱愈酷烈恰も甑底に坐居するの思あり、流汗淋漓拭ふに暇あらずといふ時節柄、北國の雪景色を御高覽に供へんものとの愚案から寒帶地方森林の內容を御紹介申上ぐる次第である。

曾て予は東京麻布狸穴に樺太東京出張所に西岡事務官を訪問したことがある、西岡氏の御話によれば該廳管內森林の或る一部は大正二三年頃、一應民間に拂下げたることありたるも、其後の豫定計畫は凡て製紙或は一般工業用原料に充當する事となつて、土木建築の方面へ迄及ぼす能はざるを遺憾とするといふことであつた。亦事實樺太國有林材の販路は土木建築方面に及ぼし得ない事情もある樣であるが予は茲に特に筆を驅つて樺太材の現狀を御紹介申上ぐる所以はやがて御一讀の上御諒解有之べきことと思ふ。

□樺太國有林經營の一班

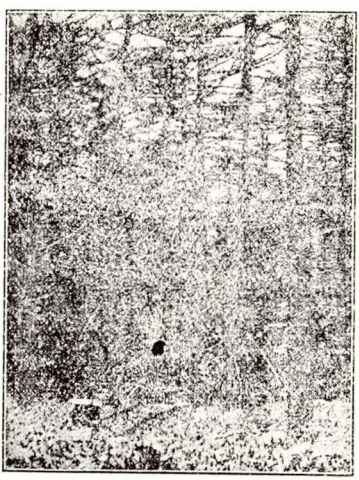
本島の森林は世人の既に悉知さるゝ如く、我國の版圖に移りてより日尙ほ淺きが爲めに周く其販路は開拓せられざる嫌があるけれども之れが林相の調査は最早完成の域に到達すべしとの事である。蓋し該地方は概ね寒帶樹種にして而かも單純林多く其蓄積の豐富なること本邦中稀に見る一大美林なれば近時我工業界の勃興に伴ひ之れが原料の需給相調節し國家的經濟林として圓滿なる發達を期し得ると思ふ、既に本年の

如きは「パープ」用原料としても七萬餘噸の供給を爲せりと云ふことである、猶ほ此森林には諸大學より研究林を特設し已に林業的功蹟の顯著なるものあるのみならず直接間接に我建築界にも至大の影響あるべきを思意して茲に樺太林相の概況を特筆する所以である。

抑も樺太國有林の面積は其の概測三百三十五萬町歩即ち全島地積の九割強に當り其の立木地は平地山嶽共に蓊鬱たる樹木を以て蔽はれ現在の總積は針葉樹約十五億萬尺締濶葉樹約一億四百萬尺締を算してゐる、此豊富なる資源を適當に利用すると共に其の完全なる涵養の法を確立し、以て萬一の遺策なきを期するは樺太拓殖の一大要義たるを以て農牧適地、市街村落、漁業及鑛業用地、道路、鐵道、其の他工業用地たるべき以外の林地は國有林として保安利用並に更新の途を講じ森林の經營を實行せんが爲め既往數年間調査を重ね實狀を究め茲に森林の經營方針を確立せられたのである、依つて其の綱領を左に畧記して見やうと思ふ。

(2) 林野の區分

樺太全地積三百六十四萬町歩より殖民選定地十二萬町歩、海岸及河川湖沼十六萬町歩を控除したる國有林野地三百三十五萬町歩は、之れを左の如く大別す。



清川附近に於ける落葉松純林

（圓柱・橋梁・直通滿木に・杭木・梁に耐久力大に賞用せらるる故電ろ）

（甲）國有林面積　三百五萬町歩　九割一分

（乙）開墾豫定地面積　三十萬町歩　九分

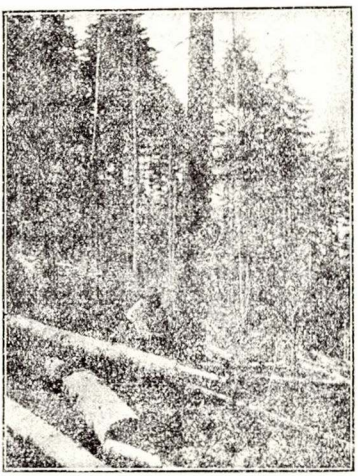
更に其の國有林は之れを左の如く區分してゐる。

第一、經濟林　二百五十萬町歩八割二分

第二、保安林　四十三萬町歩　一割四分
第三、特種官林　九萬町歩　三分
第四、除地　三萬町歩　一分

1、即ち國家經濟林とは主として國家の財政收入を得るを目的として經營するものであつて純然たる國家主義を有する林種なり、從つて農業其他の產業上必要なる土地以外の地域を包容するものである。

2、國土保安上必要なる箇所は之れを保安林に編入す。



夏期木材伐採の狀況

（本島にては冬期伐採を行ふも又夏期にも之を行ふ）

3、特種官林とは東京、京都、東北、九州各大學より交涉に係る演習林の地域を豫定せるものである。

4、除地は保安以外の岩石地其の他全く林業經濟の用途に供する能はざるもの。

更に「ツンドラ」地とは樺太に特有なる苔蘚類の四時凍凝せる地域を云ふのである。

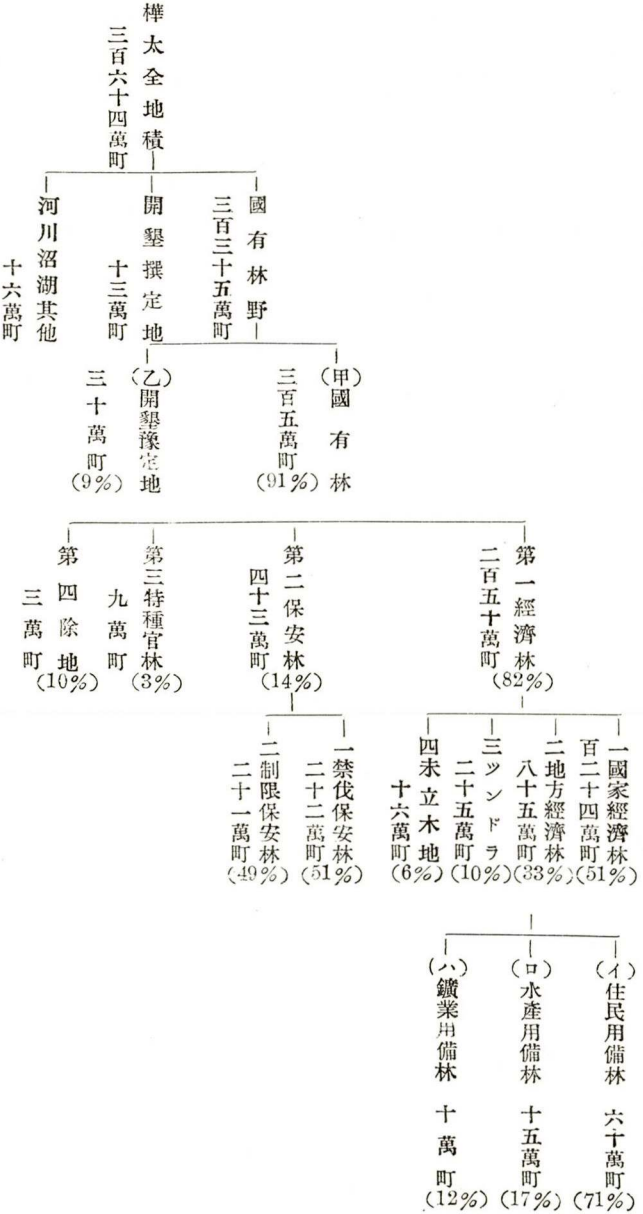
(3) 林野の保續的經營

前陳の如く本島の國有林野は大體之を經濟林保安林の二種に別ち事業案の編成に隨ひ經濟林は天然更新及人工更新に依り伐採、造林を行ひ以て森林の收益を擧ぐると共に林相の整備と林力の充實とを計り永遠連綿として保續的に森林の有形無形の效益を全ふせんとするものである

森林の經營上將來主眼とする所の樹種は針葉樹に在りては椴松、蝦夷松、落葉松としてゐる此の三種のものは寒帶樹種として最も本島の氣候、風土に適するからである、而して其の椴松と蝦夷松とは現在の如く混淆林又は單純林の狀態のまゝ天然新更法に因りて之れが更新を行ふ

第一表

樺太國有林野區分豫定表



ことが出來る。獨り落葉松林の天然更新にありては頗る困難にして之れを完全に行わんとすれば其林下の灌木、雜草等を芟除若くば燒拂ひ又は場所に依りては濕れ地ツンドラ地をなすが故に之れを天然下種に適する樣に地拵をなす爲め林地を掻起し又は排木等の施設をしなければならない、然れども此等の費用は頗る多額を要するを以て寧ろ簡易なる人工造林を行ふの外はない。



樺太國有林野區分豫定圖

尙ほ濶葉樹に在ては白樺は薪炭材、器具材として最も將來に必要なるが故に此の樹種の增殖に對して格段の注意を要するといふことである其の更新方法は可及的天然下種に因る可しと雖も場所に依りては人工植栽又は萌芽作業を行ふべし其他白楊、楊柳類、「ポ、ラ」春楡、及楢等の如き工業原料となるべき樹種の人工造林をなすは頗る良策である。

(4) 經濟林の利用

前記の如く國有林面積三百五萬町歩の內經濟林は百五十萬町歩にして尙此の內よりツンドラ地二十五萬町歩と未立木地十六萬町歩とを撰除すれば現に立木地たる經濟林は二百九町歩となる今其の利用の一班を說述せば左の如し。

(5) 國家經濟林

木林は各種工業原料、建築用材其の他廣く一般の需要に應ず可きものにして地方的關係に顧慮するを要せず、純然たる國庫の財源なる森林收入を得べき種類に屬す而して天然更新法に依り所伐施業すべきものにして今輪伐期を百年と假定せば年々の採伐面積は一萬二千四百町歩となる而して其の材積は從來森林調査の結果による全島針濶平均材積は每町約五百四十五尺締にして內針葉樹五百十尺締即ち九十三パーセントにて濶葉樹三十五尺締即ち百分の七なるが故に濶葉樹は之を除外し針葉樹のみにて計算する時は年伐材積六百三十萬尺締となる、然るに既往賣拂處分に際し調査せる所に依れば直徑四寸以上の利用價値ある林木の材積は其の場所に依り區々一定せざれども大体平均すれば針葉樹每町材積三百二十二尺締ある、故に此少量の材積を以て計算するも其年伐し得べき林力は四百萬尺締となる、然れども本島に於ける一般經濟的關係其の他陸運、海運等の關係よりして此の巨萬の材量が一時急激に需要を喚起すべくもあらず尙ほ且つ本島林木の需要は單に樺太のみの問題に非ずして、北海道及び內地に於ける工業特に製紙原料の關係及工藝用材の缺乏、朝鮮、支那方面の木材商況の關係よりして今後多少の消長あるべけれども大体に於て年一年と增加の趨勢に向ふべきは茲に確信する所である。

(6) 地方經濟林

本林中住民用備林は主として地方住民に直接必用なる用材、薪炭材を供給するものにして本島の人口は現今頗る稀少なるのみならず部落及市街の住民に於ても貸附地等よりの伐材を使用すべきに依り當分の間は單に住民用備林より供給すべきものは割合に少量なる可し然れども拓地移民の增加と共に將來に於て漸次需要を增すべきであらう。

(7) 水產用備林

本林は鰊、鮭、鱒、鱈、鰈等の漁獲製造に要する用材及薪材を供給するものにして其需要額も漁業の豊凶に依り多少相違あるを常とすれども今過去の實際より推算して年々の所要材積は

大約七萬尺締位なる可し。

8 鑛業用備林

從來鑛業用材として處分したるものは僅かに數千尺締に過ぎず此の需要材は將來各炭田の開坑せらるゝ程度に依つて決すべきものなり、蓋し樺太炭田の總炭量は大略五億噸にして一噸に付き末口四寸長さ八尺の丸太二本其の材積〇、二尺締を要するものとせば乃ち總炭量に對し一億尺締を要する。然るに一ケ年平均の採炭量を二百萬噸とせば採炭年數二百五十年となるが故に假定輪伐期百年間には二億噸の採炭にして所要の材積は四千萬尺締此の面積約十萬町歩を豫備せば永久に其の需用に應ずることを得べし。而して樺太領有以來去る明治三十八年より大正元年度に至るまで賣拂其他の爲め伐採せる材積は左表(甲)の如く最高百五十萬尺締(四十四年度)にして本經營案により今後十五ケ年間に年期賣拂其他に依り伐材せらるべき豫想の材積は(乙)の如く大正二年度に於ける百六十萬尺締より年々累增して十五ケ年目(即ち大正十六年度)の年伐量は五百四十萬尺締を最高とする。而して此の豫想材積に對し經濟林二百餘萬町歩の年伐林力は(丙)表の如く六百萬尺締まで達せしむる事を得るが故に毫も過伐の弊に陷ることなく尙ほ此の十五ケ年間に於て林力の餘剩四千三百六十萬尺締餘を有するを見るが故に如何に本案の確實安全なるかは今更喋々を要せざることであらう。

(甲)既往伐採材積表

年度	用材	薪炭	計
明治三十八年度	二、九五四 尺メ	二、六八〇 尺メ	五、六三四 尺メ
同 三十九年度	四七、三一三	九二、三四〇	一三九、六五三
同 四十年度	一八八、九六〇	三八六、六六四	五七五、六二四
同 四十一年度	一五八、四一一	五七七、八五四	七三六、二六五
同 四十二年度	二三八、(九〇)	五〇〇、五八〇	七三八、六七〇
同 四十三年度	五三八、二五二	五三〇、四四六	一、〇五八、六九八
同 四十四年度	九二二、八二三	五八一、〇五二	一、五〇三、八七〇
大正元年度	八〇一、八四四	六三〇、六二三	一、四三二、四六七

既往八ヶ年間伐材積比較表

明治三十八年度	一五、六三四、尺〆
同 三十九年度	一三九、六五三尺〆、
同 四十年度	五七五、六二四尺〆、
同 四十一年度	七三六、二六五、尺〆
同 四十二年度	七三八、六七〇、尺〆
同 四十三年度	一、〇五八、六九八、尺〆
同 四十四年度	一、五〇三、八七〇、尺〆
大正年元度	一、四三二、四六七、尺〆

(乙) 大正七年度以降十ヶ年間年伐材積豫想比較表

年度	壹ヶ年度伐木材積
大正七年度	二百二十八萬尺〆
同 八年度	二百四十九萬尺〆
同 九年度	二百八十二萬尺〆
同 十年度	三百十二萬尺〆
同 十一年度	三百四十四萬尺〆
同 十二年度	三百八十三萬尺〆
同 十三年度	四百十九萬尺〆
同 十四年度	四百六十萬尺〆
同 十五年度	四百九十七萬尺〆
同 十六年度	五百四十萬尺〆

第二表

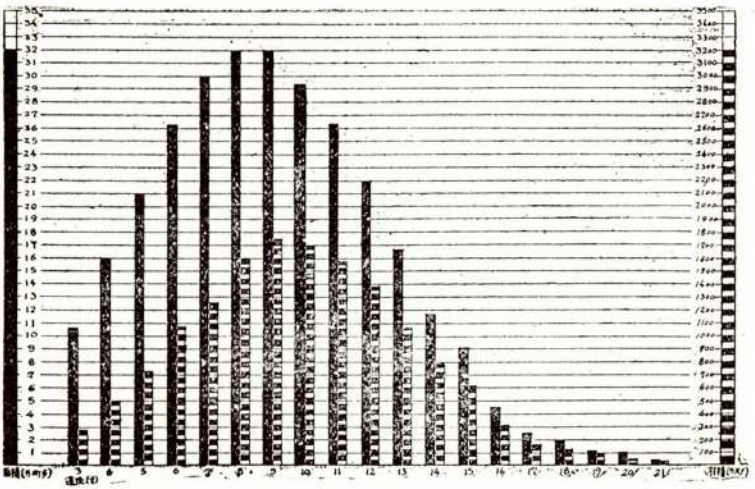
樺太國有林蓄積表 (針葉樹)

每町歩ニ付 直徑 寸	高サ 尺	形數	本數	材積 尺	本數 百分率	材積 百分率	全島ニ付 面積 万町	材積 万尺〆
3	21	0.555	130.00	8.97	19.11	1.76	10.61	264
4	26	0.534	111.24	16.13	16.35	3.16	16.15	474
5	31	0.520	93.63	24.72	13.77	4.85	21.24	727
6	37	0.508	80.36	35.99	11.81	7.05	26.24	1.058
7	43	0.498	67.42	46.32	9.91	9.08	29.97	1.362
8	48	0.490	54.86	54.04	8.06	10.59	31.85	1 589
9	53	0.481	43.58	58.92	6.41	11.55	32.02	1.732
10	57	0.475	32 33	57.29	4.75	11.23	29.33	1.684
11	60	0.470	24.00	53.59	3.53	10 50	26.34	1.576
12	63	0.465	16.82	46.44	2.47	9.10	21.97	1.365
13	65	0.461	10.91	36.16	1.60	7.09	16.73	1.063
14	67	0.458	6.63	26.10	0.98	5.12	11.79	767
15	69	0.455	4.50	20.80	0.66	4.08	9.19	612
16	71	0.451	1.89	10.14	0.28	1.99	4.39	298
17	72	0.450	0.91	5.58	0.13	1.09	2.39	164
18	73	0.448	0.61	4.23	0·09	0.83	1.79	124
19	74	0.446	0.31	2.42	0.05	0.47	1.02	71
20	75	0.445	0.17	1.49	0.03	0.29	0.62	44
21	76	0.445	0.09	0·87	0.01	0.17	0.36	26
計			680.26	510.20	100.00	100.00	294.00	150.000

注意 (本表ハ林野總面積三百三十五萬町歩ヨリツンドラ(地二十五萬町歩未立木地十六萬町歩ヲ控除シタル現立木地二百九十四萬町歩ニ對スルモノナリ

第三表

樺太國有林各直徑階に對する面積及材積比較表



本表は大正二年度末調査並に豫定額にして明治三十八年即ち我領土に轉嫁せし當時より大正元年迄での八ケ年間に於て顯れたる實跡に徴し爾後之れが標準として豫定計畫を樹立せられたるものにて何人か其巨額なるに一驚を喫せざるものがあらう、更に經濟林伐木豫定數に其材積の潤澤にして内容の堅實なることは以て吾人の意を強からしむるものがある今左に之れが詳細を摘錄して見ると。

（丙）經濟林伐採林力豫定表

年度	年伐材力				本案に示したる實行上の年伐豫定				差引林力の餘剰	
	面積	面積累計	材積	材積累計	面積	面積累計	材料	材料累計	面積	材積
	町	町	万尺ノ六〇〇、	万尺ノ	町	町	万尺ノ一六一、	万尺ノ	町	万尺ノ四三九、
大正二年度	二〇、〇〇〇、	——		——	五、〇〇〇、	——		——	一五、〇〇〇、	
同三年度	二〇、〇〇〇、	四〇、〇〇〇、	六〇〇、	一、二〇〇、	五、五二〇、	一〇、五二〇、	一七二、	三三三、	一四、五〇〇、	二八、
同四年度	二〇、〇〇〇、	六〇、〇〇〇、	六〇〇、	一、八〇〇、	六、〇五〇、	一六、五七〇、	一八四、	五一七、	一三、九五〇、	四二六、
同五年度	二〇、〇〇〇、	八〇、〇〇〇、	六〇〇、	二、四〇〇、	六、六二〇、	二三、二一〇、	一九七、	七一四、	一三、三四〇、	四〇三、
同六年度	二〇、〇〇〇、	一〇〇、〇〇〇、	六〇〇、	三、〇〇〇、	七、三三〇、	三〇、五四〇、	二二一、	九三五、	一二、六七〇、	三八九、
同七年度	二〇、〇〇〇、	一二〇、〇〇〇、	六〇〇、	三、六〇〇、	八、〇八〇、	三八、六二〇、	二三八、	一、一五三、	一二、九四〇、	三七二、
同八年度	二〇、〇〇〇、	一四〇、〇〇〇、	六〇〇、	四、二〇〇、	八、八七〇、	四七、四九〇、	二四九、	一、四〇二、	一二、一三〇、	三五一、
同九年度	二〇、〇〇〇、	一六〇、〇〇〇、	六〇〇、	四、八〇〇、	九、七二〇、	五七、二一〇、	二八二、	一、六八四、	一〇、二八〇、	一八、
同十年度	二〇、〇〇〇、	一八〇、〇〇〇、	六〇〇、	五、四〇〇、	一〇、七四〇、	六七、九五〇、	三二二、	一、九六六、	九、二六〇、	二八八、
同十一年度	二〇、〇〇〇、	二〇〇、〇〇〇、	六〇〇、	六、〇〇〇、	一一、八一〇、	七九、七六〇、	三四四、	二、三一〇、	八、一九〇、	二五六、
同十二年度	二〇、〇〇〇、	二二〇、〇〇〇、	六〇〇、	六、六〇〇、	一三、九九〇、	九三、七五〇、	三八三、	二、七二三、	七、〇一〇、	二七、
同十三年度	二〇、〇〇〇、	二四〇、〇〇〇、	六〇〇、	七、二〇〇、	一四、二八〇、	一〇七、〇五〇、	四一九、	三、一四二、	五、七二〇、	一八一、
同十四年度	二〇、〇〇〇、	二六〇、〇〇〇、	六〇〇、	七、八一〇、	一五、七一〇、	一二三、七六〇、	四六〇、	三、六〇二、	四、二九〇、	一四〇、
同十五年度	二〇、〇〇〇、	二八〇、〇〇〇、	六〇〇、	八、四〇〇、	一六、五二〇、	一三九、二八〇、	四九七、	四、〇九九、	三、四八〇、	一〇四、
同十六年度	二〇、〇〇〇、	三〇〇、〇〇〇、	六〇〇、	九、〇〇〇、	一八、〇〇〇、	一五七、二八〇、	五四〇、	四、六三九、	二、〇〇〇、	六〇、
計	——	三〇〇、〇〇〇、	——	九、〇〇〇、	——	一五七、二八〇、	——	四、六三九、	一四二、七二〇、	四、三六一、

林木の更新は追而造林經營欄に紹介するも茲には順序として其一端を摘錄する經濟林の伐採跡地は直に更新養護の取扱をなし以て稚樹の生長を促進せしめ可及的速に成林を計るべきものである、又未立木地及燒跡地其の他保安林等にして人工植栽を必要とする所は漸次造林を行ふ即ち本島森林の造林は天然更新を主とし其の一部を人工造林をなすを原則とす、造林の主要樹種は大約左記のものを採用する、此の外尙內國種、外國種にして本島の氣候風土に適すと思量せらるゝものは林業試驗をなし其の成績に鑑み之を加ふることもある。

即ち　針葉樹林　（天然更新　（人工造林　蝦夷松、假松、落葉松、落葉松、蝦夷松、椴松、獨逸唐檜、朝鮮五葉松、瑞典松、

濶葉松林　（天然更新　（人工造林　白樺、白樺、白楊類、柳類、ヤマナラシ類、刺槐、檜、山櫻、楓類、春楡、佛、

以上の如き關係を有し尙ほ更新方法の概要を詳述せば左の如くなる。

一、天然更新としては前生更新法に依り椴松、蝦夷松を主とし前生稚樹の發生せる所に於て斫伐を行ひ直徑四寸以上のものは之れを皆伐するものとなす、依つて保殘せられたる稚樹は其の生長を促すが爲に過密の場所は適當の手入を行ふ。但し保安林又は稚樹發生の狀況、林地の關係等特別の場所に對し擇伐作業を行ふことを妨げず、而して伐採跡地に殘留せられたる無數の未木枝葉等は天然更新上の障害たり若は森林火災に對する危險物たるのみならず且つ其の儘放棄するは極めて不經濟なるが故に之れを利用して假令は「テレビン」の製造又は場所に依りては薪材となし依つて林地の整理をなすと同時に集約的利用をなすべきものである。

二、前二者の方法を採るも到底天然更新法にては成林の見込なき所は斷然人工造林法を採り前に揭げたる樹種の植栽を行ふものである。

右造林方法或は保護管理法等の研究は他日期會を得て詳論する事とし本項には樺太森林伐木材積を以て暫く擱筆したいと思ふ。（未完）



都市と建築

都市研究生

二十年後の大阪（二）

（四）交通狀態

三十年後の大阪市の狀況の中で最も甚しく吾人を驚かすものは、其交通狀態の進歩であるであらふと思はれる。同じく交通と言つても築港方面よりの海洋交通及鐵道及軌道による內地各地方との陸上連絡を第一とし、市內の各種交通機關に迫ぶのであるから其方面は中々廣いのであるが、此處には其主要なるものゝみに就て其大勢を推定して見ることゝする。

先づ大阪の大玄關たる梅田停車場の容子を見るに、大正五年の統計によれば其乘車客三百九十萬七千八百餘人降車客四百三十萬四千五百人餘合計八百二十一萬二千三百餘人之を一日に平均すれば僅かに二萬二千五百人にしか當つて居ないのであるが、卅年後の我大阪市の大玄關はそれの幾割かを增したと言ふような小さな數字にて現はし得る乘降客を以ては滿足出來ないのである。人口三百萬地域十平方里の大商工都市の經濟活力が吸收し又は吐き出す旅客の數は歐

米の都大市が嘗めつゝある經過より見て、如何に之を內輪に計上するも每日十萬を下ることなかるべく、紋日其他シーズンに際しては一日二十萬人を取扱ふ日のあることをも覺悟せねばならぬのである。して見ると其多數の旅客を取扱ふべき大停車場は其規模に於ても設備に於ても華盛頓のユニオン停車場か、紐育のグランド、セントラル停車場のような程度に之を改築せねばならぬ。其位地は現在よりも更に北の方五六町淀川に近き處に、市內一等道路の北端に正面を有するを便利とする。線路も凡て正面に直角に出入するを原則とし、現在の如き一通過驛として建物と並行に線路を取扱ふては不便至極である。

現在は東京に集中する旅客は我國都市中最も多數であるけれども、三十年後の狀態を推定するに、地の利と言ひ、經濟力の充實と言ひ、我大阪に集中するものは甚だしく他の大都市を超越し、殊に其增加率の大なることを想像すれば其以後に於ても益懸隔を生ずるであらふと思はれる。丁度紐育市が經濟發展に有利なる地位にある爲め最近二三十年間に非常な膨脹をなし、其旅客集中の增加の甚しかりしと同じく、今後大阪の地利と商工業の發展の趨勢は大阪市の出入旅客を急激に增大せしむるは逆睹するに難からぬのである。

鐵道停車場としては北部の大玄關の外更に南部及輪環線路の停車場をも考へねばならぬ、此等は北部大停車場の位地變更に伴ひ自然其線路は變更され、現時の湊町停車場も今よりズット南に下がり、其規模も可なり大仕掛となすの要がある、大正五年度の乘降客は百三十三萬人に過ぎぬけれども、名古屋方面の發展と共に漸次其分量を增加し、每年四五百萬人の旅客を取扱ふべき組織に改造されねばならぬ。其建物は市內南北大幹線街路の南端に於て其正面を並行に有するを最もよしとする。而して其貨物線が築港方面の岸壁に達して、倉庫陸橋クレーンと共に荷役上の便利を有せねばならぬことは言ふまでもない。

次に郊外電車線路の統一整理と其運轉增加方法を一瞥するに、現在に彼等が運搬しつゝある乘客數は僅かに一ケ年七千萬人（賃金五百萬圓餘大正五年度）にして、其所有する車輛は六會社を併せて參百五十輛を出でず、其哩數亦百五十哩內外であつて、其運轉延車輛數僅かに七萬個を出でざる狀態である。其最も乘客の輻湊する難波驛に於てさへ一ケ年（大正五年度）四百十二萬二千九百餘人を算したに過ぎないのである然るに此等の線路は將來大阪市の膨脹發展に伴ひ急激に其運搬數量を增加すべき運命にあるは鐵道停車場以上のものあるを覺悟せねばならぬ郊外電車乘客は主として市內居住のもの又は市內に業務上の關係あるものであるから、其都市の發展に從ひて正比例に其數量を增加するはもとより、其以外に都市民經濟活力の增大と共に累進比例に增加するものである。今假りに三十年後に於て大阪市の人口其他を左の如く想像する。

參百萬人……大　阪　市

百二十萬人……京　都　市
百三十萬人……神　戸　市
五十萬人……堺、和歌山、岸和田等南部小都市
十五萬人……奈良市、郡山町其他大軌沿線町村
五十萬人……阪神沿道町村
十五萬人……箕面沿線町村
二十萬人……京阪沿道町村
合計　七百萬人

以上の人々は主として大阪郊外電車を利用して其活動をなすものと見ることが出來る、若し此範圍の住民が一年に三十回電車を利用するものとすれば、其總延人員は二億一千萬人となり丁度現時（大正五年度）の三倍となる計算である市內交通機關は歐米の文明國都市にては現時已に市民一人に付一ケ年三百回乘車を普通とするに見ても、郊外電車の延乘客が其界隈住民一人に付五十回は決して過當の計算ではないかと思はれる。現在京阪神及南海、大軌の線路の支配

する沿道住民は三百萬人に充たずして、其乘客七千萬人を算し、人口一人一ケ年に付二十三回乘車の比例となつて居るに見ても、今後三十年後に此等郊外線路が運搬すべき乘客延人員は貳億一千萬人を最小限度とし、恐らく三億以上にも上るものと思はねばならぬ。

郊外電車の擔ふべき將來の責任は斯の如く重大なるに係らず、現時は六會社孤々に分立して存ずるが如き、又現狀縫縫主義にして大都市發展に伴ふべき交通機關の必然的機運を開拓するの準備なきは、都市計畫論者の立場より見て寔に齒痒き感なきを得ない。次に

市內交通機關の狀況を推定するに、路面軌道は現在三十四哩五分六厘（大正五年度）にして其車輛はボギー車百五十輛、單車四百輛、其運搬延人員一億四千百八十二萬人餘にして之を大阪市の人口百五十萬八千餘人に割當つれば、

人口十萬人に付き……二哩二分八厘

人口一人一ケ年の延乘車數……九十六回

一平方里に付き……九哩

となる。之等を歐米各國の實例に見、又我大阪市發展の徑路より考ふるに其路面電車軌道の延長は今後三十年の後には少くとも百哩の延長を要し、乘客延員數は九億萬人となるのである乍併九億萬の人員は到底其百哩の路面軌道にては之を運び得ないのであるから、此處に地下鐵道と乘合自働車の新設備によりて之を補ふことゝなるのである。

地下鐵道と乘合自働車の系統及設備は街路系統の問題と交錯して之を說明するの要あるが故に他日項を改めて之を別に論述することゝする。

築港の問題即ち水運交通は從來我大阪の生命であつて、現在も將來も凡て大阪の商工都市たる價值を確實に維持し得る最大の要鍵である現時の姑息なる築港の成立の歷史は之を繰り返すの價值はないが、現に我大阪港岸壁及棧橋によつて集散さるゝ貨物は幾何であるかを見るに（大正五年度）

出貨…五億七千四百八拾壹萬七千百九拾九圓

入貨…五億〇拾貳萬七千百六拾圓

合計　拾億七千四百九拾四萬四千參百五拾六圓

內外國貿易高　貳億貳千參百七拾八萬五千九百五拾貳圓

にして其重量は八百五十七萬五千餘噸である之を前年の大正四年度に比すれば、價格に於ても數量に於ても著しき增加であり、大阪鐵道驛の取扱貨物三百九萬噸に比すれば約三倍の貨物を集散しつゝある狀況である。而して現時の海運貨物が如何なる比例を以て增進するかは豫め其徑路を見出し難いけれども、若し每年百萬噸づゝ增加するものとすれば、今後三十年の曉には三千八百萬噸の貨物を取扱ふの必要が來る譯である。（大正四年より五年の增し方は約九十萬噸なり）若し又一ケ年毎に五十萬噸を增進するものとすれば二千三百萬噸となる。其噸當り價格百貳拾圓（現在の平均を標準とす）として其總價格は貳拾七億六千萬圓となる。之を最近の維育市に集散する貨物三百億圓に比すれば漸く其四分の一にしか當らぬのであるけれども、二千三百萬噸の貨物を最も迅速に集散せしむる設備は蓋し容易なものではない。今此處には其設備に對する詳細の研究は避けるとして斯かる大量の貨物を消化するに至るや否やと言ふ根本の考察を十分に精密に推定せねばならぬことを江湖の識者に愬へて置くに止める。（此の項畢）

帝都の雜觀

◆帝都の中心地域　東京市の目貫の場所はどう考へても凱旋通路より東に向ひ、大手町通馬場崎門通を中心とすべきである。此一帶の地域は西に宮城の森を負ひ東南北に蜘蛛手を張つてそれ〴〵の小中心地點への連絡を有するが故に現時の市區に甚しき破壞を加へざる以上市中心地として此地域を捨てる譯にはゆかない。然るに此地域を如何に取扱ひ如何なる計畫を加ふべきやに就て從來多少なりとも考案を廻らしたものが無かつたことは、吾人の最も不可思議に感

するところである。之を現時の狀態に見るに全く支離滅裂であつて、東京市全体に通貫する交通の脈路の心臟たるべき市中心の計畫の跡は一も之を見出すことが出來ないのである。外濠の埋立、東京停車場の改築、各官省建築の配置計畫を初め、主要街路の基點たるべき各方面への交通線の確立は何時如何に之を實施せんとするのであるか、殊に東京停車場を現在の儘に之を生かさんとする如き姑息の考に支配さるゝ一般人士の態度は、我東京の中樞地域の永遠計畫を誤るものであることを十分に明にして置きたい

◆東京停車場　東京停車場は我國の東京以西の凡ての陸路交通の焦點であつて、現在こそ僅かに一日二萬餘の乘降客を取扱ふに過ぎないけれども、本邦西南部の發展の著しきに連れ漸次其數を增すべく、恐らく今後二三十年を出ずして毎日十萬人以上の乘降客を呑吐するに至るであらうと思はれる。倫敦市のイースト・センター所在のリバプール、ストリート停車場の如きは、其乘降客は各方面毎に毎日十萬人を下ることなく、殊に午前八時半より九時まで約三十分間に吐き出す乘客は一萬八千人を算すること珍しくはないと言はれて居る。之を以て我東京市の最大停車場たる、我東京停車場を律するのではないけれども、吾人は我東京市の發展と西南部方面との連絡の愈頻繁となるべきを考ふれば我東京停車場を乘降すべき旅客は今後急激に增加すべきを疑はぬのである。而してそれ等の莫大なる交通客を市內各方面へ如何に連絡せしむるやを研究することは、我東京市經營の目下の急務でなくてはならぬのである。此の意味に於て我現時の東京停車場の配置は果して適當のものなるや否やを考ふれば、誰一人として其不適當なるを承認せぬものはないであらう。之を極端に批評すれば現時の東京停車場の配置及構內の利用方法は、全く田舍の一通過驛の如き体裁にして、鐵道係員の働くに便利なる操車法に拘泥したものとしか見ることは出來ない。之を我帝都の表玄關として又都市計畫の中心點として見る時は全く其配置を誤りたるものと言ふを憚

らぬのである。然らば其改良計畫は如何に之を立つるや、之れ實に重大にして緊急の問題であつて、我帝都の永遠計畫を確立する出發點でなくてはならぬのである。

◈丸の内整理　と言へば言葉が悪いために誤解を生ずるであろふと思はるゝけれども、我東京市街路系統の改築の第一歩は、現時の丸の内の亂雜、不秩序しかも將來を深く考へない空地多き狀態の整理であると信せざるを得ない。丸の内の現時の宮城は實に帝都の偉觀であつて四方正面に地形の勝を得、森林鬱蒼として舊城壁の上を蔽ひ、内濠の變化に富める其外容の威嚴は、皇居の輪奐の美を彌が上にも尊からしめて居る。斯かる地形上の尊い皇居は我國体の精華と一致して内容外觀共に申分なきものと言ひ得るが、舊外城の部分たりし永田町、霞ケ關　千代田町、日比谷、有樂町、大手町、永樂町等の地域の現狀は如何であるか、其廣袤から言つても可なりの廣さであり、其位地から見ても帝都の商業地域に圍繞さるゝ中心地でありながら、何等纏りたる交通系統や分劃系統によりて管理されて居ないことは、即がて我帝都の將來に恐るべき不秩序を來たす根源ではないかと思はれる。近來數次耳にする市外廓地の交通整備地劃整理の急要もさることながら、此の中樞地域の根本問題に比ぶれば、むしろ枝葉に過ぎないのである。

◈東京築港　は多年の問題であつたけれども未だに市民から冷淡に取扱はれて居るのは如何にも不思議である、なる程松方侯が内務大臣で東京築港の立案を發議せられし時は明治二十年前であつて、日本の財政が一億萬圓にも足らぬ時代であつたから、東京の築港に二千萬圓以上の金を投ずることは事實出來ない相談であつたかも知れぬ。併るに明治三十二年以來市會の問題となつて大体に於て理事者及市會議員に承認されて居ながら未だに内務省が冷淡であつたり市民の輿論が靜かであるのは如何なるものであるか、全く了解に苦しむのである。一体現代の都市の發展は主として海運を中心として立つこ

とを知るものは、東京市民の斯かる不可思議の態度を笑はざるを得ない。東京築港の問題は東京一市の問題の如くにして、實は東北一帶の文明の進歩に多大の關係ある故に、吾人は之を冷笑した儘で看過する譯にゆかない。況して現時漸く勃興し來れる都市改造の機運に乘じて帝都の永遠的計畫を確立すべき時期に、東京築港を輕視しては其立案をなすことは出來ないのである。此問題は唯一二の市理事者の立案に委せて置くべき輕き計畫ではない、宜しく都市計畫の一大問題として又東京市改造の大幹線と密接の關係あるものとして十分に之を調査し輿論に愬へて其確定案を得たいものである。次號には東京築港の設計案由來と其批評を述べる積りである。

幕末の江戸灣防禦計畫

芝浦の海中に今も尚殘つて居る御臺場は、德川末期の國難を物語るものである、德川幕府は外敵に對する江戸灣防禦に急憂を感じ、寛政五年老中松平定信をして親しく房總豆相の海岸を視察せしめたのを初めとし文化より天保年間に亘り各種の計畫は設計され又實施されたのである。其主要なる臺場は觀音崎、十石崎、旗山、猿島、千駄崎、城ヶ島安房ヶ崎、大房崎竹ヶ岡等にして品川臺場は嘉永六年の計畫に基いて築造したものであつた。品川臺場は之を軍事上より見れば、其効力の微弱なることは其當時も議論があつたらしい。其設計者であつた江川太郎左衞門さへも其規模小なるを痛論したと傳へられて居る。兎に角東京灣の入口の要所要所を堅め、更に品川に於て最後の防禦線を張ると言ふ方針であつたのは事實である、併るに灣口の要塞は武器不完全にして其効力を疑はれ、品川沖の臺場も果して江戸防禦に目的を達し得るやを危まれたから、幕末の政治は内憂外患に對しては常に危殆に瀕して居つたと言ふことが出來る。



女流の住宅觀

在來の住宅を改良して

侯爵嗣子夫人 西園寺新子談

住宅といふものは最も大切なものでありますし、私なども少しは考へてゐることもございますが、しかしそれを本當に實行いたしまして、多少にても自分の理想通りに生活しますには、只今の儘では不便で何とも致し方がございません。つまり總てを新たにし、總ての計畫を新規にしてかゝつてこそ、初めて理想的な家庭生活も出來ようかと存じます。

これから新規に土地を選び、家屋を建てまして、いろ〳〵な設備を致しますことでしたら、何か面白い考へも浮びまして、少しははつきりしたお話も出來ようかと存じますが、何に致せ只今のところでは、前から在つた家に住んで、別に新規な工夫も行はれませんのですから、ほんの一寸した思ひつきを以て、幾分かの改良を心懸けてゐるに過ぎないのであります。それに從來の生活の不便に耐へて、幾分でも勝手のよろしいやうと、臨機應變の處置を取つて遣るより致し方ないと思つて居ります。

それ故、只今私共の住んでゐます家は、私共で建てたわけではなくて、元から在つたところの家をその儘用ゐて居りますから、今改めて自分で考へついたものと違ひ、いろ〳〵と不便なことが多いのであります。殊に私共の住居は狹くもございますし、何かと不自由でありますがそれかといつて、今直ぐにこれを改めて何とか

しなくては、我慢し切れないといふほどにも考へては居ないのであります。

私共の住居は、極めてお粗末な簡單なものでこれといふほどな設備もございませねば大してそんな必要も感じてゐません。大富豪の家庭などに見るやうな、幾十も立派な室を取つて、それ〳〵設備を致しましたなら、住まつて便利でもありませうし、愉快でもありませうが、今の私共にはとてもそんなことは出來ません。又そんな家に住むことを考へる前に、考へねばならないこと、しなくてはならないことが幾らもあるやうに思はれますので、またそこまでの餘裕もございません。

そんな次第で、私共には他所樣のやうに、特に、子供のために遊戲室を拵へてあるといふでもありません。又寢室として、各自に一室宛別に取つてあるといふのでもありません。食堂の設備の如きも、特殊な場所を取つてある譯でもございません。つまり極めて簡單な質素な、不自由勝な有樣なのであります。

ですけれど、一方にはこの簡單な住居が割合によく利用されて、廣い複雜した家屋よりも却つて都合のよいやうに思はれる場合もございます。例へば食堂としての室の準備のないために夏は夏、冬は冬、その外時に應じまして、折々に空いてゐる都合のよい室なら何處でゞも御食事を濟ませることが出來るといふわけであります。

つまり斯くして、在り來りの家に住んでゐます限りは、どうしてもこの在り來りの室やその他の造作を利用しまして、その時その場合の事情に適するやうに、いろ〳〵とよい工夫を案出し、利用しなくてはならないと存じて居ます。さうしますと、今あせつて新らしい建築をしたり、それに移つたりしますよりも却つて單純で氣持のよい生活が出來るかと思ひます。

又若し假に根本的に建て直すとしましても、さう理想的に考へた通りの家が建つものではないやうに思ひます。それには第一に、思ふ通りの場所は容易にあるものではございますまい。

便利はよくても、あたりがいけないとか、景色はよくても水がないとか、或は衛生上の設備が充分に出來ないとかいふ風に、なか〳〵理想的な土地は得られまいと思ひます。又土地はあつて、よし建てたにしても、間取り等が思つて居た通りにはまゐりませんで、建てゝしまつてからあゝでもない、斯うでもないと、後悔することも多いでありませう。その上に、家族といふものが何時も同じやうな事情ではありません。子供が多かつたり、老人が多かつたり、或は主人が不在になつたり、臨時のお客樣があつたりしますと、一家でも常に家族が動搖しまして、その都度室取りにも影響を致します。家族が少いのに、多くの室のあるのも不便であれば多くの人が住むのに、室が少なければ勿論不都合であります。と言つてその度毎に、此家は不便であゝから取り替へるといふわけにはまゐりません。それなら最初から、餘り我儘な注文を出さずに、在り來りの家屋に滿足して、臨機應變にその場合場合で住み心地のよい樣に改良を加へて行く外はないと思ひます。

さういふ次第ですから、私は今のところ別段こんな家を建てゝ見たいといふやうな考はありません。ありましたところで、それは小說家の空想も同じことで、實行しても却つて失望するやうなものかとも考へられます。それよりも今の儘で、少し宛改良をするといふことに止めて置きたいのであります。その代り「住み心地よく」といふことを常に忘れないやうに心がけて居ます。

住み心地よくといふ上で、最も注意を要するのは、さつぱりときれいで落ちつきのあることでございます。疊や建具を絶えず注意をして、余り古めかしいものを用ひないこと、それで居て、何となく輕薄な上つ調子なものでないこと例へば一枚の障子を張り、一つの簾を垂らすにも、この心を以て家を整へて行きますれば、大へん氣持ちがよろしいのであります。ほんの僅かの注意でございますけれど、それだけの心懸けがありますれば何も新しい立派な家屋を建てなくても、私共の理想的の住居にはなるのであります。

間取りの注文

日本女子大學校教授　手塚かね子談

家の中で最も大切な室はどこかといふことはよく人様から聞かれることでございますが、私の考では、家の中の室は皆同じやうに大切でどれとて大切でない室はありませんのです。勿論その中で、主人の居間は、一家の主人が常に居られる室ですから最も大切でありませうが、主婦の室だとてそれと同様に、主婦の居住所として大切な場所でありますし、子供室は子供室で皆さんの最も大切な子供の育つ所であります。老人の居間も言ふまでもなく大切であります。その他お臺所も一家の兵站部であつて、決して粗末にしてはなりません。女中部屋だとて、女中は主婦の手や足と同様で、それに故障があつてはいけませんから、女中だけを汚ない部屋に押し込んで置けるわけではありません。客室も無論大切であります。して見ると、どの室が特に大切であるから、重く見て建築をしなくてはならないといふことは申されませんのであります。

固より、或は裝飾を主とし、或は實用を主とし、その他その室々の目的によつて、多少は構造なり、配置なりに工夫を凝らさなくてはなりません。女中部屋に客間と同じやうな裝飾を施す必要もなければ、書齋の次へお臺所を置くといふやうな馬鹿なことも出來ないのであります又室の大きさにしましても、普通の家に八疊のお玄關を取つたり、三疊の子供部屋を設けたりすることは不合理であります。しかし斯ういふことは、建築者の方で充分心得て居られるのですから、我々が彼れこれ申さなくてもよろしいのでありませうが、一般の方々に對して、私は一二申したいと思ひます。

先づ書齋は、餘り廣く取る必要はありません中には四疊半か三疊位な小さい室を好まれる人もあるやうですが、それは極端であるとしても普通には日本風なら六疊か八疊、でよろしうございます。そして書齋の側に、三疊位の別室を設けて置くことは非常に便利なものでございます。それから書齋では光線を氣にされる人が多して、南向きは落ちつかないとか、西日の差すのは午後勉強が出來ないとか言ふ人もありますこれはその人の好みに從つて適當に建てなくてはいけません。尙ほ私の考では、書齋は西洋風にして、テエブルを置いた方がよいやうに思ひます。

主婦の室、又は茶の間はお臺所の次のやうな場所に取つて置かなくてはなりません。茶の間と主婦室とか別々に在る時には、主婦室は產室や子供の病室やに使はれるやうに、少し物靜かな所にして置くがよろしいでせう。茶の間で最も必要なことは、容易に掃除の出來ることで、こゝは疊の上に薄緣のやうなものを敷いて、置いて、絕えず取り替へたり、洗つたりしなくてはなりません。こゝは又家庭全体の集合所ともなり、和樂室ともなるべきところですから、殊更趣味や温かみに富んで居るやうにせねばなりません。それに一家の家風ともいふものも、多くはこの茶の間で現はれるものですから、樂しく平和であるべきと共に、始終一種の氣品を備へて、胃すことの出來ない精神の發揮をはかるやうにしなくてはなりません。そして茶の間には中庭のやうなものを設けて、花卉盆栽などの眺められるやうにすることも必要であらうと思ひます。

臺所は、一般に普通の家では狹く取つてありますが、これは廣いほどがよろしいのです。しかし女中などの澤山居ない家庭では、餘り廣過ぎて却つて不便な場合もありますから、お流しと火焚場と、配膳所との割合に準じて主婦が中央に居て餘り自身を動かさなくても、この三ケ所の仕事の出來る程度にして、うまく配置しなくてはなりません。それに、天窓を硝子張りに

すること、採光窓を完全にして置くことゝは最も注意を要します。お臺所の揚板の下にコンクリートの穴を設けて、冷藏庫に用ひる設備をして置くと、大へん都合のよいものです。そしてお臺所は一般に下をコンクリートとし、上の全部に揚板を張つて、お流しはコンクリート製にして中央に高くして置くといふ風にすると便利でせう。

客室は普通の家なら特に大きく造つて置く必要はありますまい。應接室があつて、書齋の相當なものがあればそれだけでゞも間に合ひます大勢のお客樣をする場合は、近頃は地方でも、料理屋や旅館を利用されるのであります。廣い客間を設けて、平素空けて置くことは不經濟であります。しかし親類などがお客樣に來られた場合に使ふ一二人用の室は是非必要であります これは書齋か主人の室の次へ取つて置くがよろしいと思ひます。

玄關には特別に衛生設備を用ひるに及びませんが、しかし古ぼけた家へ行つて、いきなり玄關で黴臭い感じをさせられるのは、餘り氣持のよいものではありませんから玄關先はあつさりとさせて、餘計なものを置かず、細かい技巧を施さないやうにした方がよろしうございます。應接室については人々の好みに應じて、和洋何れでも適當な設備をすればよろしいのでせう。たゞ、應接室は陰氣でないやうに、天井が高くて窓の多いのは快感を與へるもので、少々位派手な方がお客樣に取つてはよいものであります

その他梯子段はなるべく傾斜を緩くして、巾を廣くすること、押入れは深くて數の多いこと火災の豫防として、家の南と西へ空地を多く取つて置くこと、便所と井戸とを接近させないことなども、家を建てる上の注文とすべきでありませう。しかしそんなことは短いお話では到底盡されることでありませんから、これで措きます。

衛生上より見たる住宅建築

東京女子醫學專門學校長　吉岡彌生談

衛生上から見た、住宅の建築といふことについては、私もかねてから注意を拂つて居りますが、何しろ、今の日本の住宅その物が混沌たる時代でありますから、纏まつてこれと申すわけにはまゐりません。

從來の日本風の家屋は、理想的に申せば種々な缺點もありますが、大体に於て神代以來、日本人の生活に應じて發達して來たものでございますから、日本人の生活には最も適當してゐると申して差支ございますまい。即ち西洋建築と日本建築との最も大きい相違は、西洋建築で屋内と戸外、又は室と室との間を充分に隔離してあるのに對して、日本建築では、その隔離を餘り嚴重にして居ないことであります。日本の家屋は、言はゞ戸外の引き續きで、そこへ薄い壁や障子やを以て、仮設的に隔てが出來てゐるといふに過ぎません。一面から考へますと、これでは住宅の目的には適はないやうでありますがしかし日本のやうに、水分が多くて、何時も空氣の濕つてゐる國では、屋内と戸外との空氣の交通なり日光や風の流入なりが、比較的自由になつてゐた方が人躰衛生の爲めにはよろしいのであります。濕氣が多くて、氣候の變化の多い島國では、室内を閉ぢたり、或は厚い壁で遮つたのでは、一旦濕つた室内を乾燥させるわけにはまゐりませんが、斯ういふ風になつて居れば濕氣があつても風や日光が自由に入り込むために、差支はないのであります。一体、人躰に取つては餘り乾燥し過ぎてもよくありませんが、濕り過ぎるのも尚ほ惡いのでありますから空氣や日光の流通も自由にして、それを程よくすることは極めて必要であります。この點から申し

て、薄い壁、紙の障子で遮つてある日本風の建築は、厚い鐵筋コンクリートや硝子を張り積めた洋風建築よりも却つて日本人の健康にはよからうと思ひます。

しかし、何と言つても、日本風の建築には初めから科學の智識が應用してありませんでたゞ經驗上生活に適するやうにと割出して造つてあるだけですから、今日より見ますと改良しなくてはならない點が澤山ございます。殊に只今申す薄い壁や、紙の障子も、此の儘では如何かと思ひます。疊を敷いて置くといふことも問題でありませう。それならと言つて、さつきも申すやうに、全然西洋風にしてしまふことは、經濟上、便利上は勿論衛生上にも餘りよいことではないので、丁度我々が三度三度洋食ばかり食べやうとしても却つて都合が悪くて、健康を害すると同じ樣なことになりますから、今のところ和洋折衷といふことが、家屋の建築にも最も適當してゐるのでありませう。

單に和洋折衷と申しても、それではどんな風にやるかとなると、色々細かい問題もございますが、要するに、住宅の建築には、第一に成るべく光線の入ること、第二に空氣の流通のよいことを必要とするのであります。日本の從來の住宅では、此の點では遺憾も少くありません。例へば廂を餘り多く出して光線の入り込むのを妨げ、南の方を塞いで北からのみ光線を取るといふやうなのはよくありません。それから京都などの家を見ますと、無闇に壁を塗り込めて窓をほんの僅かに開けたといふやうなのがありますが、無論これは光線も空氣も遮りますから、甚だ非衛生的であります。日本の建築の本來の形式は開放主義であるやうに思はれ、又日本の氣候風土から考へても、さうでなくてはならないと思ひますから、これは最も注意をして、障子を建てる所の多い、あけつ放しの建築とするのがよろしいでせう。

建具類については、近頃の建築には皆椽の外へ硝子戸を建てゝ、内側へ紙の障子を建てるやうにしてありますが、あれば至極結構なことで

あります。内部の紙障子と外部の硝子障子とで巧みに光線や空氣や濕氣の工合を調節されて、至極重寶でございます。尙は紙障子には中央を硝子にして、それへ紙障子を嵌め、開閉の出來るやうにしたのがありますが、あれは結構と思ひます。但し室と室との仕切りに襖を用ひることについては、もう少し工夫があらうと思ひます。あゝして置けば、開閉自在のために便利ではありませうが衛生上などから考へても、不充分と思ひます。例へば一室に傳染性の患者があつた場合に、それを充分に隔離するわけにまゐりません。産婦の室などに充てた場合には特にその感があります。

次に、どんな家庭にても、坐らない、椅子とテーブルの置いてある室が一ケ所欲しいのであります。應接室なり、書齋なりは、そんな風にして置くと、應接や讀書に便利であるばかりでなく、衛生上色々と都合のよいことを經驗するのであります。それから子供室も、是非西洋式にして、疊は敷いてあつてもなくても、腰掛を用ひ、子供の飛び廻はつて遊ぶのに差支ないやうにして置くことは必要であります。その他に衛生上から見て必ず注意せねばならぬのは、お臺所と便所とであります。日本のお臺所は一般に北の隅にあつて、光線が入らないとか、或は西の方にあつて、入日が差し込むとかいふ工合になつてゐますが、光線の薄いところでは、どうしても食物を清潔にする上に缺點があるし、入日の差し込む所では、食物が腐敗し易いものでありますから、矢張り風通しのよい、そして上からも側からも、充分に光線の採れるやうな設備にしなくてはいけません。便所は清潔な場所に置いて、臭氣が他の室へ發散し易からぬことをよしとし、且つ廊下などで他の室から相當に隔てゝ置かなくてはなりません。勿論これ等は家を新築する場合の衛生上の注文でありますが現在の儘の家屋でも、室の使ひ方や物の置き方や建具の選び方で、常に改良を加へて行くがよいと思ふのであります。



亞米利加の田園住宅

（アーキテクチュラルレード（十月號）（エー、デー、ハミン氏記述（所載））
會員　谷本多喜治譯

新しい住宅意匠の型に就いて

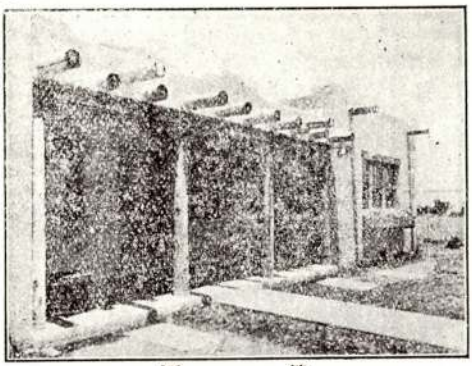
（一）

亞米利加の田園住宅建築に於ける毎年の經過は取り立てゝ計ふ程の變化を齎らしては居らぬけれども、先づ五年位を一括にして悉細に叮嚀に觀察を下して見ると稍明瞭な變化を擧げることが出來る。尙又今少し長く考へて十年若しくは二十年前迄も溯つて觀るときは、吾々は現在並びに將來の建築の樣式の傾向の移動を指摘することが出來やう。或は又讀者諸君が建築に關する澤山の雜誌類の古冊を繙いて御覽なさい、十九世紀の時代にしろ、十八世紀頃のものにしろ悉細に研究點檢すれば、明かに其經過を知ることが出來やう。吾々の樣に白髮を交へた胡麻塩頭の連中や、前額が後頭部へ連絡をしてしまつた禿頭の老輩が、御承知の通りの珍妙な設計をやらかして、當時大に得意であつたが、吾々は當時の幼稚な時代以降今日迄の進步發達を認めると同時に、若い人達と一所に今日の進步發展を誇とするものである。

私は既に吾々の田園住宅建築の發達について畧述し尙亞米利加住宅の平面形について其主なる特長をも說明して置いた、今一々綿密に今日流行の田園住宅の型に進化した徑路を詳述したいけれども紙數が許さない、そこで私は寧ろ今日の形式に影響を與へた二三の型について述べ

て滿足する外はないと思ふ。

私の用意した說明圖は勿論我大合衆國內の各種の型を提供するといふ譯には行かぬことである、だが其所在地と材料と樣式に關しては公平な觀察によつて集めたものである。太西洋岸地方や、太平洋沿岸、中央西部、中央部、及南部を總べて代表せしめて居る積りであるが、各人の滿足を悉く得ることは保証出來ない。大住宅もあれば小住宅もある、木造、煉瓦造、石造或は人造石造もある。雅致なる板葺住宅や、各種のコロニヤル式や、復興式の村莊、又ヒスパノー・フエブロー式のものが一つ、ジヤコビアン



第一圖

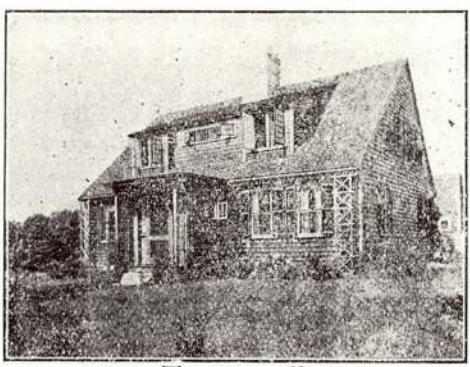
式のものが二つ、フランシス一世式に依りたるものが一つそれから何々式と名を附けられぬものが二三ある。こんなに種々あるが我亞米利加の文明と國風とを代表するものばかりを擧げて見たのである。固より我國は氣候の異同甚しいために土地の狀況、風土、建築材料及吾國民性に因つて差別が甚しい、殊に國民性の根幹は舊世界から深く因緣を曳いてゐるのみならず、各國からの影響を蒙つて現に各種の枝は延び葉は繁りつゝあるのである。殊に全世界の文化を吸收するの能力に於て無比の能率を有する我國の現狀は然らざるを得ぬ譯である。

斯くの如き各種各樣の型体を明かに區劃することは不可能である、材料によつて區別すべきか、風土に依るべきか、或はまた建築樣式に據るべきであるか、何れにしてもその何れかに據るの外はない。

交通運輸系統の偉大なる發達によつて、今日では國語と風習の差別を付するよの困難になつたと同樣に材料と樣式の區別を附するは甚だ困

難になつて來た。氣候風土は或地方に限られた材料や其他の事情よりも樣式や形体を決定する近道ではある。タイルや煉瓦やコンクリート等は今日では木材の多産地の建築場へも運び込まれるし。又假枠用の雜材や屋根板或は床板材等は粘土の産出豊富であり、價格低廉なために石や木材は殆んどない粘土質の地方へも送られる。市俄古の一建築師は時とするとニユー・ジヤーシーの松林へ家を建設することも出來やうし、又太平洋岸からも設計を依頼されることもあらう。從つて或局部地方へ特種の樣式を永久に建設することは今日では望まれない、バンガロー型の如きも初めはカリホルニア地方から行はれたのであるけれども、今日では東部地方へも周ねく建てられる樣になつた。タイルや石やコンクリート等を張つた木骨漆喰塗の家などは其範圍は東西兩大洋に亘り、北は荒凉たるニウイングランドから南は暖流に洗はるゝフロリダ半島にも及んでゐる、ハーフチンバー型の住宅の如きは緯度や經度の制限もなく木材地帶の有無に限らず、又國境をも越ゑて自由に建てられてゐる。

されば此の點は我國民建築の驚くべき特長の一であると觀察すべく、住宅は他の文化や宗教と同樣に、總ての吾々の型体は地方的といはんより寧ろ國民的であるといふことが出來る。畢竟我合衆國の何の部分を觀ても御互に目慣れた樣式の多くも或は總てが建てられてゐるのであつて、結局誰でも視察して見て驚くのは地方的變化と伴つて國民的統一の存在してゐる面白い一種の矛盾の存在してゐることである。如何なる地方の住宅でも夫々に特長のある變化を保つ



第二圖

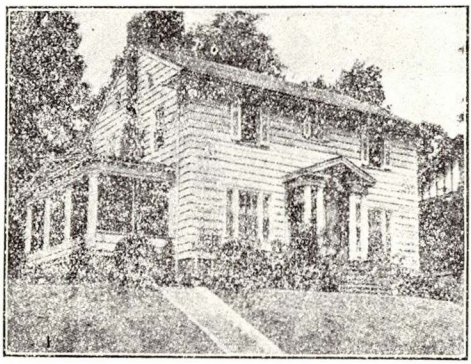
てゐるが同時に明かに限られた地方的様式だとか型式だとかいふものは無いといふことになる一々旅行をして見ても大觀を下して視れば皆似たり寄つたりである。これが舊時代に溯つて見ると全く反對である。其處には地方地方の商品にしろ觀念にしろ又型式にしろ其の交易といふことは全くなかつた、そして地方的の傳說は幾世紀も傳へられて居つて大工や家主の頭に宿つて居つたのだ、地方的に限られた材料や地方的の型体や樣式等は頑固に固執せられて居た、例へばスコットランドではイングランドと全く違つた建て方をするし、粘土質の地方では、石材の産出地とは似てもつかぬ住宅が發達するし、或地方ではスレート葺に限られるかと思ふと、又タイル葺の處もあり、或は藁葺茅葺の土地もあるといふ風であつた。ゴッツウォールドの住宅は容易にハンプシャイヤーやエセックス等の夫と區別することが出來る。アルプス山中のシヤレット型の小舍の如きつい近所のチユリツヒには殆んど皆無である。こう擧げて見ると限りもない。

斯の如く舊世界の舞臺と新世界の傾向とは大に其形勢を異にして居るが、それにしても悉細に觀察して見ると多少の區劃を附することは出來る、それは地方的局部的といふ意味でなく今少し廣い範圍の境域に於てゐある。殊に東西七千哩の廣濶に亘つてゐる我合衆國である、少なくとも太平洋岸と中央西部とそれから東部とで大觀して見ると大分に違つてゐる。それは或一部の住宅を取り出して比較して見たら似てゐるのもあるにはある、茲では大きく觀察を下して見たのである、此の三大別は數年來『アーキテクチユラル・レコード』社が年々の田園住宅號に立てゝゐる區別である。

一九一五年版にルイ・セー・ムールガート氏はこういふてゐる。

『太平洋岸地方—ワシントン・オレゴン・カリフオルニアの三州は地形上又氣候上他の四十五州と區別せられてゐる。シラ・チバダ山系は天然の障壁である。……』

此太平洋岸地方の三州も夫々事情を異にしてゐる。木材は北部に多く南部に稀である、氣候の變化は北のシアトルから南サン・デイエゴー港に亘つて大分に差が著しい。又傳說の點から見ればカリフオルニアは西班牙風でもあるし、オレゴンとワシントン州とはアメリカ原住民族の遺風が殘つてゐる。從つて此の沿海州地方でも住宅建築の變化は中々著しい木造は北部に漆喰塗は南部を占めてゐる。ワシントン州はノールウエー風を帶び、カリフオルニア州は伊太利風である。就中此等沿海州中最も特長のある型体はカリフオルニアである、西班牙の遺風を傳へて盛んに漆喰塗を建てゝゐる。が此種の型の樣式は大分變化に富んでゐる。或ものはコロニアル式であるし、他のものは獨逸或は瑞西風を傳へ、更に他のものは佛國流又は伊太利流の趣を傳へてゐる、處がサン・デイエゴー(第一圖)に在るロバート氏の住宅の如きは明かにスパニッシ・プエブロー型に依つてゐるものである。



第三圖

こんな風に外裝は各異なつてゐるがカリフオルニアの住宅には全体に於て東部及中央西部の住宅とは大分に趣を異にしてゐる、其環境其風土に適應して離すことの出來ぬ特風と特色と特質とがある。同樣に東部諸州に在つても程度は違ひ亦多少の變化はあつても大体に於て中部地方や西部地方のものとの差別は認められる。

ワイト氏は昨年(一九一七年)十月號のアーキテクチユラル・レコードに中央西部の住宅について興味ある一文を掲げられてゐるが、殊に其特別なる風俗について詳說せられてゐる。挿圖を多く載せてあるから讀者はよく理解が出來たであらうが或種のものは東部諸州の家と全く同

様なのもあつた、中央西部地方に在つては容易く見別けられる一つの特長がある、それは水平線の強いことである、これは大平原大草野を有する地方の平坦といふことに一致するにせよ、せざるにせよ、成るべく切妻屋根を避けて檐を深く造つてあることは其特風である。

此等の廣い意味の差別は明確といふよりは、微細な觀察に基くのであるが同時に次の事實を宿してゐる。それは各州共夫々種々の變型を保つて居るが、此等の變型は又殆んど共通な特性を保つてゐることである。

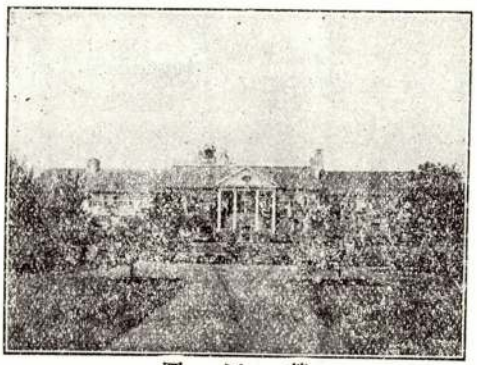
以上風土の上より觀たる考察も、材料や樣式の上から研究して見ても同樣である、板葺や板張の家はニウーインクランドやロングアイランド地方にはカリフオルニア州よりも尙稀である石造は附近から易く得られるためにフイラデルフイア及ニウジャーシー近郊に最も多い。我合衆國には煉瓦造の家は多過ぎる位にある州が多い、乍然木造、石造及煉瓦造の住宅は各州共相應に在る。コロニアル式の住宅は自然昔の殖民地域に限らるゝ筈でありながら、又中央西部や太平洋岸にも建てられてゐる、漆喰塗を使用するは主としてカリフオルニア地方の特色であつたが、今日では挿圖にも擧げてある樣に我國の各地で非常な勢で用ひらるゝ樣になつて來た。

此等の事實は私をして私の論旨なり說明を風土に依つて區別しない理由であつて又アーキテクチユラル・レコード誌が數年來の經驗によつても他の方法に據るべきであることを說明してゐると思ふ。

（二）

型体の最も簡單な區分法は材料に依つて爲すにある。木材、煉瓦、石材及漆喰は圖に示す如く四つの部をなす。木造住宅の型に在つては簡單にしてしかも何處か優な處のある板葺小舍（第二圖）（シャウ夫人邸―マ州ダックスブリーに在り）や、田舍屋を改築した板張のコロニアル式住宅（同州タルトンに在る）はコンコルド風を偲び南部の好例（第二圖）であるのや、上等の部では立派な大邸宅としてマンゴニグル氏が、

ジョン、フレンチ氏の爲めに設計したコ州のグリンニッチに在るものなどがある。又雅致ある一例としては板葺型の所謂十八世紀のクイン・アン式（本誌第八號第七圖參照）の如きは最も格好なもの（第五圖）（ニウジャ州ベルナルズゼルに在るロード及ヘウレット兩氏の意匠になるアール・エル・スチブンス氏邸）である。



第四圖

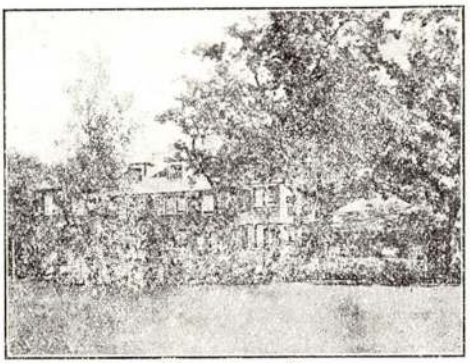
煉瓦造のものは全然田舍の住宅としてよりも郊外住宅として適はしいものである。近郊住宅として二例を擧げて見た。ロングアイランド州クレートネックに在るデルセー氏邸及セントルイスに在るエウング氏邸（第六、七圖）共に近世コロニアル式意匠の好例である。

又大地主の田園住宅としてはマ州イプスウキツチに在る邸宅や、モ州カンサス市のデッキンソン氏邸（本誌第八號第一圖參照）及ガ州アトランタに在るアデヤー氏宅等を擧げた。

石造としてはペンシルベニア州に在るものゝみを擧げたが、皆異つた樣式であるがオーダーに依つたもので外部は漆喰塗のものである、此種のものはマサチユセット州やカンサス州やカリフオルニア州にも散在してゐるがバンガロー型の變形や大なるものは可なりの邸宅を築いてゐる。

木造は概して材料の上から田園住宅の覇者であるが最上のものではない、他の材料に比して大に好まれてゐるけれもど、可燃性といふ事が最大な缺点である、乍然一般には尚盛んに建てられるのは多量であることゝ廉価であることゝ今一つは建築材料の中で最易く仕事が出來る爲である、のみならず建築外觀の好果を最も色々に變化せしめ得ること、田園住宅に適はしきこ

とがやがて深く亞米利加住宅の傳統に根ざして易く離れ得ない爲である。吾諸々の建築家は一般に此材料を最も適切に使用して充分材料の眞味を發揮せしめたり、又時には他の行方をやる例へばこういふ質問が起る、それは御手本通りを眞似をするが正當な技巧であるか又は不規則に造られた板を張つた狹い破風の葺屋根の外觀の方がよろしいかと迷ふだらう此種の屋根は其材料が何んなものにしろ建築の模法といふことには問題外である樣に思ふ。



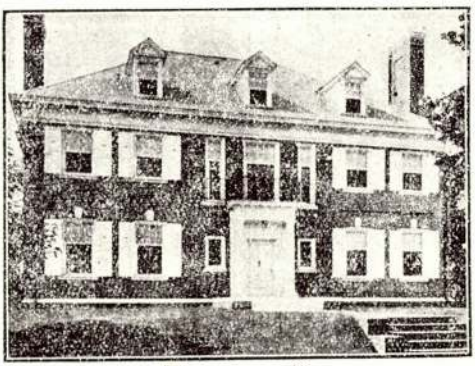
第五圖

右と同樣の疑問が最近流行の材木混用にハーフチンバー型住宅の多くに起る、此種の住宅の多くは單に模法を繰り返して居るのだ、ラスに漆喰塗を骨として全く裝飾的に外部へ薄い木材を使用してゐるがさもなくば、骨組の漆喰へ釘付にしてゐる、私は寫眞で優上品な住宅を見るが下方は下見張で上部はハーフチンバーになつてゐるものは全く裝飾的の虛欺である。眞のパンデボア或はハーフチンバーの構造は重要な骨組の柱が表面に現はれたものである、そして其間を煉瓦か粗雜な漆喰仕上としたものである此種の虛欺構造は價格の經濟にもならず又煉瓦は增す耐力も保つて居らぬが、西部歐羅巴にも此種の住宅は同樣に多い。ともかく雅致ある外觀を得んとして造る住宅は正當のものでなく又廉く出來ないが見てくれはよいものだ。

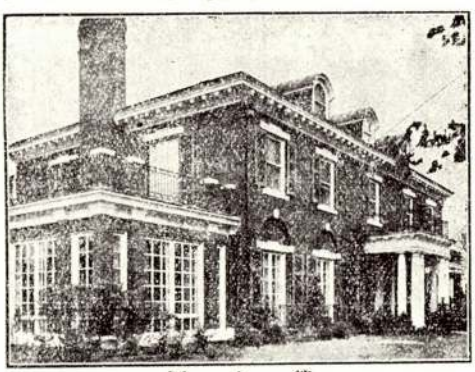
ジョージアン型の建物、或はジャコビアン型の大邸宅には煉瓦が最も好材料である。此種の例として擧げた說明圖には全く打開いた田舍のものを揭げて於いた、合衆國では他の各國より其結構に於て其色彩に於て可なり廣い變化を造つてゐる、吾國の建築家は此材料の新天地を開

拓し好結果を齎してゐるが、多くは近郊住宅であつて田園住宅としては甚だ少ない。

外部を漆喰塗にする仕上方は近來大に增加して來た。此目的には可なり古い上等の材料であるが今日では田園に廣く行はれて來た、是は主としてラスやコンクリートや粗石や煉瓦或はタイル等に一樣に適用され得るが爲である。尙又記念建築物の裝飾用としても都合よく、又殊に典型的建築の模法には都合誠によく、地味といふよりは派手を表す場合に最もよい。又此の材料は輕い調子の色合を出すによく、風雅な味を帶はしむるに用ひられる。若し適當に調合し適當に施工されると外界の風雨に可なりの效果を示し數年の間修繕の必要がない。今日では各種の住宅各種の樣式又大小となく用ひられてゐるのを觀る。茲に擧げた中にはモ州カンサス市の獨瑞倶樂部、マ州マーブルヘツド予ツクのバンガロー型住宅、コ州ウオーターブリーに在る面白い家等は雅致ある英國型であるカンサス、ミソスリ及カリフオルニアにある三ツの愉快さうな別墅（ビラ・マンション）　其他三ツの大別墅（パレーシアル・ビラ）を擧げて於いた。



第六圖



第七圖

最後に石造であるが壁体には最も威嚴のある且長持のする材料である。說明する丈野暮である茲には變化のある二三の例しか擧げて置かな

かつた。それは亜米利加の田園住宅としては例が少ない爲もある。此の材料があまり用ひられない主な理由は經費の高くなること、實施に厄介な爲である。良い石造の住宅は歐羅巴には澤山あるが我國では石工賃が彼地よりも高價であるといふのも一つの理由である。

私は近時大に用ひられて來てゐるコンクリートを除いた。コンクリート造の住宅は殆んど外部を漆喰塗としてゐる、蓋しコンクリートは夫自身耐水性ではあるが、雨天には面白くない色合となるからである。（未完）

◆土粥の製法◆（或官醫の家法）

去んぬる天保癸巳の年、米穀のあたひ貴く、遠國には飢渇におよぶ、さる御歴々樣不便の事に思しめされ「救荒一助」と題して、松の皮・藁、土を食するの法を御ためし遊ばされ、板にゑりてひろく諸人にほどこさせたまふ。土を食する事はいかなる飢饉にも盡くる期なし、實に未曾有の眞法でござります。

一、土はいづかたの土にても、砂石のすくなく、土めよきを選び、土一升に水四升入れ、桶の中にて能くかきまぜ上水をさる事數へん、また水四升入れ、よく〳〵かきまぜ、別の桶に入れ、底にのこる砂石をさり、又水四升入れ、前の如くかきまぜ、水にひたしおく事三日のあひだ、一日三べんづゝかきまぜすまし、上水をかへるなり、葛の紛わらびの粉を水飛する法の如し、右の如く製法せし土へ、水二升入れ煮て、うすき粥の如くして食ふ。其うちへ菜大根など切り込み、おなじく煮て食ふもよし。一日に三合より五合までくらふべし、誠に此法を用ゐるときは五穀を食せざれども飢ゑず、身体つよく、すこやかなりとぞ。（鳩翁道話）



米國に於ける職工住宅經營法（二）

アーサー、エフ、クロー記述。
會員　葛野壯一郎　抄譯

第一策

製造家の豫備費、或は剩餘金を以て財源とする場合。

マサチウセッツに於ける或る優秀なる會社では、次に記すが如き方法によつて職工住宅の經營並に經濟的維持に成功して居る。其方法は住宅經營に關しては會社とは全然別に一會社を組織し其資金は全部是を其會社が負擔し直ちに必要の土工と建築を始めた。建物が出來上り賣却を始むるに當つて會社は全價格の一割だけ現金支拂を了せる購買者に對し、其殘額の內一千弗支拂に對する十二ケ年の猶豫證書と一方には殘額に對する差引請求證書との二通を作成交附した。此二證書は賣却さる可き土地及建物の擔保によつて其支拂が保證せらるゝので有るが、十二ケ年間猶豫の證書に對し十二ケ年後に於ける一千弗の支拂を一層確實にするため、會社は別に購買者をして會社が指定する銀行の株券五口の月賦購入を豫約せしめ是を擔保とする事を協定した。此銀行株券五口といふのは年額五分以上の配當あるものとして、複利法により其配當金を年五分の利率を以て十二ケ年蓄積すれば優に一千弗以上を得るといふ計算から出て居るので有る。

即ち購買者は契約と同時に一割の現金を支拂

へば殘額に對しては月々其利子(年五分)何程かと別に銀行株券月賦購入金何程かを日々支拂へば宜い事となる。かくの如くにして十二ヶ年を經過し銀行に於ける株券の配當蓄積が千弗に達したる時千弗の支拂を了し、引續き同樣の方法を以て支拂を繼續する譯で有るが最初の十二ヶ年後は殘額の減ずるだけに月々支拂の利子額も減じ且つ月賦購入の銀行への支拂が無くなるので有るから、其支拂額は著しく減じ唯每月少額の利子を負擔さへすれば次の十二ヶ年目には再び一千弗の內拂が出來る譯で、最後には土地と建物と及び銀行の株券が手元に殘ると云つた仕組で有る。一定の利子支拂の外に租稅水料金保險料等は購買者の負擔となつて居る。

若し購買者が六十歲以下で會社の醫師の檢診に合格する時は直ちに契約が結ばるゝので若し中途にして購買者の死亡或は其他止を得ざる事故の爲めに是を解除する場合は、銀行株券の擔保によつて內金千弗に對する其期間相當の支拂が完了せらるゝ事になるので、會社は購買者の契約不履行其他の理由の外は是以上の請求はしない事に約束されて居る。次に示すものは價格三千八百五十一弗五拾仙のものに對する支拂內譯で有る。

總價格……三、八五一弗五〇
現金支拂一割……三八五、一五
殘額……三、四六六、三五
內金(十二ヶ年猶豫)……一、〇〇〇、〇〇
差引殘額……二、四六六、三五
月額利子(初めの十二ヶ年)…一四、四五
銀行株月賦金……五、〇〇
初めの十二ヶ年月額支拂高…一九、四五
次の十二ヶ年同……一〇、三〇
全額……三、四六六、三五
右の五分……一七三、三二
右利子月割額……一四、四五
差引殘額……二、四六六、三五
右の五分……一二三、三二
右利子月割額……一〇、三〇

此例によるときは購買者は初め總價格の一割

即ち三百八十五弗十五仙を現金で支拂つて置けば其殘額に對しては、月々利子として十四弗四十五仙と外に銀行株買入に對する月賦金五弗計十九弗四十五仙を支拂つて居れば十二ヶ年目には自然と一千弗の內金が銀行株利子の蓄積によつて出來る事になる。次の十二ヶ年に於ては殘額に對する月額利子十弗三十仙だけを拂つて居ればよい譯で有る。此賣買價格中には土地建物は勿論、暖房電氣給排水調度器具壁張窓日除衝立コンクリート製地下室扉敷石柵樹木等の一切ものを包含して居るので有る。

此の方法の利とするところは會社と購買者との間に立つて契約が頗る公平で有る事である。即ち會社の資金を充分安全に確保すると同時に購買者の利益を保護する事につとめて居る、任意に其土地家屋の轉賣せらるゝ事を制し得ると共に、一方では必要に應じて購買者に何等不利益をもたらす事なしに是を處分する事が出來る此點が此方法の最特色で凡ての場合に於て第一に希望せらるゝ點で有る。また月額支拂高は非常に少額で（前例によれば一ヶ月金額十九弗四十五仙）普通の職工には充分支拂得る版圖のもので有るのみならず、死亡或は其他勞働不能の場合に當つても充分の權利が保護せられて居る購買者の支拂方法に於ても直接會社にするよりは其協約銀行に支拂ふといふ事によつて、一見慈善的或は恩に着せるといつた樣な風が少しも見えない。

右は主として其利益とする點で有るが更らに其不利益とする點を列擧すれば、會社は其事業遂行に對して殆んど全資金を用意しなければならぬ事で、少くとも最初の十二ヶ年間は全体資本が固定するので有る。購買者の例として觀れば此計畫によれば最初の一割を現金にて仕拂得ない程度のものに對しては何等購入の方法が無いといふ點が不便を免れない。

第二策

『博愛的で五分利』（『フイランスロピイ、エンド、ファイブ、ペルセント』）と呼ばるゝ方法

此方法は一般に右の如き稱呼で博く知られて居るもので、ゼネラル、ジョルヂ、エム、スターンベルグが千八百九十七年ワシントン衞生改良工事會社創設の際工夫されたもので有る。此企畫は其根本理想として都市に於ける混亂的狀態の救濟を主とする博愛的働機によつて資金を準備するもので、會社並に是に參與する人々も其以外別途産業上の目的が有る譯ではないが其方法としては、是れに投ぜられたる資金に對する安全と同時に一定の利率が計畫せられて居るので有る。

會社當初の資金五十萬弗で有つたが、是に加ふるに年々の剩餘金及び土地擴張上必要なる社債を合せて今では全資金は殆んど百萬弗に達して居る。內社債に屬する分は二十二萬五千弗で有る。

こゝでは家だの土地は賣却では無くて凡て賃貸を目的として居る。賣却では自然買受者に對し會社が種々なる拘束をなさざるを得ないので今一ツは是等買受者多數の內には種々の不都合も生ずる事を禁じ得ないといふ理由によつて主として賃貸に限られた譯で有る。賃貸料の標準は十二ケ月分が全資金に對して九分の計算で有る。即ち內

五分　株主への配當。
二分　租稅、管理人手當、外部修繕費。
二分　剩餘金。

の割當で株主への配當は五分を超過する事を得ずとの規定で有る。『博愛的で五分利』といふ通稱も是から來て居る。內部の修繕に就ては別に割引の方法を設けて居る。即ち若し必要ならば年末十二月分の家賃を以て是に當てるので有るが、若し其必要が無いならば其金は平素注意が行届いた結果として是を借家人にくれるので此點は、頗る面白い且つ奬勵的な方法で有る。私（譯者）は吾が日本の大都市東京大阪の如きに於ても心有る家主は此邊のところを充分玩味して新方法を立て、借家人がつとめて其家を大切にする樣な方法を取つたならば家の保存にも非常に有効で、結局は家主の利得となる事だらうと

信せらるゝ。此種會社の平均家賃料は七弗五十仙乃至十二弗で有る。

此方法の利益とするところは現今の如き時局に際し製造家をして重に活動的方面の投資を自由にし、住宅經營の如きを顧慮する必要をなくする事で有る。また全然賣却目的を以て建築しないので有るから家賃も自然低額で、下級の賃金の安い職工を使役する工場等には特別の便宜が有る。

不利益の側を擧ると資金が永久に固定する不便が有るのみならず、戰前に比して著しく斯樣な慈善的事業に對する資金が潤澤で無くなつた結果職工に對する住宅經營問題を單に此種の計畫にのみたよる事が出來なくなつた事で有る。且つまた博愛とか慈善とか云つた美名を冠し過ぎるために、實際技術あり相當の收入のある職工にして眞に善良なる生活を希望する者にとつては餘り悅ばれない傾向の有る事で有る。

第三策

個人または『住宅會社』の經營て長期を以て勞働者に出來るだけ低額(?)を以て賣却せらるゝ塲合。

是は最普通の方法で有るが此方法の利益とするところは製造家が住宅問題に關しては全然是を個人或は專門の會社に一任し、自個の資本は自個の事業にのみ積極的に投資し得る點で有る然しながら其不便不利益は甚だ多い。殊に是等會社或は個人は何れも營利的で有るだけに建築も劣等で價格も高く、意外の損失を勞働者に負はしむる樣な不都合が有る。中途契約解除或は是を轉賣せざる可からざる塲合の如き此方法には最多く不利益が伴ふので有る。

第四策

資金を銀行或はトラスト會社より受借くる塲合即ち製造家は債務に對して適當な擔保を提供し、其住宅經營が完備するに及んで長期にわたる償還に對し其土地及び家屋を抵當とする塲合。

此方法の利益とするところは事業が甚だ簡單で、製造家が直接自己の資金を煩す不利の無い

事で有る。是れが擔保としては建物が出來上り賣却の始まる迄は附屬擔保として、製造家は自己の事業或は資産を先づ提供し、建築が完成するに及んで其住宅經營全部を擧げて抵當とするので有る。

更らに不利益なる點に就て觀察すれば製造家で此の樣な手段を取り得るものは比較的少數で有る事で有る。また銀行の方でも金融必迫の時局に際して斯の如き計畫に對する資金の調達は其悅ぶところで無い計りで無く、かゝる計畫に對する投資に就ては其償還を確實にするため法律上其他各方面に充分の研究を要する。建物の賣却價格等は凡て第一策と類似の金額及方法に依るので有る。

一般釀金により經營する場合。

此方法は一地方に於ける商工業者が共同して職工住宅會社を組織し、住宅を建築し是を出來るだけ安價に賣却するので有る。株券の割當は各出資者が望む建物戶數に比例して其數を決定し、一般に對しても都市の福利を增進し名聲を博する上に於て斯の如き計畫を維持する事は都市に於ける義務で有るといふ見地のもとに、特に理解ある有志者には株券を提供する。また勞働者に對しても家屋購入に當つて其一割の現金支拂に當り、是れに換ふるに時價相當の其住宅會社の株券を購入すればよいと云つた便法も開かれて居る。是れが爲めには勞働者は進んで家屋を購入の希望を增し盛んに貯蓄するの良風を生じ、また會社としても運轉資金の流用を防ぎ此種最困難なる計畫の遂行に對して共同的に實績を擧げ得る便宜が有るので有る。

此方法の利益とするところは個々に經營する場合に比して凡ての經營が頗る經濟的で有る事及び、全計畫に對する非常な責任を獨りで負擔する必要が無くなる事で有る。また多數勞働者をして貯蓄の奬勵ともなり其れが爲めに著しく勞働狀態を改良する事が出來る。且つ最實費に近き價格を以て建築の便あり、一般社會も此種の事業に充分の注意を喚起し將來の發達を助長するの利益が有る。特に不利益とす可き點は此種公共的事業に對して多數出資者を勸誘する事が非常に骨の折れる事で有る。（未完）



東大寺建築史（四）

會員　須藤眞金

創建篇

三　當局の人々

世の中には隨分この東大寺の建立を聖武天皇が佛教に惑溺されて徒らに國家の力を費消せられた無益の事業の樣に誤解して居る者が多い樣だが、東大寺の建立は決してそんな淺薄な御道樂仕事ではなかつた。

吾が國は神代このかた祭政一致の國柄であつた。神と云ふ物が政治機關であつた樣に佛教も政治の源泉であつた。佛教の傳來と云ふ事は宗教改革では無くつて政治及文明の改革であつたのだ。政は「まつりごと」即ち祭祀であると云ふ日本民族の根本思想は直ぐに佛教にも結び付いて宮廷の裡に內道場と稱する宗教上の政府が出來上つて了つた。

そしてこの現實の經營と宗教の經營との兩立は凡ての社會的事象に影響を及ぼして、各民家には內佛、各大氏族には氏寺、皇室には大寺、各國には國分寺、と云ふ風に事々に顯冥兩界の一致が形を現はす樣になつた。各國に國分寺が出來れば必然國家に之を總括する總國分寺が造營されなければ成らなかつたのだ。實に東大寺の建立は汪溢した時代精神、高潮に達した時代思想の自然の結果であつたのだ。

丁度歐米の文化に目醒めて忽ちに燦爛たる文時に同化した明治、大正時代の樣に、支那の歷史中でも殊に文明の發達して居た唐の文華を十

回の遣唐使、五百五十人の留學生、學問僧に依つて移植した光彩陸離の天平の當時に於て、東大寺の建立が眞の時代の要求に應じた嚴正なる國家的大事業であつたと云ふ事は少くとも文明の精神を理解した人達の胸裡には了解される處であろうと思ふ。岡部文學士が曾てこの聖武天皇の東大寺建立を明治天皇の日露戰役に比較し評論された事があつたが、此二大事業の眞の精神、眞の意義の存ずる處を十分に分析して研究すれば全く同一の性質を有する嚴正な國家事業であつたのだ。

扨てこの日露戰爭にも比すべき聖武天皇の偉業は如何にして達成されたか。先づこの大事業に參與した人達ちの人物志に筆を起そうと思ふ

佛家は東大寺を四聖建立のお寺と云つてゐる即ち菩薩がたが人間に生れて來たまふて此不思議な佛事を爲し遂げ給ふと云ふ、その四聖と云ふのは觀音の化身の聖武天皇の本願、彌勒の良辨僧正の草創、普賢の婆羅門僧正の導師、文殊の行基菩薩の呪願をいふのである申す迄もなく聖武天皇は萬機を親政し給ふ英主東大寺艸創の偉業も必然上御一人御叡願に基いた事はいと明白な事實である。又大僧都良辨は天皇の御歸依淺からざる華嚴宗の振興者で專ら造營に盡力し第一代の東大寺別當に任ぜられた才僧。婆羅門僧正は偶然にも御發願前天平八年に南天竺から難波津に漂着した聖僧で時節柄大變世間で持てはやされて、盧舍那佛開眼供養の齋會には開眼導師の重任を承つた大智識であつた。又行基菩薩は民間に大なる勢力を蓄積したる慧僧であつて專ら衆庶の勸誘に努力した殊功者で、誠にこの四聖は東大寺建立の棟梁柱石で何れを缺いても此偉業は成就しなかつたのであつた。

然し私は東大寺の創立者としては尙此上に僧正玄昉及び皇后光明子の史上に隱れたる功績を書き洩す事は出來ないと思ふ。それから造寺官佐伯今毛人、大佛師國公麿、大鑄師高市眞國、高市眞麿、柿本男玉、大工猪名部百世、譽田繩牛等の技術的才能も是非共特筆しなければならないと思ふ。

又工事の半ばに陸奥國から黄金を發見したと云ふ事も、盧舍那佛の靈驗にして了つて人の功を沒却して了ふ譯には行かないのである。當時陸奥の國司は百濟の歸化人王敬福であつた。されば此の發見は決して偶然の事ではなく大佛造營と必ず連繫のあつた事業に相違ない。即ち王敬福も東大寺艸創の一別働隊長であつたのだ。

財物奉加人として名を記錄に殘してゐる者に利波志留志、河俣人麿、揚部子嶋、甲賀眞束、少田根成、陽侯眞身、田邊廣濱、板筱眞釣、漆部伊波、夜國麿なぞがある。之等は大口の寄附者で當時の紳士紳商であつたらう、直接の當局者では無くとも其貢獻は造營工事に取つて餘程有り難かつたに相違ない。

以上列擧した人達は悉く東大寺の建築史に於て重要な人物であつて、本史を讀むには其の人達の略傳を頭に豐み込んで居て貰ふと甚だ結構だと思ふ。それで茲にそれを揭げる。

聖武天皇。 本願の聖帝であつて此の艸創篇全体が此の帝の御傳である。それで此處で贅筆を弄する必要はないから、只御祝儀に簡單に冒頭を飾つて置く。

御諱は天璽國押開豐櫻彦（あめしるくにおしはらきとよさくらひこ）、文武天皇の第一皇子で母は藤原不比等の女藤原宮子、和銅七年立太子、御元服時に御歳十四、靈龜元年御卽位天平感寶元年御出家、御讓位、天平勝寶八年崩御。

光明皇后。 元亨釋書は「聖武帝國分寺、東大寺を作る、皆な后の勸發なり」と云つて居る所を見ても東大寺の造營が皇后の內助の功に待つ物の多い事が分る。

皇后は天皇の御生母である藤原宮子夫人の妹で藤原不比等の第二女である。卽ち天皇の叔母であつて名は安宿媛（あすかひめ）齡は帝と同年であつた。允恭天皇以來、天子は必ず御兄妹で結婚をなさる制度になつてゐた。そして皇后は必ず內親王で其御腹を繼体となさる定めであつた。皇族出身の御妾を妃と呼んで臣下の娘は夫人か嬪と云ふ名目にしかなれないのである。之れは蘇我氏が代々娘を皇后に立てゝ外祖外舅の權を振つて專

態を極めた弊に鑑みて藤原氏が制定した法律であつた。處が文武天皇には宮子夫人の産んだ聖武天皇御一方しか皇子が無かつた、そして内親王は未だ聖武天皇が御幼少の間に帝位に昇つて御了ひになつた、即ち元明、元正の二帝である内親王は一旦帝位に御即きになると最う結婚は出來ない規則である。それで聖武天皇は皇后の當てが無いのである。

蘇我氏に代つて朝權を一手に授握する樣になつた藤原氏は安宿媛を夫人の地位に甘んじて居たくは無くなつた。どうかして皇后にし度いと想つた、しかし今はその絶好の機會なのである藤原氏の專横は遂に自分で作つた法律を自ら破つて安宿媛を皇后に立て、光明皇后と唱へるに至つた。然かも此の爲めに反對黨の旗頭長屋王を寃罪に陷れて自殺をさせ奉つたのであつた。光明皇后は斯樣にして夫人の地位から皇后にお陞りになつた方であつて、其背後からは藤原氏の勢力に擁せられて居るので國内の事は其思ふが儘であつた。

此大勢力を持つ光明皇后は又正鵠な文明の理解力を持つて居られた。先づ皇后宮職に施藥、悲田の兩院を置いて天下飢病の徒を療治された又興福寺や法華寺の創立も此皇后の御願望であつた。殊に法華寺は東大寺の總國分寺に對する總國分尼寺であつて嚴肅な國家事業であつた。尙ほ皇后は湯殿を建て、千人の垢を去らうと思ひ立たれ、其の千人目に瘡病患者が飛び出して來て鼻もちのならない膿汁を吸はせたと云ふ有名な話があるが、それは後世の僧侶の附會説で取るに足らないお伽噺である。佛教が個人の幸福を願ふ利己主義な悲觀的な消極的な物に墮落したのは平安朝以後であつて、奈良朝時代の佛教思想は實に國家的で樂觀的で積極的な壯莫たる物であつた。光明皇后が悲田院や施藥院を建てゝ慈善事業に努められたと云ふ事も、決して御自身の未來の幸福を願つたり、前世の罪業を怖れたりして、おまじないになさつた事業ではなく、佛教を旗印とする文明の潮流が自然と爲さしめた國家的事業であつた。國家の向上に伴

ふ必然の文明的施設であつたのだ。そして光明皇后の權力を以て初めて成就する事の出來た大事業であつたのだ。

されば東大寺艸創の大工事も此の文明の理解と背後の大勢力とを有つた光明皇后の內助に負ふ處甚だ少くない事を思ふ。皇后は寶宇四年御年六十を以て薨去遊ばされた。

僧正玄昉。 東大寺建立の種を蒔いた者は怎うしても玄昉でなければならない。何故なれば玄昉は國分寺や東大寺御建立の詔勅が出る前後即ち其計畫が胚胎してる頃に內道場を切つて廻して居た俊傑であつた。一体宮中は法相宗第一の高僧義淵僧正の繩張りであつたのだ。そして玄昉は行基や良辨と一緒にその門弟であつた。そんなツルで玄昉は靈龜二年に阿倍仲麿や吉備眞備等と一緒に勅命に依つて唐へ留學する身となつた。在唐十九年、相宗の深旨を究めて歸朝して見ると師の義淵は入滅して居た。玄昉は唐が玄宗皇帝に大に敬重され准三品の位を貰ひ紫袈裟を着る許しを得て大に箔をつけて歸つて來たので朝廷は早速封戶を賜ひ扶翼童子を施與して歡待をされた。天平九年には僧正となつて內道場に安置された。即ち師義淵僧正以上の親任を宮中に得た譯であつた。內道場は禁中の寺で天皇妃皇子女の禮拜堂である、そして玄昉は直ぐに太夫人即ち天皇の御生母宮子の數十年來の宿阿を忽ちに醫し奉つた。膽病乃ち醫術は此時分の僧侶の學問の一つであつたのだ。玄昉は光明皇后と醜關係を結んだと唱へる史家がある位に玄昉は忽ちの間に宮中に根を張つて了つた。洋行歸りのチヤキ〳〵の玄昉には藤原廣嗣の政治が齒がゆかつた。それで留學友達の吉備眞備と結び橘諸兄を助けて藤原氏の勢力を挫かうと云ふ大膽な彈劾を敢てした。

玄昉はそうした豪傑であつた。そして內道場の住職である、即ち宗教內閣の首領である。天皇も皇后も一方ならず歸依して居られる。然かも此時此間に東大寺艸創の大計畫が着々として宮廷の間に議を進めて遂に着手に至つたのである。その大膽な文明的畫策は如何にも玄昉の企

て相な仕事である。東大寺建立の發案者はどうしても僧正玄昉であらねばならない。

噫その玄昉も藤原氏の勢力には敵し兼ねて天平十七年、恭仁の新都に甲賀寺を建てゝ大佛鑄造に着手すると間もなく、太宰府の觀音寺に左遷の身となり遂に敢なく刺客の手に斃れた。

良辨僧正、良辨が東大寺艸創に對する功績はその事務的手腕にあつた。此人も玄昉の相弟子として義淵僧正に法相を學んだが、後に慈訓法師に從つて華嚴の奥旨を受けた、天平五年今の東大寺の位置に金鍾寺を造立した事が出世の前提であつて、玄昉が太宰府へ左遷になつた事が出世の緒口であつた。元々華嚴宗を振興して天皇の御歸依を受けては居たと云ふ物の玄昉の失墜が無かつたら或は名前も殘らずに只の凡僧として楢の落葉に埋つて了つた人かも知れないとは云ふものゝ義淵七上足の一人として早くから義淵門下の七俊才の一人に數へられてゐたのだから才智は優れてゐたに相違ない。然し其素性は卑しかつたと云ふ事は、嬰兒の時分に鷲に攫はれて大杉の梢でその大鷲に育てられてゐるのを、義淵に救はれたと云ふ傳說でも分る。恁んな佛僧一流の因緣話は餘り當てにはならないとしても兎に角歷乎とした系圖を持つてゐなかつた人だと云ふ事は出來る、尤も其先は相模の人漆部氏鎌足公の後胤にして深谷太郎太夫時忠の子なり其母嘗て兒なきを悲嘆し觀音に祈り其所願成就して此の僧正を產む、と書いた本もあつたが其れにしたつて餘り結構な育ちでも無いいくら僧侶は貧乏人の登龍門でもそう矢鱈に出世は出來ないのだ。

玄昉が死んだが爲めに、近江の國に建てようとした玄昉の計畫を廢して奈良に大佛が建てられる事になつたが爲めに良辨は忽ち幅が利いて來た、そして行基と共に專ら勸化に盡してゐた身を其れからは工事に盡す樣になつた、その模樣は本記に讓る。天平勝寶三年少僧都に任ぜられ、翌四年東大寺別當に補し僧都に任ぜらる。寶龜四年僧正に補せられ同年八十五歲を以て入滅。

婆羅門僧正、　南天竺婆羅門の僧菩提は林邑（リンユ）國の僧佛哲と一緒に天平八年の夏難波津に漂着した。土地の人達は船の異樣なのと言葉の通じないのとで、怪み怖れて官に奏上した。此事を聞傳へた行基法師は（それは屹度聖僧であらうからして、禮を悉して迎へなければならない）と云つて、一百の沙門を率ゐ、禮部、鴻臚、雅樂三僚の音樂と官僚の兵士とを從へて迎へに出掛けた。そして儀伏を整へ、音樂を吹奏して此の二人の梵僧を迎へた。行基は海濱に立つて菩提の手を執つて梵語で挨拶をした。

靈山の釋迦の御前に契りてし眞如くちせず相見つるかな。

行基が和歌を送ると菩提は直ぐ返歌を詠んだ。

迦びらゑに共に契りしかひありて文珠の御顏相見つるかな。

それから菩提は大安寺の東坊に招せられて天皇からも厚い尊敬を受けてゐたと云ふ。

何だか夢の樣な話である。然しこれも私は單なる奇蹟として看過ごし度くはない。行基は始めて此時菩提僧正と會つた樣な事になつてるが實に舊知の間柄であつたらうと思ふ、そして大佛鑄造の事業は日本の國力としては隨分な難事業であるから、怎うしても外國人の顧問を招致する必要が有ると思つた。それで行基は帝に奏して天平五年に遣唐使多治比廣成、學問僧理鏡等が渡唐の際、婆羅門僧正に日本來遊を要請した物と思はれる。だからして婆羅門菩提はいつも僧侶の最上席に列せられて大佛開眼の時も導師を勤めた。東大寺艸創に關しての其功績は後世の僧侶の爲めに勉めて隱匿された傾向があるが、其名譽ある地位から云つても大なる貢獻を致した物を思はなければならない。天平寶字四年入滅。

行基菩薩。　行基は貴族主義の奈良朝宗門には珍らしい平民主義者であつた。常に諸國を巡つては道俗の行化を事としてゐた。そして嶮難に遇へば橋を架し、道を修め、地の開墾する方法を授け、水の溜灌すべき点を示し、渠池を穿ち、堤塘を築いて只管國利民福を計つた。そ

爲めに非常に民間の尊崇を受けて都鄙到る處、行基が來たと云ふて人々皆家を空にして道へ飛出して禮拜し、猶ほ其後を追從ずると云ふ有樣で、怎うかすると其行列千人以上になると云ふ騷ぎであつた。

斯んな風で行基の着眼点が異つてゐた事と、その法力が偉大であつた爲めに始めは危險視されて朝廷からも迫害を受けて居たが、後には其德操を理解されて朝廷でも重任され、婆羅門僧正の接伴役を勤めたのを手始めに東大寺艸創にも關與し、內道場の住職ともなり、大僧正の初任者ともなつた。其東大寺造營に勉めた努力は之れ亦本記に讓る。天平勝寶元年寂す、年八十。

實忠和尙。此人は良辨の弟子で天平寶字四年から天平神護二年迄の六年間良辨の目代となつて造寺々務を檢校した人だ。即ち大佛殿建立后の後始末や追加工事の事務を處理した人で、大佛の後光の事で佐伯今毛人と喧嘩をしたが爲めに本篇の重要人物となつた和尙である。弘仁年中寂す、壽不詳。

佐伯今毛人。人足從五位下右兵衞士督の子で大連大伴室屋の後である。東大寺艸創の天平十七年には未だ二十六歲の筈であるが、其弱年の身を以て工事の監督の任に當つた。處が指授方あつて役徒惰る事を得ず大に才幹を發揮したそれで悉皆り帝の御信任を得て重用され勝寶の初めに大和介となり從五位下を授けられ寶字中從四位下に叙せられ攝津太夫兼造東大寺長官に任ぜられた。即ち東大寺の造營は今毛人の出世作であつたのだ。今毛人は之れに依つて世に認められてどん〳〵出世をし出して。然かもその榮轉が常に建築事業に關係のある處を辿つてゐたと云ふ事は、如何に今毛人が建築工事の管理者として鬼才を有してゐたかと云ふ事が分る。即ち築怡土城を管理し、造西大寺長官となり、遣唐使を命ぜられ、遂に造宮使の次官として長岡造京の大工事計營す、功半ばにして延曆九年七十二歲を以て薨ず。

國公麿。中連なり、先祖は百濟の人、蘆舍那佛鑄造に當り其巧思を見出され、能く其功を

成した。勞を以て四位を授けられ官は造東大寺次官兼但馬員外に至る。大和國葛下郡國中村に居たので地に因で氏を名じたのである。寶龜五年十月卒す。

高市眞國。 大鑄師、從四位下、大和國人で東大寺須掌兼河內守に任ぜらる。

猪名部百世。 大工、從四位下、伊賀國人で伊勢守兼東大寺須掌使に任ぜらる。

譽田繩牛。 小工、從四位下、和泉國人で紀伊權守に任ぜらる。

此大工事を成就した畏敬すべき技術者の履歷が甚だ簡略で心許ない次第だが私の搜索範圍では之れ丈けの事しか堀出す事が出來ない、如何にも殘念な次第である。

序に前記財物奉加人の寄附物件を附記して置かう。

判波志留志。 米五千斛。

河俟人麿。 錢一千貫。

揚部子島。 錢一千貫。車十二輛。牛六頭。

甲賀眞束。 錢一千貫。

少田根成。 錢一千貫。車一輛。鍬二百柄。

陽候眞身。 錢一千貫。牛一頭。

田邊廣濱。 錢一千貫。

板茂直釣。 錢一千貫。

漆部伊波。 布二百端。

夜國麿。 稻十萬束。屋十間。倉五十三間。栗林二町。家地三町。

（當局の人々・完）

▽卯辰紀行の一節△ 桃青

灌沸の日は奈良にて爰かしこに詣で侍るに、鹿の子の産を見て、此日においてをかしければ

灌佛の日に生れあふ鹿の子哉

招提寺鑑眞和尙來朝の時、船中七十餘の難をしのぎ給ひ、御目の內鹽風吹入て終に御目盲させ給ふ、尊像をはいして

若葉して御目の雫ぬぐはゞや



佛寺建築の將來（續）

會員　波江悌夫

（七）結論

一國の建築が其國土の天然的事情から拘束を受けて其國に特有なる樣式を產出せしむることは既に歷史の証明する處であり、數多の學者も極力此の點に注意を拂ふことを怠らない。それと同時に人爲的の傾向から少なからぬ時代の色彩を建築の上に現はすことも認められてゐる。そして人爲的の素因としては主として其國民性に因ることの多いことが認められてゐる。

人爲的變遷の上に於て最も顯著なる變動を起すものは其國民の有する宗教、慣習或は政治的訓練等がある此等のものが最も強い影響を與へるものとして誰しも承知の上ながら、一國の建築樣式の上に働く眞實の素因は其國民の思想の如何に歸着することを見逃すことが出來ない宗教的革命政治的變動も要するに思想問題に其端を發してゐる、されば大勢に逆行する所の政治的思想の如きは屬一時的色彩を政治史の上に殘すに過ぎないで國民の衷心の信念を堅めてゐる思想はやがて一國の大勢を統一して、そこにあらゆる其國民の藝術の外觀内容に深くも浸滲して建築の如きも遺憾なく時代〳〵の國民思想を体現することに僞らざる証左を殘すものである。時代に順應することの出來ぬ偶象的宗教が衰亡するも之が爲である若し一國の國民藝術の歸趣が混亂と不統一の極度に陷つてしまた際にあつては之が統一歸向の第一步は思想問題の解決

から始まつて行くが自然の成行である事は數多の學者の認むる處であると思ふ。

通商交易の一國の文化に影響する程度も可なりの深みを持つて居る、殊に文化の差隔甚しき場合にあつては最も顯著なる色彩を歷史に殘すものである。乍然此の現象も畢竟一國の人心如何によることである。國民の思想上の交易が其主要なる部分を働くのであつて其結果に現はるゝ事實はよく其間の消息を說明するものである此の點から見て思想問題の交易平衡の保たれぬ間は、藝術界のコスモポリタニズムは成り立たぬ事である。それにしても一國民の思想を培ふ天然的風格は必ず深く其根幹を成して居るもので、多年の舊慣風習は一時的波瀾から一掃することは中々出來るものでない。

殊に戰爭や革命のために現るゝ國民藝術の變態の如きも、戰爭が一時的革變であるだけに凡ての問題の解決に一步を進め得べき動起には相違ないにしても其影響は比較的薄弱なものであつて大勢は依然として國民の思想上の問題に係れることを悟ることであらう。殊に戰爭の結果に在りては常に不可思議な現象が行はれる。それは征服者が彼征服者の藝術に打負ける場合が多くして後者か前者の影響を蒙る場合が却つて少ない現象の如きは蓋し面白い史上の皮肉であらずして何であらう。

之を要するに建築史上の人爲的効果は常に國民の思想問題に觸れなければならぬ事になる。殊に建築に關する將來の問題を取り扱ふ場合に此の重要な項目を逸しては到底論旨の徹底は得られぬことである。況んや將來の國民思想に深く接觸すべき宗教建築の革新改善の問題にあつては思想問題の歸向を知らずしては何等の劃策も其根底を失ふことになる。

今日の時勢は既に物質文明の高調期に在つて到底昔日の如き宗教的色彩の強い建築は再び現はれないことに斷定を下されてゐる。從つて多くの佛寺建築は衰殘癈頽して單に考古的記念的價値ある建築物のみ保護建造物として殘されて行くに相違ないとされてゐる。蓋し我國の多く

の佛寺建築は何れも過去の社會的產物として殘されて來たものであつて、過去と共に葬り去られて行く運命を持つて居るからである。乍然、此等の寺院建築が今日の世運と何等かの連關を保ち現代社會と氣脈相通ずる建築として現はれて來たならば、必ずや其一路の命脈を把持してやがて將來の運命を開托され得る機會が來らぬとも限らぬ。否斯くして其命脈を現代社會に深く植ゑ付けて行かねば到底其頽勢を滅亡に迄行詰らせるの外はあろまい。

畢竟佛寺建築の將來は佛敎其者の轉機再興から出立すべき性質のものである。現代社會の趨勢と國民思想の大勢とより觀察して其處に佛敎の開托し行くべき一道の光明があるものとするならば、佛敎改革は其根本問題から出立しなければなるまい。されば佛敎建築の將來は怎うなるだらうとか怎うなるだらうといふ樣な想像を逞ふすることは避けねばならぬ、今日の場合に在つては改善改築の第一步は斯ふすべきであるといふ點を充分研究すべきであると思ふ。改善の第一步は實行にある。改善の實を擧ぐるには行つて見なければ何にもならぬ。徒らに良策善謀を蓄へても、其實行を躊躇逡巡して居ては、遂に何等の改良進步は促かすことは出來ない、況して一國文化の發展向上の道程は只實蹟の如何に徵するの外はない。

今日寺院建築の改造改築の問題は到る處に擧つて居ることであらうと思ふ。既に回向院の如きも昨年末の國技館燒失によつてはしなく類燒の厄に遇つたそして今日では既に其再建の計畫が立てられつゝあると聞いてゐる。若し回向院が再建の結果亦しても木造一天張の舊慣に依るとしたならば、建築の業は成るとしても改善の實は到底擧がる譯はない殊に回向院が明曆大火の無緣寺として幾萬人の生靈を救濟した歷史から見ても耐火耐震的構造の建築とするが至當であることではあるまいか。

寺院建築を木造から脫却せしめて其本來の面目に歸らしむる爲めに唯一の障害は經費の問題であると思ふ。けれども既に前述せる如く改善

の域に一歩を進めんとする徹底的主意の理解が多くの人の頭に宿つたものならば、擧金の苦心は左程ではあるまいと思ふ況んや新造の新寺院をして現代社會に有用なる建築として・都市町村の公舘として萬般の利用を得しむる爲めの平面圖形の改良設備の完結によつて實用的建築とするが爲めに受くる公民の利便が明瞭であるならば、回向院の如きは國技舘の再建と共に江東の一名所となるであらう。

若し木造建築を耐火耐震の不燃質建築にするが爲めに構造並びに樣式に大なる支障があるとすれば、そは甚だ心得ぬ次第である。現代の建築界は此種の問題の解決には最も好都合の時期である、況んや寺院の本來の面目は石造建築に在る。我國の寺院建築は國土の拘束を受けて木造一天張で歷史を造つて來たけれども印度の寺院或は精舍は殆んど石造建築であるのである。支那の寺院建築ですら木造といはんより石造へ木材を利用したといふ形である。いはゞ我國過去の時代に在つては構造の學術經驗に乏しかり し結果止むなく木造を採用したのであつて決して好んで木造建築を打建てたのではないのである、今や科學的文明の著しく發達せる我國建築界が木造寺院の再建を白眼視するは大なる恥辱である。

況んや樣式の適用に苦しむが如きは沙汰の限りである。樣式の混亂紛雜の甚しき今日の如き時代は盖し稀である九輪の塔の裝飾が演舞場の屋上に載せられ、往古官寺の形式が神寶殿に應用せられ、鴟尾の如きも到る處の瓦屋根に安置されるといふ樣に建築の形式が何等の約束もなく何等の規律もなく建てられつゝある時代に寺院建築が其舊骸を脫却し得られざることゝがあらうか。

因より一國民の舊慣風習が一朝一夕に改善せられる譯のものでない。大勢は慚を追ふて移動するものである、さりながら今日の如く舊風の混亂不統一に陷つたことは前代未聞である、舊來一切の格式は全く破壞され盡されて來た時代に、飽くまで舊風慣を追ふの躊躇は不必要の極

である。行き詰つたる佛教界に積極的本來の面目を打出するの必要あると昔に佛寺建築の改善の第一歩は亦其本來の面目に立還るのに在ると思ふ。要は根本思想の樹立に外ならぬ。佛教界革進の實行は先づ以て其建築より着手すべきであることを衷心信ずるものである、從つて寺院建築の將來は斯くして其行詰つたる天地を進展開發し得らるべきであると思ふ。（完）

○居レ家　何應龍

居レ家到底勝レ居レ官　啼鳴聲中晝掩レ關
待二得小園花落盡一　更須三移レ酒對二春山一

○移レ家　賈島

雖レ有二柴門一長不レ關　片雲孤木伴レ身閑
猶嫌住久人知レ處　見レ擬二移レ家更上レ山

○廢宅　石屏

野桃無レ主自開レ花　春草茫々帶二曉鴉一
幾處敗垣園二廢井一　向來一一是人家

（聯珠詩格）

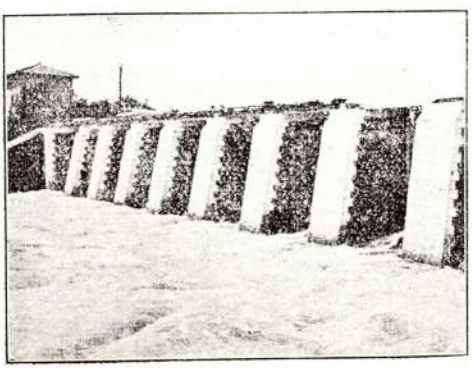


淀の流

會員　澁水生

大阪になくてならなかつたものは淀の流れである、それと同時に大阪人の恐ろしきものゝ一つは淀の流れであつた、春夏秋冬川の都の市民に多數の恩惠を與ふるに躊躇せぬ淀の流は、年一度什ういふ譯が怒つて狂ひ濁涙を擧げて市民を襲ふたものである、年一度平和な市民の夢を驚かして氾濫する淀の流れは亦時に靜なる姿を見せてしかも恐るへき疫病の傳波を司る事もあつた、年一度夏から秋へかけての疫病には淀の流れの狂ふよりも猶恐るべきものがあつた、彼にあつては弱者を溺らし病者を失ひ家屋を流すの慘を敢ひてするが、此に在つては弱者よりも强壯の輩を襲ひ、財寶家産は其儘ながら一家總倒れの悲運を齎すのであつた、そこで治水と衛生の二大問題は、明治年間の懸案となつて、閘門の建設と上水道の敷設事業は多大の工費を拋つて斷行されたのである。爾來川の都は往年の水害を再びするの憂なきと同時に年々歲々數十萬の生靈を失ふの害なきに至つたのみならず淀の水は上水となつて市民の咽を潤してゐる。

さりながら爾來川の都は當然なる二つの問題に逢着して正に其の解決の期到來せん事を待ちつゝある樣である。一つは水量の減少であつて他は河川の整理である。



毛馬閘門

淀の川水は一度閘門によつて堰かれて以來昔の樣に大阪の市民には恐るべき性質を失つたが同時に覩しむへき愛惜がなくなつた川の都は其根本問題の解決に努力した結果見事に淀川の水を敬遠してしまつた、そして幾百年の昔から市民の唯一の慰安であつた川の流れは昔日のなつかしさを失つてしまつて

八百八橋の風光もあはれ寂しいものとなつた。東西兩横堀・之れと連絡して東西に交通を開かれた土佐堀、江戸堀、京町堀、立賣堀、さては長堀、又有名なる道頓堀も明治時代の巡航船の姿を失つた寂寥ばかりではない、大傳馬小傳馬船の往來も昔の樣には其姿を動かさない事になつてゐるではないか、これはやがて此等の河川の衰退の眞因たる水量の減退に歸因する。

河村瑞軒が畢生の築事業の一たる安治川は今に大阪の咽喉で滯ある貨道である、それすら今は狹隘と水量の不足に多大の不便を感じつゝある。況して數多の支線細脈の現狀は市民が營養不良の一大原因をなしつゝあるのである。實にや一大築港の完成と共に市の内藏に通ずる重要なる貨道は一個の安治川を以て滿足すべからざる時勢となつて居るではないか。内藏の沈滯不良と貨道の狹隘不足とは川の都が堪ふべからざる苦痛を味ひつゝある樣である。



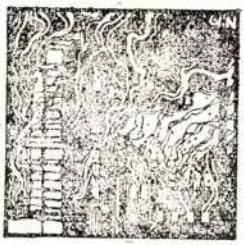
橋

茲に淀の惡流を隔離して清淨なる上水と化し、後に一大港門を築いて外洋に對する市の門戸を思ひ切つて開放し都市の主要な二問題を解決し得たる川の都よ、今や爾の内藏諸機關の大改造をしなければならぬ時期とはなつたる事ぞ。川の都をして陸の都たらしむるは果して策の得たるものであろうか、市區改正や都市計畫の根本問題は決して外觀の美や交通系統に在るのではない事を忘れてはならぬ事である、爾の内藏諸機關の日一日と不良に陷りつゝあることに心せずんば、やがては糞留りの見苦しい姿を三十年後の世界に暴露することであろうよ。

「糞に疑りて臍を吹く」といふ事がある。實に恐るべき淀の川それよ去年の夏はうらめしき迄も荒れ狂ひたることよ。川の都は高き枕に眠れたりと云ふ勿れ。淀の川の惡靈は川の都と隔違されたるか爲めに餘忿を北岸に漲らしたりと誰かいふ。右すれば亦左する時もあらん。

風靜かなる澱江の岸の柳よ。汝は綠の袖を何故にうらめしげに逆にして川風に曝せるや。語れ聞かん、其昔岸を洗へる其流は、其流れは、此頃のコンクリートの護岸の横着にも長々と、むくつけき体を延ばして汝が戀を揶揄もなく妨げつるを、然なり其昔裕々閑々汝の話相手に長き日を暮せる其流れは忙しき此頃の世を知れとや言ひ顔に流れ〳〵て、寂しげなる景色を湛へてゐるのである。

海か河か陸か。船か鐵道か自動車か。川の都の來るべき運命は今日の「ハンドル」の執り方によつて決まつてしまふであろう淀の川の流の心地よく大阪の數ある川岸を洗ふ時の來らんことを切に祈つて止まぬ。淀の川よさらば再び離れたる緣を結び付けて昔なからの愛惜を此の都に立歸らせよ。



神戸市榮町に於ける火災に就いて

第四部委員會

△序　言
△火災の原因と附近の狀況
△消防隊の活動と防火の困難
△損害の程度と重要地區
△結　論

△序　言

大正七年五月三十日午後九時二十分頃、神戸市榮町六丁目神戸製茶檢査所の裏手に方り、轟然たる大爆音の起ると同時に附近一帶の民家は大震動を感じ、或は窓硝子の破碎墜落せるものあり、何れも何事なるかと戰々兢々たりしが、忽ち渦巻き昇る黑煙と共に紅蓮の焰を吐出するに至つて附近の周章狼狽甚しく、折柄西南の微風は漸く火勢を煽り八方に燃え擴がるに及びて混亂と叫喊と警鐘の亂打と相交りて市民の驚愕一方ならず慘憺たる災害を現出したりしが、幸にして強風の之を襲ふあるなく、消防隊の活躍遂に効を奏して、午後十一時過辛くも鎭火を見るに至れり。

本火災は之を大火と誇稱する程の燒失戸數あるにあらず、燒失せる家屋亦脆弱なる木造民家土藏及上家の類に過ぎずと雖も其災害の原因は貯藏藥品の爆發に起因し、神戸市に於ける目貫なる地点に突發せると且つ萬一烈風の襲ふ所となりしならんか消防隊の努力も効を奏するに至

らずして榮町及元町に櫛比する繁華の街區を席卷して稀有の大火場を現出したりしならんかと推察するに及んで輕々に觀過する能はざるものあり。加ふるに現場附近の矮小なる民家櫛比の狀況と狹隘なる街區通路の現狀と熟視すれば益々我國都市の亂雜なる現狀を洞察して都市改良問題の忽にすべからざるを証すべき好箇の參考資料たるべし。

因つて本委員會は視察調査を遂げ特に誌上に報告して後日の參考に資せんとす。

△火災の原因と附近の狀況

今回の火災現場は昨年末燒失せる神戸郵便局の北方、電車通の北側榮町六丁目の裏町に在り電車通の西端隅に在るは神戸新聞社の木骨張瓦三層樓にして之に東隣するは木造二階建瓦葺の神戸信托所也、其東に巾約一間の私路北に延びて元町通に達す、此道路の東側は鹽谷印刷所の木造板張二階建にして其の東に在るが神戸製茶檢査所の木造平家なり、更らに東にある又新日報社は木骨モルタル塗三階の建物にして又電車通に面す、宇治川通に面する民屋には木造二階建長屋にして中央部に時事新報支局あり。

今回の災害の火元は實に狹隘なる通路東側に在りたる戎屋旅館別館にして木造板張二階建、鹽谷印刷所の北隣に在りし建物なり。舊海員掖濟會の所有に係りしものなる由なり、發火の原因につきて所轄相生橋署司法課にては嚴重取調の結果、同建物階下に保管貯藏中なりし二化硫炭素（五十磅入五瓶外に空瓶十本）の包裝不完全のために漏出しつゝありたるが爲めに返つて點火爆發を惹起したりしものとの斷定を得たる由なり、爆發當時に於ける狼狽と混亂とは蓋し何れの火災に在りても適確なる眞相を得るに困難なりと雖、原因か藥品の爆發に依りたる事は階上に止宿中なりし四十餘人の瓜哇人並びに附近住民の陳述を綜合するも確實なるが如し、幸にして一人の燒死者なかりしと雖、火傷せるもの數名を出せるは無理ならぬ事といふべし。

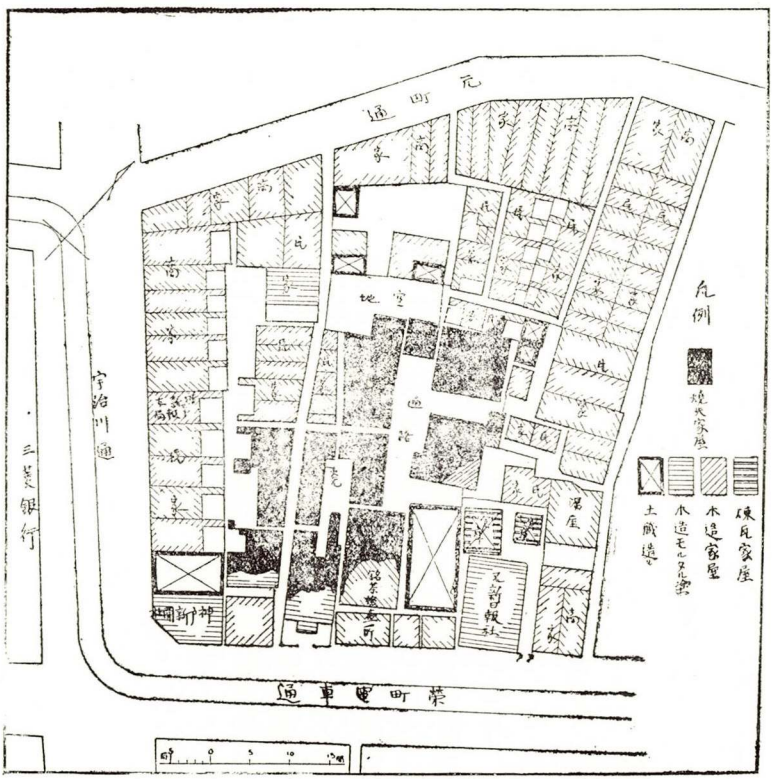
爆發せる個所が木造板張の家屋なりし爲めに

忽ちにして猛火一團四隣に狂ひ、東は製茶檢査所の納屋及土藏を襲ひ、西は眞向ひなる民家に類燒し紅蓮の焔は上奔して西南の迷風を捲き起し、火の手は北東に延び、檢査所附屬の土藏及納屋は漸次燒倒して東側及北側の民家を一瓦にせんずの勢となりたるなり。

△消防隊の活動と防火の困難

前述の如く發火の場所が狹隘なる通路内に在りたると、附近民家の貧弱なりし爲め火の手頗る早く加ふるに爆發物の炸裂に因せる爲め附近市民の驚愕狼狽此上なく混亂其極に達せり。

急報に接し所轄相生橋署よりは全員並びに消防隊時を移さず出動し蒸汽喞筒を初め數條のホーズを



神戸市榮町六丁目附近歩測圖

消火栓に連ね元町及榮町兩方面より防火に努めたれども火勢猛烈にして周圍民家の危險此上なき形勢となれり。

かくて三宮、兵庫、水上、湊川の各署員並びに各消防隊の來援するにあり、其他私設消防隊も驅付け、南西北の三面より數十條のホーズを擬して防火に努力し、辛くも神戸新聞社裏手の火勢を喰い止め得るに及んで木造家屋の多くは燒失倒壞して火勢漸く頓挫し、北東方面は僅小の空地數個の土藏等の防禦物と防火隊の奮闘とによりして午後十一時過鎭火せしむることを得たり。

されど矮少民家の櫛比せる場所に於て、通路の挾隘此上なくして如何に消火作業の困難なりしか想像するに難からず。殊に火勢風力を誘致して火鋒東北に延びたる際に於ける隣接民家の危險は此上なく、萬一風力增大し一度東北部の矮少民家を一舐にせんか元町通の繁街は混亂其極に達し到底大事たらざるを得ざりしなるべし幸にして事茲に到らずして鎭火せしめ得たるは一に消防隊の努力に依りたるものと信じて可なるべし。

東南部に在りては又新日報裏の煉瓦造家屋及土藏造の一棟はよく其耐火性を發揮して火勢を遮斷して何等の危險を感せしめず、神戸新聞社亦裏附屬土藏造一棟並びに信托會社裏に在りたる木造モルタル塗家屋等の准耐火性建築の特質によりて火勢を挫き得たる如きは特に注意させるべかざる點なるべし。

西部に在りては民家裏の矮少なる空地並びに境界線をなせる木骨眞壁塗の高壁とは比較的効果を示し得たるが如く消防隊の屋上に活動せる結果と相俟つて類燒を免れ得たるが如し。

尙ほ附近民家一帶屋上悉く瓦葺なりしは猛烈なる火粉の降下もよく其難を免れ得たる一因とすべし。

△損害の程度と重要地區

全燒八戸、半燒七戸の內製茶檢査所所屬の土藏一棟あり、信托會社裏家屋の木骨モルタル塗

二階建なるの外、他は悉く木造家屋にして火の手を運ぶこと早く且つ焼失時間亦僅少なりしを知るべし、私設道路内の民家が尚類焼を免れ得るは主として消防隊の努力に依るを見る。

從つて全体の損害は比較的僅少にして拾七萬圓を越へざるべしとの由なり、されど若し此附近一廓が猛火の狂亂に委せられしとせんか其損害の及ぶ所蓋し甚大なるものありしなるべし。現に此回火災地區は神戸市内に於ては殊に重要なる繁街の一角なり、而して現在家屋の矮少脆弱にして細民部落の趣ありて何等見るべき構造物なきは如何にも不可審議に堪へず、神戸市にとりては市街整理上特に注意すべき事項の一なるべし。

△結　論

以上を要するに此回の火災は其原因不慮の爆發に歸因せしも幸にして大事に至らずして消防効を奏し重要地區の火災として其損害も甚大ならざりしは、せめてもの仕合なりき、殊に強風の暴威を振ふなく重要家屋の焼失せるなく何等特に調査報告すべき材料なしと雖も、都市の火災の一例として之を觀るときは必ずしも輕々に視るべからざるものあり。

市内の重要なるべき地區が斯くの如き可燃性矮少家屋の櫛比せるのみならず、公道私道共に狹隘にして不時の際の混亂を如何ともする能はざる如きは特に識者の一考を煩はすべき事項の一なるべし。從來神戸市は見るべき大火の災害なく其頻々たる火災が常に大事に至らずして止むは主として消防隊の努力と消火栓水壓の比較的強力なるに依るべしと雖、又地勢上風位風力の暴威之れに加はらざるに歸因すべし、若し一度大阪北區大火の如き烈風の襲來に際して失火の憂あらんか、其結果頗る恐るべきものあり。

今や神戸市は急激なる經濟上の發展に際し、各種建築物は漸次改築の機運到來して榮町通の如き舊居留地の如き盛んに新築改築中の家屋軒を並べつゝあり、加ふるに都市問題の高唱せらるゝに際し、都市法規の改正勵行の急要と街區

並びに交通系統の整理とは既に識者の一日も忽にすべからざるを感しつゝある也、此機に際して益着實なる計畫を確立して現行建築取締規則の如きは之を改正して時代の趨勢に順應せしめんこと希望に堪へず。

當局者は今回の爆發に鑑み危險物品の取締規則を勵行實施せんとする在り、各種工場倉庫等の整理調査も亦注目されんとし、阪神間國道の改築問題の如き、築港の完成に對する諸般の問題の如き亦考慮せられつゝあるは既に〳〵都市問題の眞諦に觸れつゝある也、されば今回の一小火災も亦都市問題に對して好箇の材料を齎らせるものと觀るを得べし。特に簡單なる報告を掲げし以所に外ならず。

（完）

▽鎌倉の火△

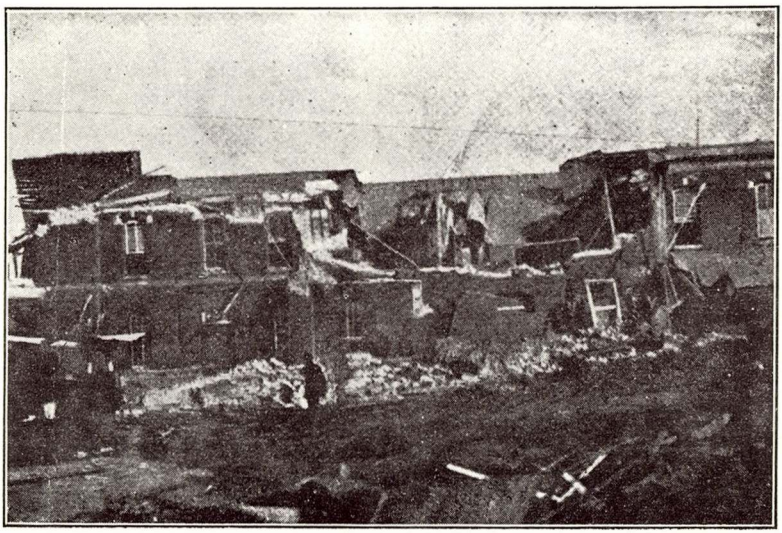
建保七年八月二十二日申の刻に、阿野四郎が濱の家の北邊より火燃え出で、折節南風烈しく吹き車輪の如くなる焔飛びて、永福寺の楯門の下より、海面の御倉の前を、東は名越山の際に到り、西は若宮大路を限りて、戌の刻に及ぶまで三時ばかりの間に、作り並べ大廈の構、諸大名の家々悉く焼亡す。地下町人の家々は、資財を取退け、雑具を運び、稚きを抱き、老いたるを助けんとする程に、吹き迷ふ火の子は、吹雪にまじる雪よりも滋く、煙渦巻き焼めぐれば、或は人に踏倒され或は共身に猛火燃付き、臥轉びて死する有様、啼叫ぶ聲に和して焦熱叫喚の地獄といふとも、これには勝らじとぞおぼへける。右大將軍家鎌倉草創よりこのかた、かゝる例ばいまだなし。焦れ死たる屍共は小路〳〵に盈ち滿り、算を亂せし如くなり。されども故右大臣の蹟、二品禪尼の住宅の若君の御舘計は、僅に餘燼を遁れたまふ。

（鎌倉北條九代記）

中米グワテマラ市の大地震（其一）



罹災前の中央停車場



震災後の中央停車場

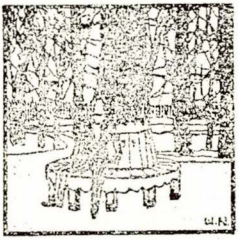
中米グワテマラ市の大地震　（其二）



罹災前のグワテマラ市寺院



罹災後の同寺院内部



時報

◈米國に於けるプレーグラウンドの狀況

（大阪市の調査による）

第一　プレーグラウンドと都市

米國に於ては今や如何なる小都市に於てもプレーグラウンド並に体育館幾つかを有せざるものなし今左にプレーグラウンドの概況を示さんに。

紐育（人口五百萬）
大小四十有餘

シカゴ（人口二百二十餘萬）
大プレーグラウンド十三ケ所
小プレーグラウンド五六十ケ所

フイラデルフイヤ（人口百七十有餘萬）
大小十七八ケ所

バルチモーア（人口五十萬餘）
大小六ケ所　幼年プレーグラウンド
十二ケ所
無料浴場三ケ所あり。

ワシントン（人口三十五萬餘）
大小十二ケ所

ピツツバーク（人口五十萬餘）
大小十五ケ所

ピックフイルド（人口一萬二三千）
夏季三ケ月間六ケ所のプレーグラウンドを開場す

ボストン（人口六十餘萬）
大なるもの五六ケ所あり

スプリングフイールド（人口約十二萬）
大小十ケ所

ロスアンゼルス（人口四十萬）
大小十二ケ所

桑港（人口五十萬）
大小十三ケ所

サマビール（人口十萬）
七ケ所

千九百十年の國勢調査に依れば米國には一萬以上都市百六十六あり千九百十七年には米國内三百五十四の都市はプレーグラウンドに關する委員會を有す、之れを以て見れば小都市にてもプレーグラウンドを有することを知るを得べし。

第二　プレーグラウンドの設備

都市に於けるプレーグラウンド設備の方針は一哩平方に一ケ所を設くべきものとし又或州に於ては市の土地の一割の廣さを之に當つべき標決議せる都市あり。

（イ）プレーグラウンドの大さ

プレーグラウンドの大さは一エーカー半位より十エーカー内外のもの多しシカゴ、ボストン、紐育等に於ける大プレーグラウンドは幾百エーカーなるやを知らず實に其廣大なるに驚く。

（ロ）遊戲場の設備

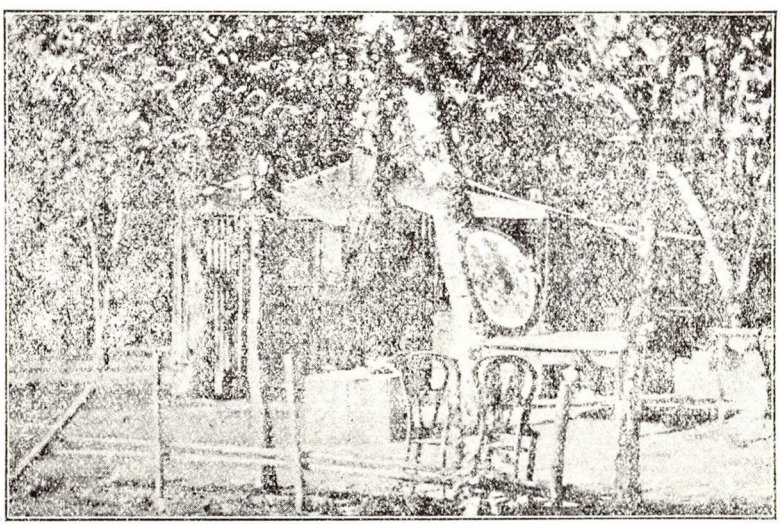
ロンテニス、バスケットボール、フットボール、バレーボール、ゴルフ、ローラ、ハンドボール、ランニングトラック、幅跳、高跳、鞦韆、滑臺、梯子吊環、吊繩、シーソー、水遊場、鐵棒。

備考　室外の水泳場と体育館とは多くのプレーグラウンドに併置せり。

第三　指導監督者

設備の完備せるプレーグラウンドには必ず体育館あり其所には指導者の住宅等の設備ありて指導監督す小プレーグラウンドには常時に指導者を置かず巡回指導監督者を置き又女子に對し

グワテマラ市の震災　（其一）



震災後英國公使館の仮小舍

ては女子指導者を有するものあり。

第四　プレーグラウンドの創設と經常費

プレーグラウンドの土地購求に當りては紐育シカゴを始め其他の都市に於ては市公債を募集し其償還は市收入より毎年其幾分づゝを支拂へり体育館水遊場使用には五仙又は十仙を徵收し屋外プレーグラウンド使用には料金を徵收せる所なし紐育は二百萬弗シカゴは四百萬弗の市會費を募集せりプレーグラウンドの經常費年額は左の如し。

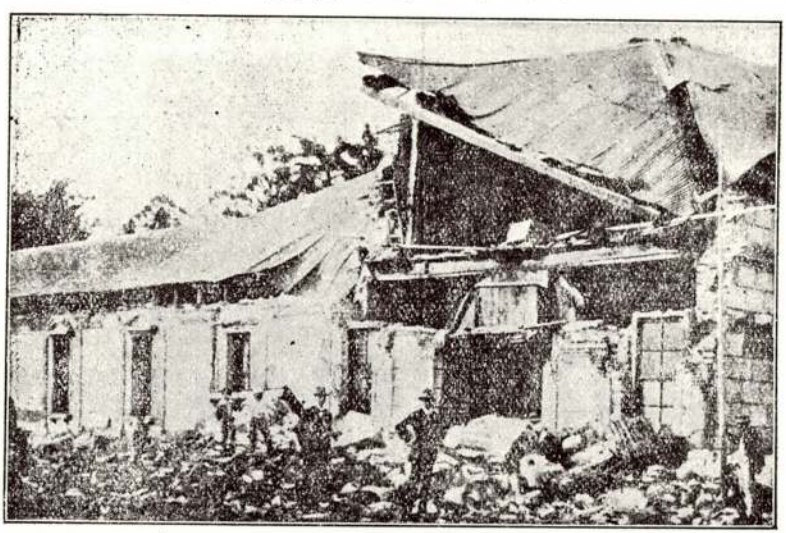
シカゴは六十萬弗　　ワシントンは四萬弗
桑港十二萬弗　　ロスアンゼル八萬五千弗
ピツクヒイールドは三ヶ月に二千弗

此他紐育、ボストンの如き何れも數十萬弗を費せり然して以上經費は何れも市公費なり。

第五　プレーグラウンドの創設と其經營

其初期に於ては多くは個人の慈善的經營にして其緒に就きたる後市の經營に移せるものなり然し現今に於ては何れの都市に於ても其必要を認め居れるを以て新設は皆市の經營なり故に始めは特志家の寄附より成り數人の委員を擧げて經營し後に市事業に移すことゝせりされば米國に於ては多くの都市にはプレーグラウンド局ありて局長局員を任命し專心之が經營並に指導監督をなせり。

グワテラ市の震災（其二）



（グワテマラ英國公使館の倒壞）

第六　プレーグラウンドの利用狀況

体育館と種々の社交用に利用せると同時にプレーグラウンドを少青年の社會教育に利用せることは一般の傾向にして最近マサチューセッツ州のプレーグラウンドに於ては稍々補習教育的意味に利用せり即ち印刷術や或種の器械使用法を教へ女子には休息時に編物等を教へ居れり。

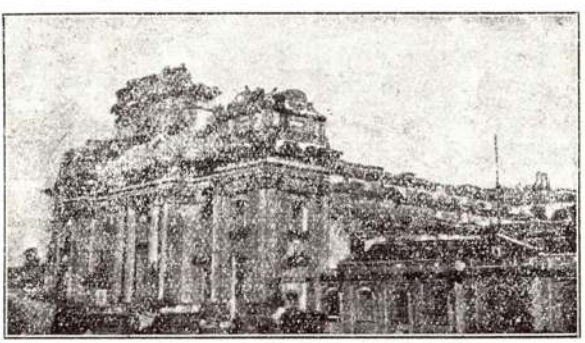
第七　プレークラウンドの現今及將來の趨勢

プレーグラウンドの現在は兎に角運動を中心としての教育たるにあり米國に於ては社會にプレーグラウンドの必要なることは教會や圖書館の社會に必要なると同樣なりと認められ今や全國に亘りプレーグラウンド設置運動盛に起り或州に於ては人口何萬以上の都市に於ては何ヶ所を設置すべしと云ふ法律さへ發布せる所ありされば今や米國に於けるプレークラウンド新設の狀況は實に盛んなるものなりプレーグラウンドの事業としては講演會、音樂會、幻燈會、体操會、舞踏會、水泳競技會等を開催せり又研究大會雜誌發刊等の事業もなせりされば前項にも記したる如く何れの都市もプレーグラウンド局を市に置き組織的秩序的に之れが發展を圖り居れり實にプレーグラウンドの事業は將來少青年社會教育上重要なる地位を占むるに至ること蓋し遠にあらざるべし。

◆グアテマラ市の大地震

中米グアテマラ國では、昨年十一月十七日から數週間恐るべき激震に襲はれた。最も烈しかつたのが十二月の二十五日と二十七日、今年になつて正月の三日と二十四日とである。

グワテマラ市の震災（其三）

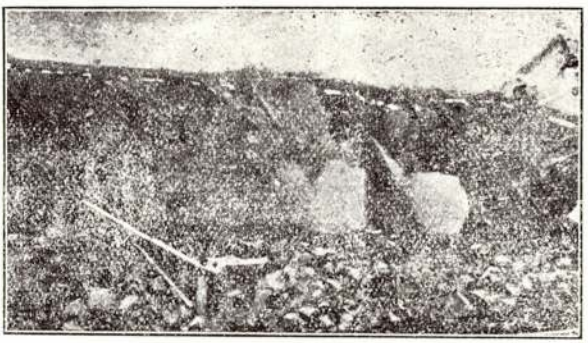


（震災後の寺院全壞狀況）

首都グアテマラ市に在つては、全市殆んど全滅の悲運に遭遇し、多くの都會や公共建築は破壞されて、數千の市民は住む

き家を失つた、いち早く避難した市民の外は死傷數知れず避難民の大半は流浪離散してしまつたが殘つてゐるものは詮方なくなく天幕生活を始めるに至つた。各國の公使館並びに領事館は全部此災厄を免れ得なかつた。そこで各國公使團並びに領事團は各館員や各家族と頗る困厄の裡に陷つてしまつたが、甲斐々々しくも、小屋を造り天幕を張り、古ぼけた波板を掩ふて其任務を遂行しつゝあるといふことである。

グワテマラ市の震災（其四）



（英國領事館の慘狀）

◆大阪市改正の範圍

大阪市區改正は無論凡て內務省の都市計畫調査會にて根本の大方針定まり大阪市區改良委員會に移牒され夫れより具体的案となるべきが內務省調査會の意向は本式のものたらしむべく斷して姑息申譯的なる仕事にてお茶濁する許さゞるものゝ如く府の內務部長市の助役市區改正部長等の間に昨今交換されつゝある意見も淀屋橋中心五哩の周圍範圍にては猶內務省計畫の方針に比し當分的の嫌ひあるものなりとて更に一層大々的のものたらしめんとする模樣なり。

即ち五哩周圍の計畫にても西は神崎川とし大阪府と兵庫縣との境界迄とせるに尼ヶ崎市をも無論接續町村と見て市區改正を施行すべく內務省にては改正條例の施行は府縣の境界を超ゆるも聊かも牴觸を感ぜざるものなりと爲しつゝあるは斯かる場合に適用せん爲めであると稱する位にて同じく南方を大和川までと豫定せんとするものに就いても大和川は愚か堺市をも超えて更に其の南方まで及ぼすべしとするもの相當に勢力を加へ來れり。

斯の如く大々的のものに進めんとするのは要するに今日の趨勢より推して大阪市が一千萬以上の人口を有する一大都會たるべきこと國運の上より豫想するに難からずと多數の學者より論定せられたるに因るものにして此の事は大阪市のみにあらず東京市も同樣にて今日に於いて根底ある計畫の上に改正事業を行はず他日に及んで到底廻らすべからざるところの不利を招くと

いふ點に因るものなり。

茲に於て當然財源を如何にするかの問題に歸着するが政府に於ても徒らに因習に囚はれず或は種々なる計畫を試むべしといふが大阪市當局者中には往年東京市區改正の財源として酒類の入市稅を容認せしに思ひ着きて更に一歩を進め大阪市をして大阪市に消費さるゝ酒類の專賣を爲さしむることなども當然持出すべきものなりとしてゐる樣なり。

△大阪府の總人口

府官房統計係の最近調査による大正六年末現在の大阪府下總人口は左記の如くにして五年末現在に比し戸數一萬七千三百十八戸人口九萬二千九百五十一人を增し此內大阪市は一萬二百五十九戸、四萬九千二百十七人の增加を示せるが然も本籍人口に於ては一萬九千八百三人を增せるに過ぎざれば二萬七千四百十七人は新に入寄留をなしたる者及寄留者の自然增加によるものなり、更に堺市及郡部に就て見れば七千五十九戸四萬三千七百三十四人を增せるが此內本籍人口の增加は一萬七千四百十人にして二萬六千三百二十四人は入寄留者及寄留者の自然增加によるもの其大部分は西成東成郡等の接續町村に人口の集注せるが爲に外ならず。

	本籍人口	現在人口	現在戸數
大阪市西區	二一〇四、四〇五	四二〇、四〇一	七八、九三〇
同　南區	二六四、三七九	四七七、九九三	三五、一五六
同　東區	一四三、四四一	三〇三、〇九二	五六、六九〇
同　北區	一七四、三一〇	三五四、八九一	六七、三三一
合　計	七八五、五三五	一、五五六、三七七	三八、〇八
堺　市	五七、九三一	七二、八四四	一三、八三三
西成郡	一二七、一四七	二〇六、〇四四	四一、九三二
東成郡	一一九、五六八	一七三、九一八	三七、九四二
三島郡	八四、一〇一	八一、三四四	一四、九七七
豐能郡	五八、六六八	五九、二六七	一〇、五三三
泉北郡	一三三、七一八	一三四、二四七	二一、三三七
泉南郡	一四六、〇六六	一四二、七三五	三二、一四〇
南河內郡	一三〇、八四八	一三一、三四九	一九、〇六七
中河內郡	一三五、三六七	一三五、九一六	一九、四三〇
北河內郡	九二、六七三	九〇、〇六九	一五、九四九
總　計	一、八五一、六二三	二、七五四、〇九〇	五四五、三二九

△大阪市內空氣試驗

市立大阪衞生試驗所に於て昨年來市內の空氣試驗をなし居れるが今市內の水面上の空氣中に於ける炭酸瓦斯含有量調査の結果を聞くに市內に於ては信濃橋附近最も惡しく空氣一立方センチメートル中に一萬分の十四を含有し歐米各都市に於ける炭酸瓦斯の含有量に比すれば約三倍半に上り居れるなど驚く許りの量を示し居れり今其の主なるものを記せば。

信濃橋	一四、〇	末吉橋	一二、五
大黑橋	一〇、一	尻無川口	九、九
船津橋	九、五	今　橋	九、四
四ツ橋	九、一	上落合	八、七
松ケ鼻	八、六		

淀川	八、六	櫻橋	大正橋	七、四
大阪灣	六、〇	開昇橋	五、四	（一萬分率）

にして水面上の空氣に斯くも炭酸瓦斯を含有せるは大阪市内の河川の流量が僅に二千五百萬石位なるに之に對する下水の混入量が其二十五分の一乃至三十分の一と云ふが如き多量に及び居れるが爲め殆んど下水同樣の汚れ方と成り居れるに加へて流れ方も非常に緩漫にて水の自淨作用の加はらざるに起因するものなり而して此河水を最も不潔にするは動物性材料及植物性材料を取り扱ふ場所より出づる下水々にして市内に於ける動物性材料を取扱ひつゝある場所より。流れ出づる下水の中最も甚しきものは一立方センチメートル（二十滴）の水中に七億六千四百十萬の腐敗菌を有し又青物を取り扱ふ地方より流れ出づる下水も二十滴の水中に六億三千四百四十萬の腐敗菌を有し居れり即ち之等の下水注入の爲に益々河水を汚濁し延いては空氣をも汚すに至れるものなれば市中の空氣が煤煙の爲より以上に此河水の汚濁に依りて炭酸瓦斯の發生を見つゝある事は大に世人の注意を要する事にして市内に於けるチブスの如き明治四十三年よりも現在に於て三倍に增加し居れるもかゝる下水同樣の河水の停滯に因ること多からんと。

△阪神國道擴築計畫

阪神國道擴築計畫は東京横濱間國道が明年度政府豫算にて二百五十萬圓にて實施するに内定ありたるに依り、東京神奈川兩府縣は協議を遂げ之に要する地方費支出に付既に相當の財源を見出し來る通常府縣會に提案の準備成りしが政府は之を同時に既定の計畫に基き大阪神戸間擴算三百九十五萬圓を計上し、今回更に後廻しとなり居たる神戸須磨間を加へて經費百八萬圓を計上せる由なり全道は政府に於て最初後廻しとなす方針なりしより清野知事は全經費を地方有志者の寄附金にて決せんと計り内々調査中なりしが結局は阪神間共併せて地方費の負擔中に有力者の寄附を募る機を作りて、内田信也氏より三十萬圓其他岡崎藤吉氏外十數人より應分の寄附を受くる縣の方針となり目下協議中なるが十二月通常縣會には成案の上本案提出さるべく工事着手は明年五月なりと。

△尼崎市上水道

四十萬六千圓を以て計畫中なりし尼崎上水道は最早殆んど完成に近づきたるか愈々來月四五日頃迄に、試みに通水を始め其成蹟により先づ十日間計り投水し管内の掃除を遂げたる上其飲用の適否を檢査それより一般に給水の筈なれば遲くも八月下旬には上水道の使用を見るに至るべし（七月廿九日）

△堺市鑿泉問題協定

堺上水擴張に伴ふ鑿泉の前提として試掘をなすや否やにつき市參事會と水道擴張委員と意見を異にするより、二十五日夜双方會見協議する所ありたるが結局市參事會は委員の調査を是認し隨つて之に要する豫算も是認することゝなりたるも下試掘の

試掘に就いては之を爲すと否とは理事者に一任するに決し圓滿に解決を告げたり、依つて近日市會に委員調査の結果を報告し引續き豫算を議定する筈なるが、市參事會と調査委會が既に原案を決定する以上は、市會に於ても反對者なかるべし、直に原案を可決し着々鑿泉事業を進行することゝなるべし、而して、理事者側に試掘について未だ何れとも定定し居らざれども鑿泉請負業者に於て湧出水量なき場合は工費の要求をなさずとの條件を附し居れば姑息の試掘をなさず直ちに本工事を實行する豫定なりと。（七月二十七日）

◆保健調査會の調査方針

內務省保健衞生調査會本年度豫定事業は。曩に招集したる同會總會に於いて大体方針を決定したるにつき、愈々近く調査を開始することゝなり、先般來之が調査の部屬及び主査委員等につき詮衡中なりしが此程左の如く決定したり。

第一部　初生兒學童及び乳兒の保健調査其他四件
　△主査、三宅博士、委員十四名
第二部　結核豫防法外一件
　△主査、北島博士、委員六名
第三部　花柳病其他三件
　△主査、山根正次
第四部　癩病豫防法其他四件
　△主査、山根正次　委員三名
第五部　精神病其他三件
　△主査、柳澤伯　委員四名
第六部　市場制度其他三件
　△主査、高木男　委員十三名
第七部　農村及都市衞生調査其他二件
　△主査、未定　委員十三名
第八部　本邦及各國の統計二件
　△主査、柳澤伯　委員四名
（七月廿五日）

△精神病監護法改正要旨

今回保健調査會に於て可決したる精神病者監護法改正要旨左の如し。

一、內務大臣の指定により道府縣立精神病院を設置するの規定を設くる事。
代用精神病院は之を認むる事。
一、道府縣立精神病院に入院すべき精神病者の資格を左の如く定むる事。
（イ）療養の途なき者
（ロ）監護義務者に於て其義務を履行する事能はざるもの
（ハ）監護義務者より入院を出願し地方長官に於いて必要と認めたる者。
一、必要と認むる精神病者の强制入院を爲し得べき規定を設くる事
一、道府縣立精神病院の經費に對する國庫補助の規定を設く

る事

一、監護上必要と認めたるもの其他内務大臣に於いて特に入院の必要ありと認めたるものを收容する爲め國立精神病院を設置するの規定を設くる事。

△保二調査開始

内務省にては保健調査會の決議に基き八月上旬より關東各縣に於ける實地調査を開始することゝなり既に武藤技師を主任として委員數名を任命せしが、差當り埼玉、茨城、千葉、群馬につき大体左の範圍に於て行ふべしと。

一、住民の体格に關する調査
一、住民の疾病に關する調査
一、既往十箇年に於ける住民の死亡原因に關する調査
一、平産及死産に關する調査
一、乳兒の哺育狀況に關する調査
一、住民の生活狀況に關する調査
一、家屋の構造及衣食住に關する調査
一、調査地域に於ける小兒哺育上幼稚園兒育兒院孤兒院の狀況及其收容程度の大綱に關する調査（七月廿七日）

× × × × × × × × ×

編輯だより

■殘暑極烈之候、斯界益多事之際、諸彦愈御清福奉賀候。

■大阪市港灣部長直木倫太郎氏の『醒めたる聲』は更に斯界のために興へられたる一大警言に有之べく、特に許容を得て引續き掲載仕候。

■會員香櫨書生氏寄稿にかゝる『建築と趣味』は都合により次號に割愛仕り候。

■『女流の住宅觀』は本會が特に斯界のために名流貴婦人の趣味ある感想を紹介せんと欲する微意を實現せるものに有之候。

■本誌へ御寄稿御希望の方へは、御申越次第原稿用紙發送仕るべく候。

■本會へ入會御希望の諸彦は本會々則御一讀の上御申込被成下候はゞ入會希望書早速發送仕るべく候。

■本誌購讀御希望の諸彦は本會事務所宛御申越相成度又購讀料金御發送相成被下候節は振替口座（大阪三九九七五番）宛御拂込相成度此段申添候。

會報



會誌

一、本會雜誌第一輯第九號は六月下旬之を刊行し各府縣知名有力者、各學會、協會及各新聞社、及建築に關係ある各學校に寄贈配布したり。

一、本誌前號は特に內務省衛生局の注目を惹き、數十册の追送を要求されたるは、本會の衷心愉快に堪へざる所にして、本誌が漸を追ふて識者の歡迎を贏ち得づゝある所以なりとす。

交換雜誌

建築雜誌	（建築學會）
建築世界	（建築世界社）
住宅	（住宅改良會）
鐵道協會雜誌	（鐵道協會）
工業之友	（工手學校）

寄贈圖書雜誌及新聞紙

內外土木建築時報	內外土木建築時報社
通俗衛生	大阪府衛生會
木材新聞	木材新聞社
川崎畫報	川崎工場出版部
ペイント商報	日本ペイント製造株式會社大阪支店

會合

理事會兼各部委員長會

日時　大正七年七月四日午後六時ー十時

會場　大阪倶樂部

出席　片岡、野村、松本、葛野、池田、波江。

記事

一、各部委員會を定日にするの件は理事會に一任されたる結果、之を曜日に割當のことゝなれり。

一、第六部委員會をして秋季大會の準備に着手せしむること。並びに十一月の候に於て大阪市公會堂を利用すること。

第十四回例會

日時　大正七年七月十七日午後六時ー十時

會場　中央電氣倶樂部

出席者　計二十八名

熊澤、谷本、淺井、野呂、谷口、松本、河合（清）、小笠原、野村、森、池田（寛）、葛野、吉井、宮嗣、中村（新）、井上（準）、森山、木村（梅）、瀨戸、柳下、光安　三木、內藤（太）

小林(悉)、吉木、波江、池村、田中(勤)

記事

一、池田氏座長となり、主記諸般事項の報告をなさしめ、次いで評衡會に入らんとしたるも定數を缺きたるため之を次回に延期し、本夜は臨時談話會として各員の隨意意見の發表を促し、左の主題を提出せり。

(イ)、明治神宮外苑に建設すべき記念建造物懸賞設計に就いて。

(ロ)、都市計畫調査委員氏名の發表に就いて。

一、(イ)に關しては波江氏特に蒐め得たる材料によりて意見を發表する所ありたり。

一、(ロ)に關しては野村氏、池田氏、葛野氏等交々意見を發表し、調査會設置に關して我建築協會と行動を伴にしたる建築學會、建築士會の代表者の顏觸なきは甚だ其意を得ざる處なりとの意見の一致を見たり。殊に今回の都市計畫調査の要項中主要なる建築法規、街路系統、に關しては多數建築家の有力者を集むる必要を感ず此際此点に就いて當局者の反省を促すの決議をなし何等かの方法を執るべき事を切言せり、されども人選に關する事情は一應調査するの必要を認め、之を理事會に一任したり。

一、更らに大阪市改良計畫案と現在大阪市の狀況につき波江、野村、葛野池田の諸氏意見を發表し大阪市の現況は河川整理問題を高唱するの必要ありとなし、市街系統の改良と共に根本的に何等かの劃策を立つるの急要を切言し、河川の整理築港の完備並びに交通系統の統一は大阪市の三重要問題にして大阪市が他市と特に異なる性質なりとの斷定に一致を見たり。

新入會員

一、左記の諸氏は今回會員たらん事を申込まれたるにも理事會の決議により特別賛助員として入會を承諾せり

中村　鎭　　村野　藤吉
福岡　五一　　山口　茂樹
田中豐太郎　　高橋　榮治
田中　綱　　山田　醇
山本　文輔　(以上九名)

一、左記の諸氏は今回普通賛助員たらん事を申込まれたるにつき理事會の決議により入會を承諾せり

若山　眞一　　秋宗　貞知
吉田　兵藏　　松本　與作
(以上四名)

理事會兼各部委員長會

日時　大正七年七月廿六日午後六時—十時
會場　大阪倶樂部
出席　日高、片岡、波江、池田、宗

記事

一、都市計畫調査委員會の權限並びに調査方針に關する事項につき意見の交換をなせり。

一、建築法規の大綱に關する事項は之を第一部委員會に諮り更らに研究を進めしむる件につき意見を交換せり

一、都市計畫實施に關する講究は、各都市に於ける特種の事情を忽にすべからざるの件につき意見を交換せり

一、會誌編輯に關する諸事項は漸を追ふて改善の實を擧ぐることに一致せり。

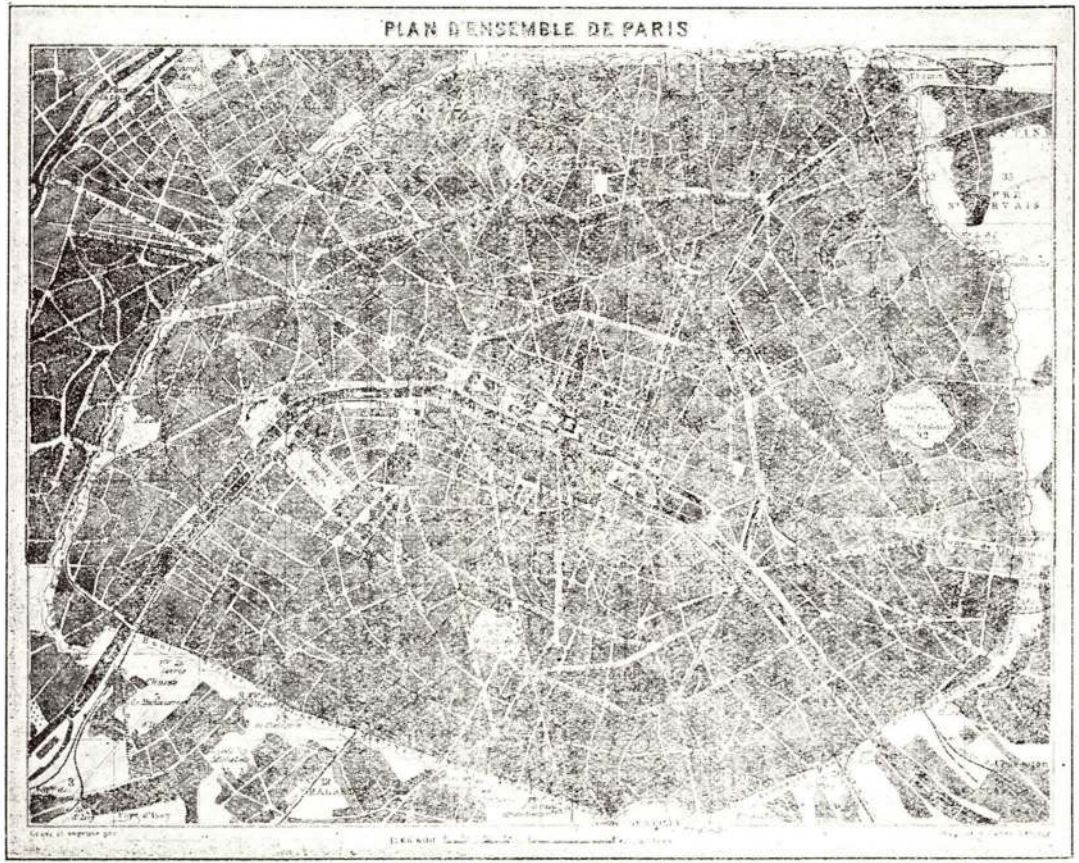
一、八月例會は之を納涼親睦會とし、會場を堺大濱に選定し、終身賛助員の出席をも乞ふことに決定せり。

廣告目次

イ、井上水道工務所　(前)二
ハ、原安商會　一九
ニ、日本石綿盤株式會社　一七
ヘ、米國貿易會社　一三
ト、東松工作所　二〇
オ、大阪窯業株式會社　一六
大阪媛房商會　(前)一
大野式特許品營業所　一二
タ、高田商會　二四　裏表紙裏
ナ、土木建築内外材料合資會社　裏表紙
ム、村井工業所　三
ノ、野澤幸三郎　二
マ、松尾和助商店　二二
ケ、建築事務所案内　四
建築請負業者案内　六
コ、コルク工業合資會社　二六
エ、榮進社　二三
ア、秋山小林商店　裏表紙表
淺野スレート株式會社　一四
メ、明正社　一五
ミ、みよし組大阪支店　一八
モ、木材商案内　一〇
セ、石材商案内　一一
ス、須賀商會　二一
巢鴨製作所　二五

巴里市建築條例

巴里市街全圖





巴里市建築條例

巴里市建築物高及突出之規定ニ關スル條例佛國共和國大統領ハ
千八百五十二年三月二十六日付巴里市街ニ關スル條例
千八百八十二年七月廿二日付巴里市内ニ於テ許可スル突出ノ規定ニ關スル條例
千八百八十四年七月廿三日付巴里市内家屋家根及屋上窓ノ高ノ規定ニ關スル條例
千九百年八月一日付一般建築物調査會ノ意見
千九百一年七月十二日付巴里市々會ノ決議
千九百年一月十八日付セーヌ縣知事ノ報告
千九百二年三月二十四日付警視總監ノ報告

ヲ調査シ國務會議ヲ經タル上參事院議長並ニ内務及式典部長官ノ以聞スルトコロニヨリ本條例ヲ發布ス

第一條 巴里市内ニ於テ公道ニ面スル建築物ノ超過スベカラザル制限ハ左ノ二項ニ依リテ之ヲ定ム

第一 二個ノ外劃線ニ據ル

其一ハ構造物其物ニ對シ定ムルモノ其二ハ建築物ノ大体構造ニ付着シ街規線上ヨリ突出スル物体ニ對シ定ムルモノトス

第二 構造ノ一部分ヲ爲サヽルモ之レニ付着シ街規線上ニ突出スル物体ニ對シテハ本條例第二編第三章及第四章ニ掲ケル特別規定ニ據ル

第一章 公道ニ面スル建築物

第二條 構造其物ニ就テノ外劃線ハ街規線上ニ立テタル垂直線ニ據リ之レヲ定ム

此線ノ高サノ寸法ハ其前面ノ中眞ニ於テ其歩道ノ水準又ハ其前面ニ於ケル舗石ノ上端ヨリ測ルモノトシ左ノ如ク計算セラル

巾十二米突以下ノ道路ニ於テハ此高サハ其道路ノ規定巾ニ六米突ヲ加ヘタルモノヨリ超過スベカラズ

巾十二米突及夫レ以上ノ道路ニ於テハ此高サ八十八米突ニ其道巾ガ十二米突ヲ超過スル部分ノ四分ノ一ヲ加ヘタル

第一章 建物ノ高サ

モノヨリ超過スベカラズ

但シ如何ナル場合ト雖モ此高サハ其接續點於テニ十米突ヲ超過スル事ヲ不得

高ノ寸法ヲ算定スルニ道巾ノ一米突ニ達セザル端數ハ總テ一米突トシテ計算スベシ道路ガ傾斜スル場合ニハ之レニ沿フ建物ノ前面ハ三十米突ヲ超過セザル區劃ニ分割シ其高サハ各區分ノ中央ニ於テ測ルモノトス

若シ建築者ガ分割セル數個ノ建物ヲ設クル場合ニハ其高サハ前揭ノ規定ニヨリ其建物個々ノ中央ニ於テ各別々ニ測ルモノトス

第三條 前條ニ揭ゲル外劃線ハ其最高點ニ於テ垂直線ニ切觸スル圓ノ弧及ビ此弧線ニ切觸スル直線ニ依テ完結ス

圓ノ半徑ハ最大限ニ於テ道路ノ有效巾ノ二分ノ一トシ且ツ十米突以下ノ道路ニ於テハ六米突ニ達スル事ヲ得

圓ノ弧ニ切觸スル直線ハ四十五度ノ傾斜ヲ以テ地階ニ於テ測リタル建物ノ奥行ノ中心ニ於テ立ツル垂直線ト交叉スル點迄引長ス

但シ建築者ノ希望ニ依テハ此直線ヲ前項同樣ノ條件ノ下ニ引ケル他ノ弧ノ正切又ハ第十條ニ揭ゲル垂直線ノ最高點ヨリ引ケル正切線迄引長スル事ヲ得、此第二ノ正切線ノ傾斜ハ四十五度タルベシ

第六條ニ制限ヲ設ケタル煙突ノ頭部ヲ除クノ外如何ナル場合ト雖モ二個ノ不動産ノ中間ニアル仕切壁ノ頂上ハ其弧線ノ圓ノ上部ニ切觸シテ引ク水平線ヨリ上一米突ヲ超ユル事ヲ不得

第四條 街路ノ交叉スル箇所ニ於テハ外劃線ハ其對面ニアル建物ニ向テ直角ニ測リ其間ニ存スル空間ヲ以テ第二條ニ揭ゲタル道巾ト見做シ之ヲ決定ス

高サノ增率ハ其正面ノ內部ガ規定ノ道巾ニ超過スル部分ニノミ對シ之ヲ許可ス

但シ道巾等シカラザル公道ノ角ニ在ル建物ニ於テハ其道路ニ面シテ其巾道路巾ノ一倍半ニ達スル迄ノ間ハ廣キ道路ニ於テ定メラレタルト同樣ニ建ツル事ヲ得

若シ其道巾ガ同一ニシテ異リタル傾斜ノ間ニ在ル時ハ其外劃線ヲ定ムル寸法ハ各前面ノ中央ニ於テ測リタル寸法ノ平均トス

以上ノ寸法測定ニ付街規線ニ準シ落サレタル角ノ隅切ノ部分ハ算入セザルモノトス

第五條 二個ノ巾不同ナルカ又ハ水準ノ異リタル道路ノ間ニ挾ル建物ニ就テハ其表裏各面ノ外劃線ハ其立ツ處ノ道路ノ巾及水準ニヨリテ定ムル外劃線ヨリ超過スル事ヲ得ズ

但シ表裏二面ノ最大距離カ十五米突ヲ超過セザル時ハ其巾狹ク且ツ低キ道路ニ面スル一方ニ於テモ他ノ巾廣ク且ツ高キ道路ニ於テ定メラレタル高サニ建ツル事ヲ得

第六條 煙突ノ頂部ハ外劃線ノ最ト部ヨリ一米突以上突出スル事ヲ得ズ而シテ其腰積ノ垂直面ハ街規線ノ後部一米突以內ニ出ツル事ヲ得ス

第七條 街規線ヨリ後部ニ退却スルカ又ハ前部ニ凸出シテ建ラレタル建物ノ部分ニ就テハ第二條ニ揭ゲル外劃線ハ反對ノ側ニアル街規線ト其建物ノ最モ突

出セル部分トノ間ニ存スル距離ト等シキ道巾ニ準ジ決定ス

此道巾決定ニ付テハ一米突以下ノ端數ハ一米突ト算ス

地階又ハ上部ノ床ヲ不論街規線ヨリ後部ニ退却シ建ツル建物又ハ建物ノ一部分ハ其反對ノ側ノ街規線ト如斯後部ニアル新規ノ前面トノ間ニアル距離ニ等シキ道巾ニ付テ許可サレタル外劃線ノ範圍ニ於テ建築スル事ヲ得然レトモ街規線上ニ少クモ高一米突ヲ有シ且ツ堅固ニ固着セル外構ヲ設クベキ者トス

第八條 許可サレタル高迄達セサル建物ヲ建設スル者ハ其一部分ニ於テ第二條第三條ニ規定サレタル外劃線ヲ超ヘサル範圍ニ於テ隨意ノ高サニ建築スル事ヲ得

第二章 內庭及中坪ニ面スル建物

第九條 晝夜住居ニ充ツル室ニ空氣及光線ヲ導ク內庭ハ少ナクモ面積三十平方米突ヲ有スルモノタルベシ住室ト雖單ニ厨房ニノミ明リヲ取ル內庭ハ最少面積ヲ十五平方米突迄減スル事ヲ得

中坪ト稱ヘラルヽ內庭ニシテ住室ニ充ツル事ヲ得サル室ニノミ空氣光線ヲ取ル處ハ少クトモ八平方米突ノ面積ヲ有スベシ

第十條 晝夜住室ニ充ツル各窓ノ中心ニ於テ測ル直視距離ハ左記ノ數字ヨリ少カラザルベシ

內庭ノ最少面積		最少直視距離	
同	三、三三	同	四、〇〇米突
同	三六	同	四、三三
同	四、〇〇	同	四、六六
同	四二、三三	同	五、〇〇
同	四六、六六	同	五、三三
同	五〇、〇〇	同	五、六六
同	五三、三三	同	六、〇〇
同	五六、六六	同	六、三三

境界壁ニ面シ建テタル建物ニ於ケル住室ノ最少直視距離ハ五米突トス

內庭ニ面スル建物又ハ建物ノ一部分外劃線ハ第二條ニ揭ゲタルト同樣ノ則ニ據リ左表ノ如ク決定ス

最少直視距離	垂直線	弧線ヲ畫ク最大半徑	
四、〇〇米突	一三、〇〇米突	六、五〇米突	
四、六六	一四、〇〇	七、〇〇	
五、〇〇	一五、〇〇	七、五〇	
五、三三	一六、〇〇	八、〇〇	
五、六六	一七、〇〇	八、五〇	
六、〇〇	一八、〇〇	九、〇〇	
六、三三	一九、〇〇	九、五〇	
六、六六	二〇、〇〇	一〇、〇〇	

地階ヨリ上部ノ床ニ於テ地階ヨリ後部ニ退却シ建物又ハ其一部分ハ其各床ニ於ヲ構造ノ後部ニ下ル事ニヨリ面積及直視距離ニ變化ヲ生スル場合ニハ其レト同樣ノ內庭ニ面スル建物又ハ其一部分ニ就テ許可サレタル外劃線ノ範圍ニ於テ建築スル事ヲ得

各內庭ノ地盤ノ高低ハ他ノ內庭又ハ公道ニ關係セズ單獨ニ定ムルモノトス

內庭ニ面シ置カレタル階段ノ間ハ此階段ヲ使用スル最高ノ室ノ天井上ニ達スル迄ノ範圍ニ於テ前揭所定ノ外劃線ノ外ニ出スル事ヲ得

第十一條 住室ト雖モ單ニ厨房ノミノ光線ヲ取ル內庭ニ於テハ左ノ如ク外劃線ノ寸法ヲ變更ス

内庭ノ最少面積	最少直視距離	垂直線最高限	最大弧線半徑
一五、〇〇㎡	一一、〇〇米	六、〇〇米	
一六、六六	一一、八	一三、〇〇	六、五〇
一八、三三	一二、三三	一四、〇〇	七、〇〇
二〇、〇〇	一二、五〇	一五、〇〇	七、五〇
二一、六六	一二、七七	一六、〇〇	八、〇〇
二三、三三	一三、八三	一七、〇〇	八、五〇
二五、〇〇	一四、〇〇	一八、〇〇	九、〇〇
二六、六六	一四、一六	一九、〇〇	九、五〇
二八、三三	一四、三三	二〇、〇〇	一〇、〇〇

第十二條 中坪周圍ノ壁面ハ建物全体ニ就テ定メラレタル高迄上ル事

中坪ノ窓ノ中心ニ就テ測ラレタル直視距離ハ最少限一米突九十タルベシ

地階ノ内ニ設ケラルヽ家番ノ厨房ハ中坪ニ面シ光線及空氣ヲ取ル事ヲ得

建物中最高ノ床ニ於テ晝夜住室ニ充ツル室ハ光線及空氣ヲ中坪ヨリ取ル事ヲ得

第十三條 第九條ニ規定セル内庭及中坪ノ最少面積ハ新築又ハ讓與等如何ナル場合ニ於テモ之ヲ減スル事ヲ不得

第十四條 住室厨房便所等ニ使用スル室ニ空氣及光線ヲ取ル内庭及中坪ニハ上部ニ於テ其面積内庭又ハ中坪ノ三分ノ一ニ相當シ且高サ四十仙米突以上ナル垂直面ノ空虚ヲ有スル空氣拔ヲ付ケ又下部ニ於テハ面積八デシメートル平方以上ヲ有スル地下室ニ通スル空氣拔ヲ有スルニアラザレバ之ヲ硝子屋根ヲ以テ蓋フ事ヲ禁ズ但シ住室、厨房等ニ空氣及光線ヲ取ラザル場合ニハ此空氣拔ヲ必要トセザレトモ若シ中坪ノ下部ニ於テ外部ト交通ヲ遮斷サレ居ル場合ニハ通氣方ヲ施スモノトス

第十五條 總テ内庭及中坪ノ寸法ハ内法ヲ以テ測ルモノトス

第十六條 互ニ隣接セル家屋ノ所有者ガ共用ノ内庭又ハ中坪ヲ設クル事ヲ協定シタル時ハ其内庭及中坪ニ就テハ第九、十、十一、及十二條ニ掲グル一個ノ家屋ニ付屬スル内庭及中坪ニ就テ定メタル寸法ヲ應用スル事ヲ得

此場合ニ於テハ工事着手ニ於テ其協定セル事ヲ「セーヌ」縣知事ニ届ケ出テ且ツ其内庭及中坪ハ共同シテ保存スル事ヲ巴里市ニ對シ約束スベシ

如斯連續セル内庭及中坪ハ民法第六百六十三條ノ規定ニ據リ定メアル高ヲ有スル境壁ヲ以テ分界スル事ヲ得

第三章 各階ノ高サ

第十七條 公道、私有道路又ハ内庭ニ面スル建物ノ其如何ナル種類タルヲ不論地階又直ニ地階ノ上ニアル層ノ高サハ天井下端ヨリ床上端迄必ズ二米突八十仙以下タル事ヲ不得

地下室及其他上層ノ各階ハ天井下端ヨリ床上端迄ノ高二米突六十仙以下タル事ヲ不得

建物ノ最上層ノ一階ニハ前項ニ示ス高サハ傾斜ノ最高部ニ於テ測ルモノトシ且ツ周圍羽目ヲ繞ラス室ト雖モ少クモ二平方米突ノ水平ナル天井ヲ有スルモノトス

第二篇 建物ノ突出

第一章 一般ノ規定

第十八條 巴里市ニ於テ其街規線上ニ並列スルト否トヲ問ハズ建物外部ハ壁面ヨリ左記ノ規定ニ準シ許可サルヽモノヽ外公道上何物ト雖モ突出セシムル事

ヲ不得

第十九條　街規線上ニ並列スル建造物ニ於テハ其境界壁ノ前面ハ必ス街規線ヲ示スモノトス之カ爲メ地上ヨリ一米突五十仙ノ處ニ於テ此等ノ壁面上ニ最少限ニ十仙米突平方ノ壁面ヲ之ニ充ツルモノトス

第二十條　街規線上ニ並列シ又ハ街規線ヨリ退却シ居ル建物ト雖モ其許可サルヘキ突出ノ寸法ハ下ニ揭クル除外例ヲ除クノ外其建造物ノ存在スル箇所ノ道路ノ規定巾及退却セル建物ニ對シテハ其有効巾ニ依テ之ヲ定ム

總テ突出ハ街規線上ニ並列セル建物ニ於テハ街規線ヨリ又街規線上ニ並列セザル建物ニ於テハ其外部ノ壁面ヨリ測ルモノトス

道巾ノ計算上一米突ニ滿タザル端數ハ一米突ト計算ス

第二章　建物構造ノ大部分ニ固着スル突出

第二十一條　裝飾物側石窓椽及刎出シタル構造ノ爲建物ノ外面ヨリ突出スルモノヽ許可サルヘキ制限ハ左ニ示ス外劃ニ依テ決定ス

此外劃ハ二個ノ垂直線ヨリ成ルモノニシテ其一ハ上部ニ於テ歩道又ハ叩キノ上端ヨリ上ルモノトス

此ノ上下二個ノ表面ヲ分界スル線ノ位置ハ三十米突及其以上ノ道巾ヲ有スル町ニ於テハ歩道ヨリ上最少限三米突ノ處ニ置キ三十米突ヨリ狹キ巾ノ町ニ於テハ六米突ヨリ其道巾ノ十分ノ一ヲ減シタル尺度ヲ以テ其高サトス上部ニ於ケル此外劃ノ街規線ヨリ突出スル最大限ハ巾十米突以下ノ道路ニ於テハ其道巾ノ百分ノ八トシ又巾十米突以上ノ道路ニ於テハ六十仙米突ニ其道巾ノ百分ノ二ヲ加ヘタルモノトシ一米突二十仙ヲ以テ最大限トス

下部ニ於ケル外劃ノ突出ハ其上部ニ對シ許サルヽモノノ四分ノ一ヲ超エザルモノトシ又如何ナル塲合ト雖モ二十仙米突迄ニ爲スコトヲ得ルモノトス

建物外面ノ上部ニ於テハ必ズ街規線ニ一致スル壁面ヲ以テ裝飾物ノ底部トシ其壁面ノ面積ハ少クモ各階其窓ノ明キヲ減少タルモノノ十分ノ一ヲ存スル事ヲ要ス

第二十二條　建物外面上部ニ刎出シ構造ヲ造ル事ヲ得其總面積ハ其壁面ニ平行スル垂直面ニ於テ測リ如何ナル塲合ト雖モ其上部ノ面積ノ三分ノ一ヲ超過スル事ヲ不得街路ニ面シ數個外面ヲ有スル建物ハ許可サルヘキ刎出シ構造ノ面積計算ニ關シテ其各外面ヲ個別ニ取扱フモノトス

建物ノ角隅切リノ箇所ハ建築者ノ希望ニヨリ其分界スル二個ノ外面ノ內便宜其一方ニ算入スルモノトス

建物ノ兩端ニ於ケル構造ノ突出ハ其街規線ト四十五度ノ角度ノ爲シ其境界線ヨリ街規線上ニ就テ測リ二十五仙米突距リタル所ヨリ出ズル垂直面ヲ以テ界限トス

第二十三條　巾十六米突及其以上ノ道路ニ於テ窓椽ノ水平ニ突出スル總面積ガ各層ニ於テ許サルヘキ面積ノ四分ノ一以上ニ達セザル塲合ニハ其各窓椽ノ普通許可サル突出ノ四分ノ一ヲ增加スル事ヲ得

第二十四條　第二十一條ノ規定以外ノ建物ノ主ナル入口及地階ノ外部ニ付スル蛇腹ハ其突出ヲ普通建物外面ノ下部ニ對シ許可サルルトコロノ二倍トシ且ツ歩道上二米突五十仙ノ處迄下ケル事ヲ得

巾二十米突及ビ其以上ノ道路ニ於テハ主ナル入口ノ裝飾ハ其突出ヲ普通建物外面ノ下部ニ對シ許可サルルトコロノ二倍トシ之ヲ地表面迄下ケス事ヲ得

第二十五條　窓檻等ノ防護ニ使用スル各種鐵柵類ハ其蛇腹、窓檻及其他之レヲ附着スル突出物ニ就テ許可スルトコロヨリ尚二十五仙米突突出セシムル事ヲ得

第二十六條　屋根窓ノ上部並ニ棟飾リ等屋上ノ裝飾物ハ第三條ニ規定セル構造ノ外劃ヲ制限スル弧ノ半徑ニ建物外面上部ニ許可スル突出ノ寸法ヲ加ヘタルモノヲ半徑トシ同心圓ヲ畫キ其弧線以外ニ突出スル事ヲ不許

屋根窓ノ上部ノ巾ノ合計ハ建物前面ノ巾ヨリ本條例ニ於テ規定セル所ニヨリ公道上ニ面シ造リタル刎ネ出シ構造物ノ上部ノ巾ヲ減ジタルモノノ三分ノ二ヲ超過スル事ヲ不得

以上三項ニ揭ケル圓ノ弧線ハ四十五度ノ正切線ヲ以テ延長連續スルモノトス

刎ネ出シ構造ニ於テ其上部ガ屋根ヲ制限スル基線ノ上ニ出ズル部分ハ如何ナル場合ニ於テモ其前面ノ巾ノ三分ノ一以上タル事ヲ不得

第三章　構造ノ部分ヲ爲サヾル物体ノ突出

第二十七條　構造ノ一部分ヲ爲サヾル物体ニシテ構造ノ一部分ヲ爲ス突出物ニ對スル制限ノ外劃ヲ超過スル物体ハ歩道ノ角ヨリ水平ニ測リ五十仙米突以内ニ出ス事ヲ得ズ之等ノ物体ハ第二十九三十五條及三十六條ニ揭ケル除外例ノ外歩道面ヨリ測リ三米突以上ニアラザレバ之ヲ取付ケル事ヲ不得

店舗ノ前面入口地覆及巾木

第二十八條　店舗ノ前面ノ突出ハ其入口地覆石及巾木等ヲ含ミ建物外面下部ニ對シ規定サレタル外劃ノ内ニ納ムルモノトス

店舗前面ノ蛇腹及蛇腹下幕板並ニ之ニ付着スル裝飾

第二十九條　店舗前面ノ蛇腹及蛇腹下ノ幕板並ニ之レニ附着スル裝飾物ノ突出ハ道巾ノ百分ノ三ヲ超過セザルモノトシ其最大限ヲ八十仙米突トス又道巾ノ廣狹ヲ不論之レ等ハ五十仙米突迄出スコトヲ得

店舗前面ノ鐵柵、店舗戸締リ用ノガラリ戸之類、柱、額縁、大硝子窓、格組取付物裝飾用鏡板等地階及直ニ其上層ニアル床ノ高サノ内ニアルモノ及額縁ノ繰形

第三十條　店舗前面ノ鐵柵、店舗戸締リ用ガラリ戸ノ類柱額縁大硝子窓格取付物裝飾用鏡板等地階及直ニ其上層ニアル床ノ高サノ内ニアルモノ及額縁ノ繰形等ノ突出ハ建物外面下部ニ對シ定メタル外劃ヲ超過スル事ヲ不得

窓ノ鐵柵ガラリ戸鐵戸目透戸其他

第三十一條　建物各層ニ於ケル窓ノ鐵柵ガラリ戸鐵戸目透戸其他ノ突出ハ建物外面下部ニ對シ定メタル外劃ヲ超過スル事ヲ得不

建物外部ニ於ケル商品陳列臺

第三十二條　建物外部ニ於ケル商品陳列臺ノ突出ノ最大限ハ建物外面下部ノ突出ノ外劃ノ二倍トス

地階ノ直ニ上層ニアル床以上ニ商品ノ陳列ヲ爲ス事ヲ不許

看板、形容物徽章貸家札大看板（看板ヲ書キタル大ナル幕板）硝子製持送リ体ノ脇障子中ニ燈器ノ裝置シタル硝子箱時計持送リ又ハ腕木ニ取付ケタルカ或ハ取外シヲ爲ス燈器其他此種ノ物体

第三十三條　看板形容物徽章貸家札大看板（看板ヲ書キタル大ナル幕板）硝子製持送リ体ノ脇障子中ニ燈器ヲ裝置シタル硝子箱時計持送リ又ハ腕木ニ取付ケタルカ或ハ取外シヲ爲ス燈器其他此種ノ物体ノ突出ノ最大限ハ左ノ如ク定ム

第一　此等ノ物体ノ最大ナル寸法ガ建物前面ノ壁ト並行スル時ハ建物外面下部ニ於ケル突出ハ外劃ト同一トス高サニ於テハ第二十六條ノ第一項ニ示ストコロノ弧線以外ニ出ツル事ヲ不得

第二　此等ノ物体ノ最大ナル寸法ガ建物前面ノ壁ト直角ヲ爲ストキハ道巾ノ十分ノ一トシ其最大限ハ二米突ニ止ム高サニ於テハ突出ニ於テ許可サルヽト同一ニシテ其巾ハ同ジク突出ノ半ニ止マルモノトス

臺受及物体ヲ取付クルニ用フルモノモ此寸法ノ内ニ含ムモノトス

硝子庇硝子製對立廂布製日除庇

第三十四條　硝子庇同對立日除等ノ突出ハ其受ケ物ヲ含ミ三米突ヲ超過スル事ヲ不得

此等ノ物体ノ突端ヨリ歩道ノ角迄ハ五十仙米突以下ナル事不得

セーヌ縣知事ハ三米突以上ニ及ビ其處ニ定着スル硝子庇ヲ設クル事ヲ許可スル事ヲ得、此場合ニハ各々特ニ其道路及歩道ノ巾並ニ交通ノ便否等考究ノ上其突出ヲ査定ス

此等ノ物体ノ高サハ受ケヲ除キ其高一米突ヲ起過スル事ヲ不得

此等ハ手欄ヲ附ケ又ハ窓様ニ利用スル事ヲ不許

此等ハ公設ノ燈器町名標札等ヲ隱サヽル樣設置スベシ

硝子庇ノ屋根ハ半透明ノモノヲ以テ蓋ヒ且ツ硝子ノ墜落ニ因テ通行ニ危害ヲ及ホサヽル樣必要ノ防護法ヲ施スベシ

受ケ持チ送リ其他ノ附屬物ノ部分ハ何レモ歩道上三米突以上ニアラザレバ取付クル事ヲ不許

建物ノ前面ニ歩道ノ無キ時ハ如何ナル場合ト雖モ此等ノ設置ヲ不許

第三十五條　（甲）地階ニ於ケル日覆幕窓ノ日除地階ニ於ケル日覆幕窓ノ日除ケノ突出ノ最大限ハ三米突トス此等ノ突端ヨリ歩道ノ角迄ノ距離ハ五十仙米突以下タル事ヲ不得

飾リ緣リ腕木受鐵物其他總テ日覆ノ附屬物ハ歩道上二米突五十仙ニ止ムルモノトス

日覆幕ハ實際可働的ノモノニシテ如何ナル場合ト雖モ決シテ取付限リニ爲ス事ヲ不許加之ナラズ此等ノモノハ公設燈器及ビ町名標札等ノ邪魔ニナラザル樣可致事

前面ニ歩道ナキ建物ノ前ニハ一切此

等ノ物体ヲ取付クル事ヲ不許

（乙）地階以上ノ各層ニ於ケル日覆幕亜ニ窓日除ケ

各層ニ於ケル日覆及日除ケノ突出ハ大ナル窓椽ヲ有セサル各窓ノ前ニ於ケル場合ニハ八十仙米突ヲ超過スル事ヲ不得

刎出シ構造ノ場合ニハ此突出ハ其構造ノ壁面ヨリ測ルモノトス

大ナル窓椽ヲ有スル窓ノ前ニ於ケル日覆或ハ日除ケハ其窓椽ノ長サ及ヒ突出ト同一ト爲ス事ヲ得然レトモ五突出ハ如何ナル場合ト雖モ八十仙米突トナス事ヲ得

建物ノ上部ニ於テ其前面退却シ居ル層ノ前ニ日覆或ハ日除等ヲ取付クル事ヲ得但シ此場合ニハ其突出ハ規定ノ屋上突出物ノ制限ヲ超過スル事ヲ不得

第三十六條　（甲）罐形日覆

幌形日覆ノ突出ハ五十仙米突ヲ超過スベカラズ

此等ノ物体ハ少クモ歩道上二米突五十仙以上ニ取付クベシ

（乙）燭華（イルミナーション）

燭華ノ金物ノ突出ノ最大限ハ規定ノ外劃ノ外即チ其レヲ取付クル物体ノ突出ノ制限ヨリ五十仙米突トス

（丙）竪樋

堅樋ハ建物外面下部ニ對シ許可サルヽ外劃ノ内ニ納ムルモノトス

（丁）蛇腹下呼樋即チ鈑鰷

軒蛇腹下呼樋ノ突出ハ規定ノ外劃内ニ納ムルモノトス然レトモ如何ナル場合ニ於テモ三十五仙米突迄ニ爲ス事ヲ得

第四章　建物前面ニ於ケル假設物ノ許可サルベキ突出

第三十七條　街規線ヨリ退却シ居ル建物ガ街規上ニ建テラレタル二個ノ建物ノ間ニアルトキハ其凹處ヲ假設物又ハ假小舍ヲ以テ圍ヒ込ム事ヲ得

此等ノ構造物ハ如何ナル場合ニ於テモ地階ノ高サヲ超ユル事ヲ不許

此等ノ出願ニ關シテハ警視總監其考査ニ與カルモノトス

第三篇　特別及過度期ニ於ケル一時的ノ規定

第三十八條　本條ニ依リ規定セラレタル制限ヲ起過スル突出物ニシテ現存セルモノ自今其一部分ト雖モ之レヲ一層強固ニ修理スル事ヲ不許又不良ノ狀態ニアル一部分ヲ修理スル時ハ規定ノ突出制限以内ニ於テ改修スベシ

然レドモ場合ニヨリ其古物ガ考古學上又ハ藝術上參考トナルベキ性質ノモノハ「セーヌ」縣知事ノ許可ヲ受ケタル上強固ニ改收スル事ヲ得

第三十九條　建物外面下部ニ對シ許可スル突出以外ニアル段石踏場通路地下室ノ入口其他ノ街規線上ニアリ且ツ公道ノ地表面内ニ存スルモノヲ改設模様替又ハ修理スル事ヲ不許

然レドモ此等ノ工事ガ道路面ノ高低變更ノ爲メ必要ナル場合ハ除外例トシテ之ヲ取扱フ

本條例發布ノ時既ニ其建物ノ本体ガ街規線ニ觸レ居リ其レヨリ突出シ居ルモノニ附隨シ居ル段石踏場通路地下室ノ入口等ハ其本体ノ建物ヲ改築スル迄現狀ノ儘保存シ又必要ニ應ジテハ之ヲ改修スル事ヲ得

第四十條　建物外面下部ニ對シ許下サレ居ル突出ノ制限外ニ建物又ハ外構壁ノ面ヨリ石標等ノモノヲ設クル事ヲ不許本條例發布ノ當時歩道ヲ有セザル道路上ニ存在スル石標ノ類ハ歩道ヲ設クル場合ニハ之レ撤却スベシ

第四十一條　如何ナル性質タルヲ不論煙管ヲ建物前面ノ壁面ニ取付ケ又ハ公道上ニ其吐口ヲ設クル事ヲ禁ズ

普通家事向キヨリ生ズルカ又ハ工業上ヨリ生ズルカヲ不論其汚水ヲ流通セシムル爲メ如何ナル種類タルヲ不問溜又ハ受器ノ類ヲ公道上ニ突出シテ設クル事ヲ不得煙管及家事又ハ工業上ヨリ生ズル汚水受器ノ類並ニ地階ニ使用シアル鐵戸ガラリ戸等ノ外開キモノハ之レヲ修理シ又ハ取換フル事ヲ不許

第四十二條　第十九條ニ揭クルトコロノモノヲ除クノ外總テ前揭ノ規定ハ公共ノ建造物ニハ之ヲ適用セザルモノトス

第四十三條　「セーヌ」縣知事ハ私有ノ建造物ニシテ紀念的ノ性質ヲ帶ブルカ又ハ藝術化學工業上必要アルトキハ内務長官ノ認可セル建築調査委員會ノ意見ニ徵シ本條例中建物ノ高サニ關スル規定ヲ適用セザル事ヲ得

又前同樣ノ手續キヲ經由シテ紀念的ノ性質ヲ帶ブ建物ニ制限外ノ突出ヲ許可スル事ヲ得

第四十四條　千八百八十二年七月二十二日付ケ及ビ千八百八十四年七月二十三日付ケノ條例ハ之ヲ廢止ス

第四十五條　參事院議長、内務及式典部長官ハ官報ニ揭載シ且ツ法令全誌ニ挿入セラルヽ本條例執行ノ任ヲ帶ブ

千九百二年八月十三日ランブイエーニ於テ之ヲ作ル

共和國大統領エミール、ルーベー

大統領之命ヲ奉ジ

參事院議長内務及式典部長官

エ、コレブ

役員及職員

理事長　片岡安（主計）

理事　池田一郎（編輯）　野村吾（編輯）　瀬戸文胖（編輯）　日高悌夫（主記）　波江松禹象

編輯補　伊藤正文　佐藤四郎　本田登

書記　岡部顯則　小谷信藏

會員	一一二	會員（地方）	二三
名譽賛助員	一七	終身賛助員	三〇
特別賛助員	一四	普通賛助員	二〇九

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
	十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁	貳拾圓
	裏表紙表	貳拾五圓

大正七年八月二十日印刷
大正七年八月廿五日發行　（每月壹回廿五日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）

發行兼編輯人　伊藤幸太郎

印刷兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地

印刷所　大阪活版所　大阪市東區今橋一丁目十一番地

發行所　關西建築協會　電話本局二二四一番　振替口座大阪三九、九七五